

**長野県民の結婚・出産・子育て
に関する調査**

報告書

平成 29 年 8 月

長野県将来世代応援県民会議

目次

1. 調査概要.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査設計.....	1
(3) 回答者基本属性.....	1
2. 調査結果.....	2
(1) 婚姻状況.....	2
(2) 独身者の結婚に対する意識.....	3
(3) 既婚者の結婚生活の状況.....	20
(4) 働き方に関する現状.....	25
(5) 出産や子育てに関する意識と現状.....	32
附属資料（調査票）.....	66

<報告書の見方>

- 調査結果の数値は、回答率（%：パーセント）で表示している。回答がない場合には、0.0の表示は省略している。
- 母数はその質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はnで示している。
- nが30未満の結果については、サンプル数が少ないため、参考値扱いとなる。
- %の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため各回答の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 回答は、単数回答（回答は1つ）の場合と複数回答（回答はいくつでも）の場合、数値を記入する場合とがある。複数回答の問の場合には、その回答割合（%）の合計は100%を超えることがある。
- TOTALと比較して統計的に有意な差（有意水準5%）がある結果を中心にコメントを記載している。
- 数表中のオレンジ色の箇所はTOTALの値よりも有意に高いことを示し、青い箇所はTOTALの値よりも有意に低いことを示している（いずれも有意水準5%）。
- 女性18～34歳の結果を記載しているところは、「希望出生率」の算出根拠となる問である。
「希望出生率」とは、若い世代における、結婚、妊娠・出産、子育てに関する希望が叶うとした場合に想定される出生率を指し、以下の式によって算出される。

$$\begin{aligned} \text{希望出生率} &= (\text{女性18～34歳の有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定する子どもの数} \\ &+ \text{女性18～34歳の独身者割合} \times \text{独身者のうち結婚を希望する者の割合} \\ &\times \text{独身者の希望する子どもの数}) \\ &\times \text{離死別等の影響} \end{aligned}$$

1. 調査概要

(1) 調査目的

長野県民の結婚・出産・子育てに対する意識や希望を調査し、「長野県将来世代応援県民会議」における事業の方向性の決定や平成30年度を初年度とする新たな子ども・若者支援のための計画の基礎資料等に活用する他、「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」の評価指標の検証に活用する。

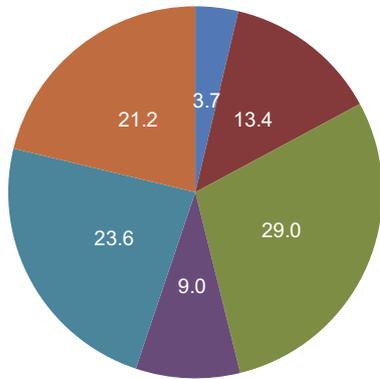
(2) 調査設計

調査方法	インターネット調査
調査対象	以下の条件に該当する者を、インターネットモニター（マイティモニター）より抽出した。 <対象者条件> ・性別・年齢：18～49歳男女 ・居住地域：長野県 ・長野県の性・年代構成に近くなるように回収を行う。
有効回収数	3,017
調査実施時期	平成29年7月14日～平成29年7月18日

(3) 回答者基本属性

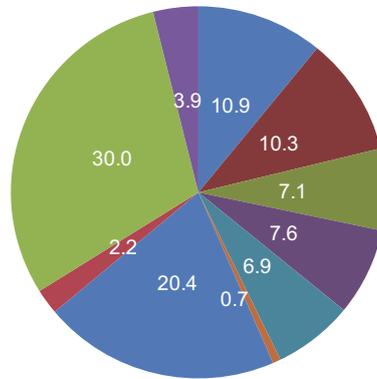
<性・年代>

- 男性10・20代
- 男性30代
- 男性40代
- 女性10・20代
- 女性30代
- 女性40代



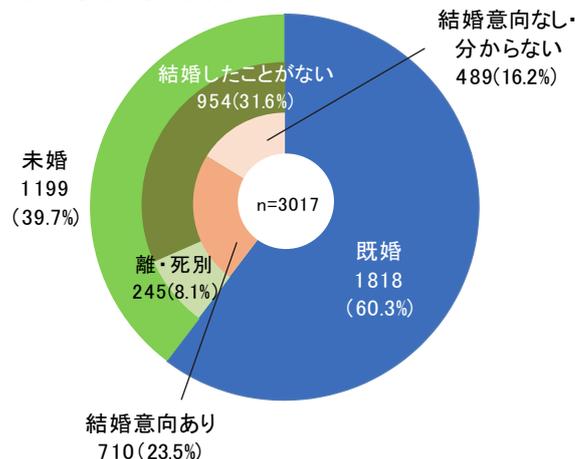
<居住地域>

- 佐久地域
- 上小地域
- 諏訪地域
- 上伊那地域
- 飯伊地域
- 木曾地域
- 松本地域
- 大北地域
- 長野地域
- 北信地域



※いずれも n=3,017 単位 (%)

(4) 回答者の結婚等に対する意向・実態



2. 調査結果

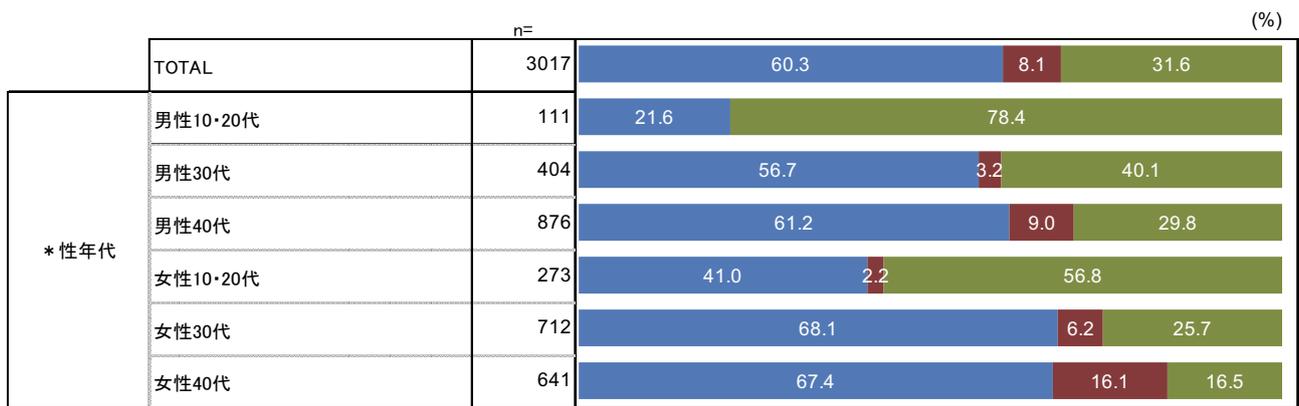
(1) 婚姻状況

問4 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。(回答は1つ)

既婚者の割合は60.3%、独身者の割合は39.7%である。

男性よりも女性は結婚している割合が高く、女性30代、40代は7割弱(30代:68.1%、40代:67.4%)が既婚である。

■ 現在、結婚(事実婚を含む)している ■ 結婚していたが、現在は離・死別した ■ 結婚したことはない



(2) 独身者の結婚に対する意識

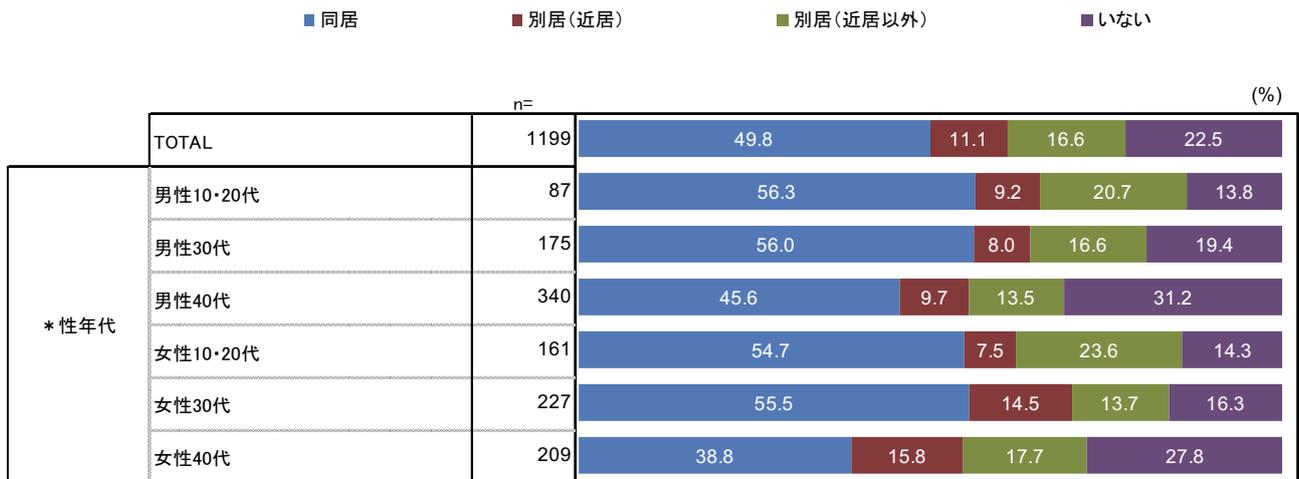
問5 あなたのご両親と現在のあなたとの同居／別居についてうかがいます。(回答は1つ)

【回答者：独身者】

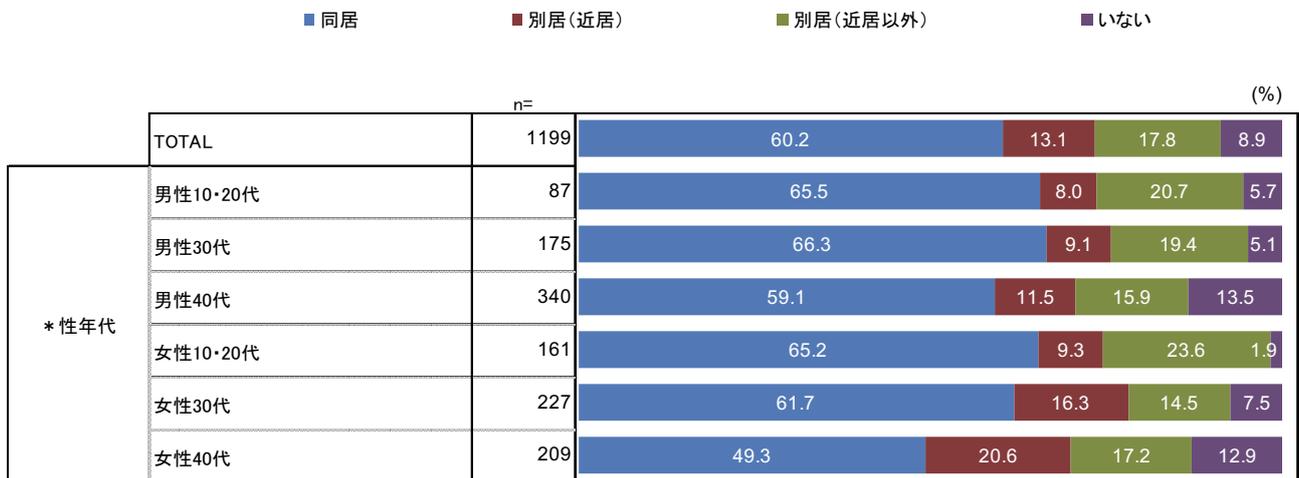
独身者のうち、父親と同居しているのは49.8%、徒歩で30分程度の別居(近居)は11.1%である。また、母親と同居しているのは60.2%、徒歩で30分程度の別居(近居)は13.1%である。

男女ともに10~30代では、父親・母親のどちらの場合も半数以上が同居している。また、女性40代では同居の割合は低く、徒歩で30分程度の別居(近居)の割合が高い。

① 父親との同居状況



② 母親との同居状況



問6 結婚について、あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください。(回答は1つ)
【回答者：独身者】

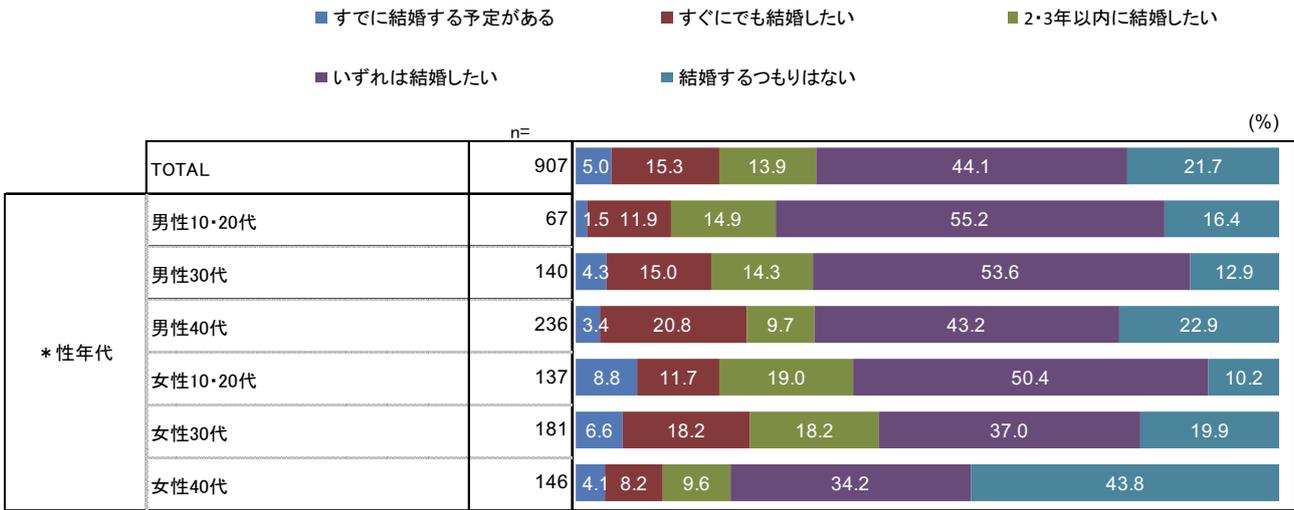
独身者の結婚意向としては、「いずれは結婚したい」が33.4%、「2・3年以内に結婚したい」が10.5%である。「すでに結婚する予定がある」、「すぐにでも結婚したい」と合わせると、6割(59.3%)は結婚意向があると回答している。

「わからない」の回答を除いた場合、結婚意向は78.3%となり、性・年代別にみると、女性10・20代の結婚意向が最も高く(89.9%)、女性40代の結婚意向が最も低い(56.1%)。

また、希望出生率の算出根拠となる「女性18-34歳」では、結婚意向は87.9%となった。



<「わからない」の回答を除いた場合>



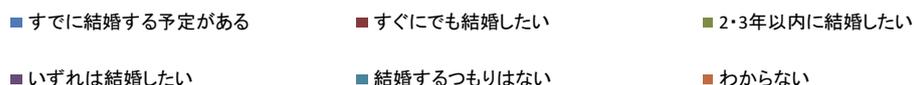
<女性18-34歳の場合> (希望出生率の算出根拠)



結婚意向を性・雇用形態別にみると、男性、女性とも「正規の社員・職員」では、結婚意向があると回答した割合は7割弱を占める。

一方で、男性の「パート・アルバイト」、「無職・家事」では、他の職業に比べて結婚意向が低く、「わからない」が4割である。

また、女性の「パート・アルバイト」、「派遣・嘱託・契約社員」、「無職・家事」では、「正規の社員・職員」に比べて早期の結婚意向（「すでに結婚する予定がある」、「すぐにでも結婚したい」、「2・3年以内に結婚したい」の合計）が低い様子がうかがえる。



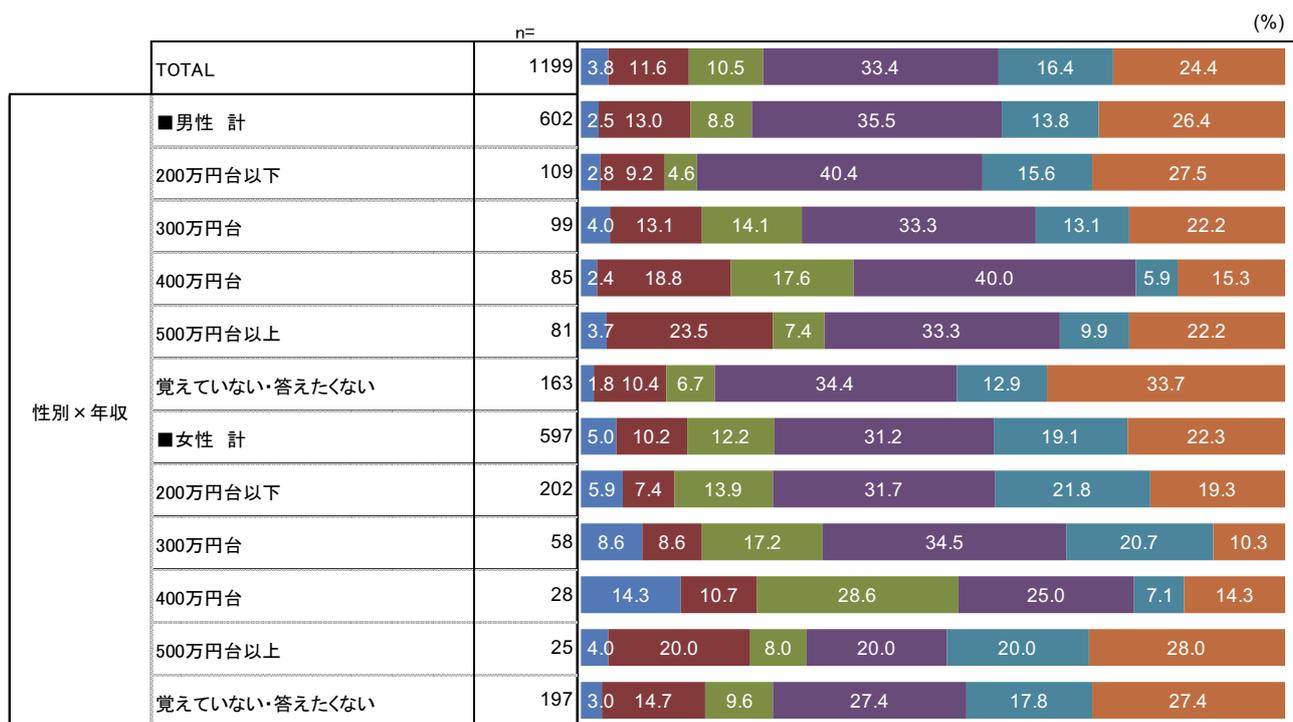
		n=	(%)					
TOTAL		1147	3.9	11.7	10.7	32.4	16.5	24.8
性別×雇用形態	■男性 計	581	2.6	13.1	9.0	34.9	13.6	26.9
	正規の社員・職員	355	2.3	15.2	12.1	36.6	10.1	23.7
	パート・アルバイト	55	1.8	5.5		30.9	18.2	38.2
	派遣・嘱託・契約社員	59	5.1	16.9	3.4	33.9	11.9	28.8
	自営業主・家族従業員	68	4.4	11.8	4.4	39.7	16.2	23.5
	無職・家事	44	2.3	2.3	20.5	34.1		40.9
	■女性 計	566	5.3	10.2	12.5	29.9	19.4	22.6
	正規の社員・職員	261	7.7	13.4	14.9	29.9	14.2	19.9
	パート・アルバイト	150	4.0	10.0	10.0	28.0	24.0	24.0
	派遣・嘱託・契約社員	74	1.4	8.1	14.9	31.1	20.3	24.3
	自営業主・家族従業員	25	4.0	4.0	8.0	28.0	40.0	16.0
	無職・家事	56	3.6	1.8	7.1	33.9	21.4	32.1

※なお、「学生 40 人」「その他 12 人」を除いて計算している。

結婚意向を性・年収別にみると、男性は年収が高い方が結婚意向も高い傾向にあり、年収 400 万円台、500 万円台以上では 2 割前後（400 万円台：18.8%、500 万円台以上：23.5%）が「すぐにでも結婚したい」と回答している。

女性もおおむね同傾向であるが、年収 200 万円台以下、300 万円台では「結婚するつもりはない」が 2 割（200 万円台以下：21.8%、300 万円台：20.7%）を占め、高い割合である。

- すでに結婚する予定がある
- すぐにでも結婚したい
- 2・3年以内に結婚したい
- いずれは結婚したい
- 結婚するつもりはない
- わからない

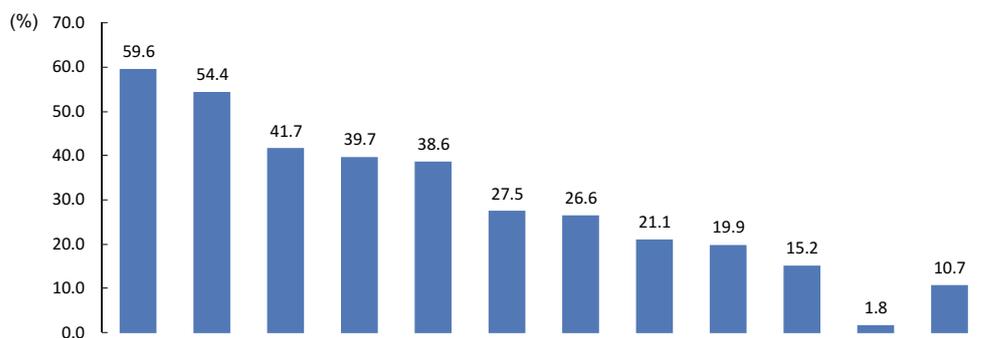


問7 あなたが結婚を考えたとき、次の中ではどのようなことが気になりますか。
 (回答はいくつでも) 【回答者：結婚予定がある、または意向がある者】

結婚を考えたときに気になることとしては、「相手の両親とうまく付き合えるか」(59.6%)が最も高く、以下「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(54.4%)、「お金を自由に使えるか」(41.7%)と続く。

性・年代別にみると、女性の方が結婚にあたって気になることを多くあげており、特に「相手の両親とうまく付き合えるか」、「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」、「住む場所が制約されないか」、「ファッションや食べ物などの好み制約されないか」、「職業を自由に選べるか」といった項目の割合が高いことから、ライフスタイルの変化に対する懸念が強いことがうかがえる。

① 性・年代別

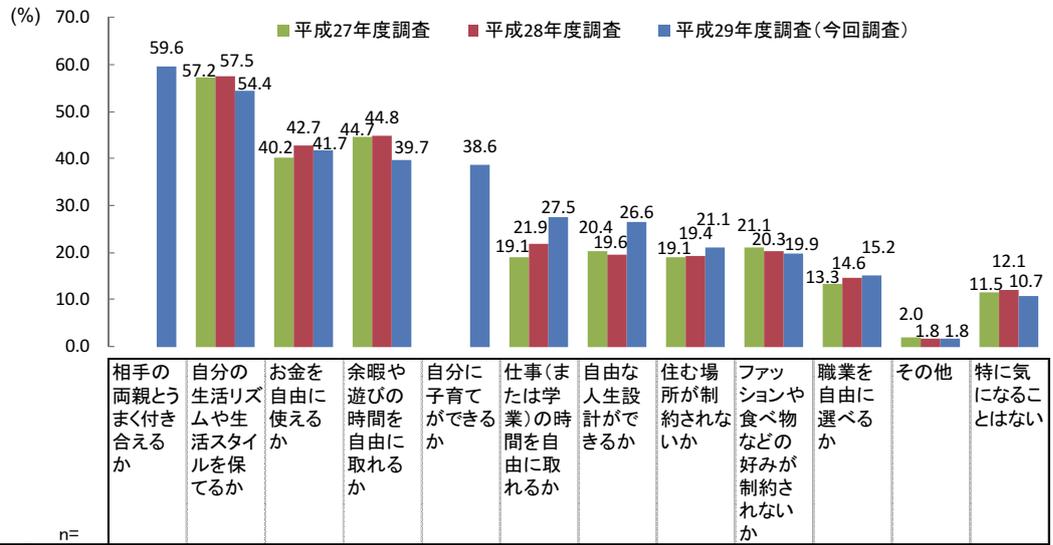


		n=	相手の両親とうまく付き合えるか	自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	お金を自由に使えるか	余暇や遊びの時間を自由に取れるか	自分に子育てができるか	仕事(または学業)の時間を自由に取れるか	自由な人生設計ができるか	住む場所が制約されないか	ファッションや食べ物などの好み制約されないか	職業を自由に選べるか	その他	特に気になることはない
	TOTAL	710	59.6	54.4	41.7	39.7	38.6	27.5	26.6	21.1	19.9	15.2	1.8	10.7
* 性年代	男性10・20代	56	48.2	46.4	48.2	42.9	39.3	30.4	32.1	16.1	12.5	16.1	0.0	8.9
	男性30代	122	50.8	36.9	41.0	38.5	40.2	23.8	23.8	13.9	12.3	15.6	3.3	16.4
	男性40代	182	50.0	48.9	38.5	37.4	33.5	18.7	24.7	15.9	11.5	8.2	1.6	13.7
	女性10・20代	123	65.9	65.0	39.8	44.7	52.8	36.6	23.6	23.6	29.3	16.3	0.0	7.3
	女性30代	145	73.1	63.4	46.9	38.6	43.4	31.7	30.3	29.0	27.6	22.1	3.4	6.9
	女性40代	82	68.3	65.9	39.0	39.0	17.1	29.3	29.3	29.3	26.8	15.9	1.2	8.5

平成 27～29 年度調査（今回調査）までの経年変化をみると、今回新たに追加した「相手の両親とうまく付き合えるか」が最多となっている。

性別にみると、上位の「相手の両親とうまく付き合えるか」及び「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」をはじめ多くの項目で男性に比べて女性が高くなっている。

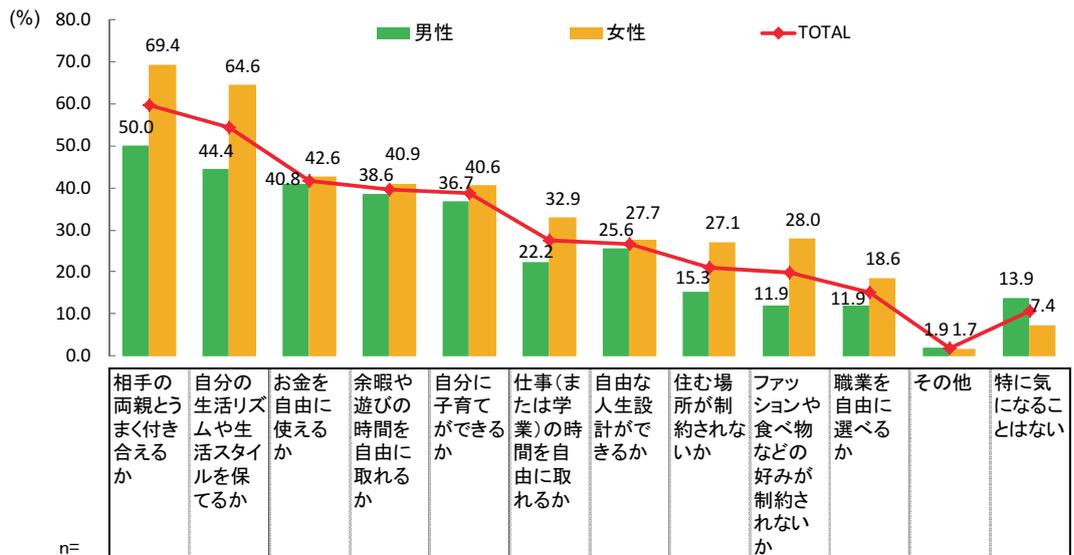
② 平成 27～29 年度調査（今回調査）までの経年変化



n=	平成29年度調査 (今回調査)	平成28年度調査	平成27年度調査
相手の両親とうまく付き合えるか	710	-	-
自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	710	782	892
お金を自由に使えるか	710	782	892
余暇や遊びの時間を自由に取れるか	710	782	892
自分に子育てができるか	710	-	-
仕事(または学業)の時間を自由に取れるか	710	782	892
自由な人生設計ができるか	710	782	892
住む場所が制約されないか	710	782	892
ファッションや食べ物などの好みが増えるか	710	782	892
職業を自由に選べるか	710	782	892
その他	710	782	892
特に気にならない	710	782	892

※グラフは今回調査の順でソート

③ 性別

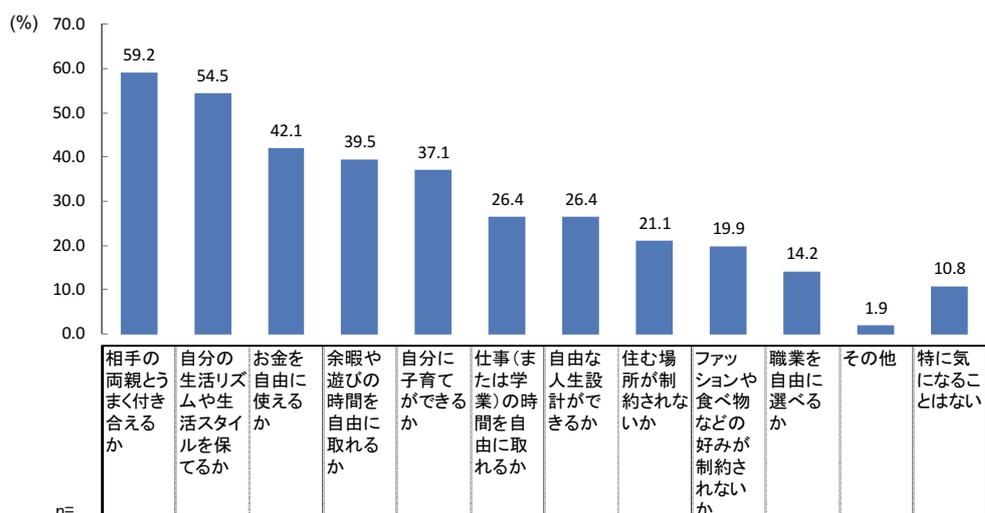


n=	TOTAL	男性	女性
相手の両親とうまく付き合えるか	710	360	350
自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	710	360	350
お金を自由に使えるか	710	360	350
余暇や遊びの時間を自由に取れるか	710	360	350
自分に子育てができるか	710	360	350
仕事(または学業)の時間を自由に取れるか	710	360	350
自由な人生設計ができるか	710	360	350
住む場所が制約されないか	710	360	350
ファッションや食べ物などの好みが増えるか	710	360	350
職業を自由に選べるか	710	360	350
その他	710	360	350
特に気にならない	710	360	350

※グラフはTOTALの順でソート (TOTALの順でソート)

結婚を考えたときに気になることを性・雇用形態別にみると、正規の社員・職員の女性は「相手の両親とうまく付き合えるか」(70.9%)、「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(68.0%)、「仕事(または学業)の時間を自由に取れるか」(32.6%)、「住む場所が制約されないか」(27.9%)、「ファッションや食べ物などの好みは制約されないか」(25.6%)といったライフスタイルの変化に対する懸念が強い。

また、パート・アルバイトの女性は「職業を自由に選べるか」(24.4%)を気になることとしてあげる割合が高い。



性別 × 雇用形態	n	相手の両親とうまく付き合えるか	自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	お金を自由に使えるか	余暇や遊びの時間を自由に取れるか	自分に子育てができるか	仕事(または学業)の時間を自由に取れるか	自由な人生設計ができるか	住む場所が制約されないか	ファッションや食べ物などの好みは制約されないか	職業を自由に選べるか	その他	特に気になることはない
TOTAL	674	59.2	54.5	42.1	39.5	37.1	26.4	26.4	21.1	19.9	14.2	1.9	10.8
■男性 計	346	49.4	44.5	40.5	37.6	35.3	21.1	24.9	14.7	11.8	11.3	2.0	14.5
正規の社員・職員	235	48.9	46.0	40.9	36.6	34.0	19.6	23.4	14.0	11.9	7.7	1.7	16.2
パート・アルバイト	24	54.2	41.7	66.7	45.8	37.5	37.5	41.7	8.3	12.5	29.2	0.0	4.2
派遣・嘱託・契約社員	35	62.9	45.7	34.3	40.0	48.6	11.4	31.4	14.3	11.4	14.3	2.9	8.6
自営業主・家族従業員	41	41.5	41.5	29.3	39.0	31.7	26.8	24.4	19.5	14.6	14.6	4.9	14.6
無職・家事	11	36.4	27.3	36.4	27.3	27.3	27.3	0.0	27.3	0.0	27.3	0.0	18.2
■女性 計	328	69.5	64.9	43.9	41.5	39.0	32.0	28.0	27.7	28.4	17.4	1.8	7.0
正規の社員・職員	172	70.9	68.0	42.4	43.6	41.9	32.6	27.3	27.9	25.6	14.5	1.7	5.8
パート・アルバイト	78	61.5	61.5	39.7	37.2	29.5	33.3	28.2	24.4	26.9	24.4	3.8	9.0
派遣・嘱託・契約社員	41	75.6	65.9	48.8	43.9	39.0	36.6	29.3	34.1	41.5	14.6	0.0	7.3
自営業主・家族従業員	11	63.6	54.5	45.5	36.4	27.3	36.4	54.5	36.4	27.3	27.3	0.0	9.1
無職・家事	26	76.9	57.7	57.7	38.5	53.8	15.4	19.2	23.1	30.8	15.4	0.0	7.7

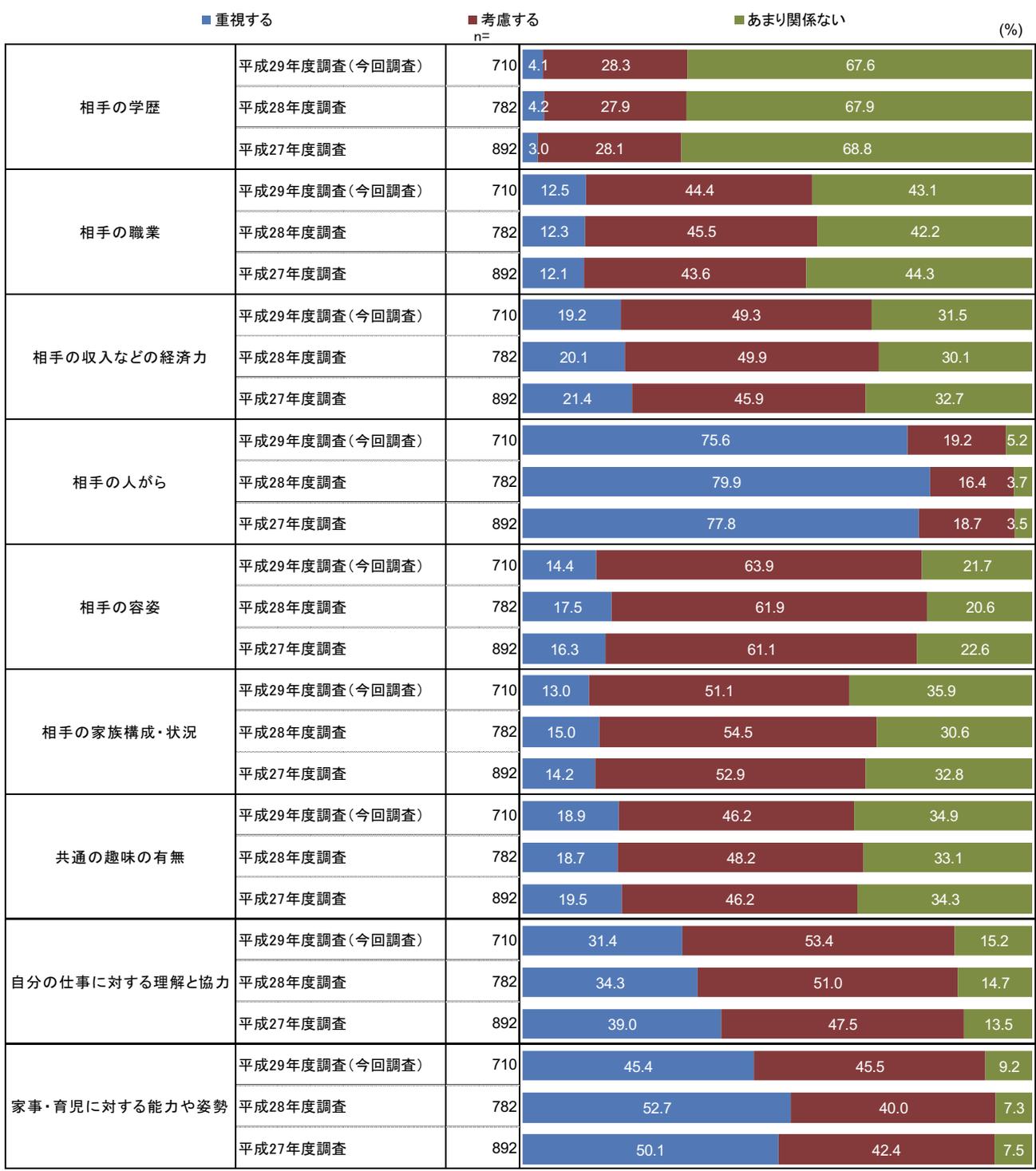
※なお、「学生 27 人」「その他 9 人」を除いて計算している。

問8 あなたは結婚相手を決めるとき、次の項目についてどの程度重視しますか。(回答は1つ)
【回答者：結婚予定がある、または意向がある者】

結婚相手を決めるときに重視する割合が高いのは、「相手の人から」(75.6%)、「家事・育児に対する能力や姿勢」(45.4%)、「自分の仕事に対する理解と協力」(31.4%)といった項目である。

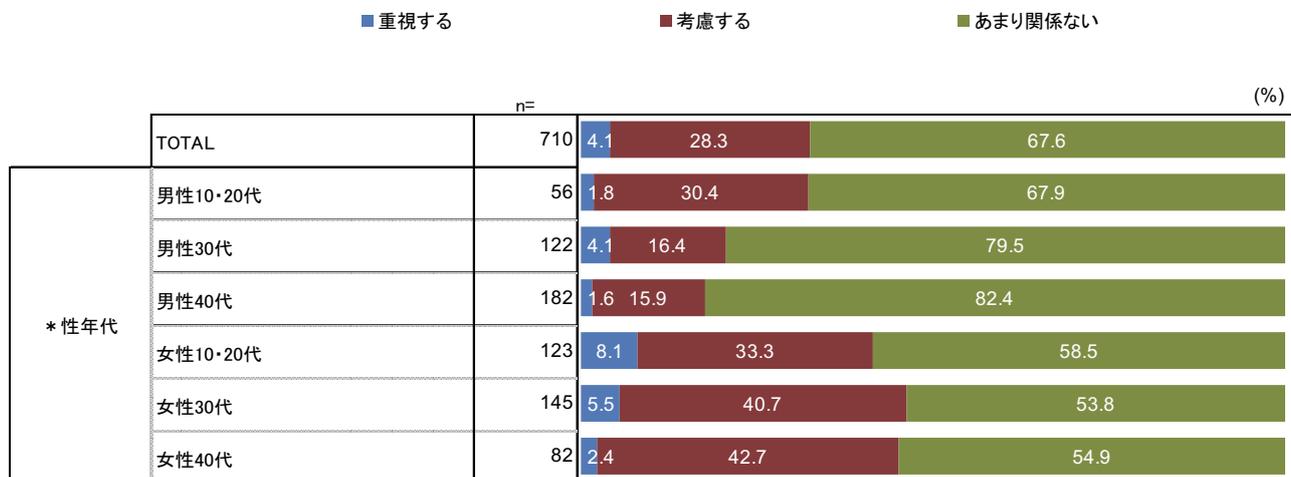
一方、「相手の学歴」、「相手の職業」などはあまり関係ないとする割合が高い。

平成27～29年度調査(今回調査)までの経年変化をみると、「自分の仕事に対する理解と協力」については「重視する」との回答が低下傾向を示している。

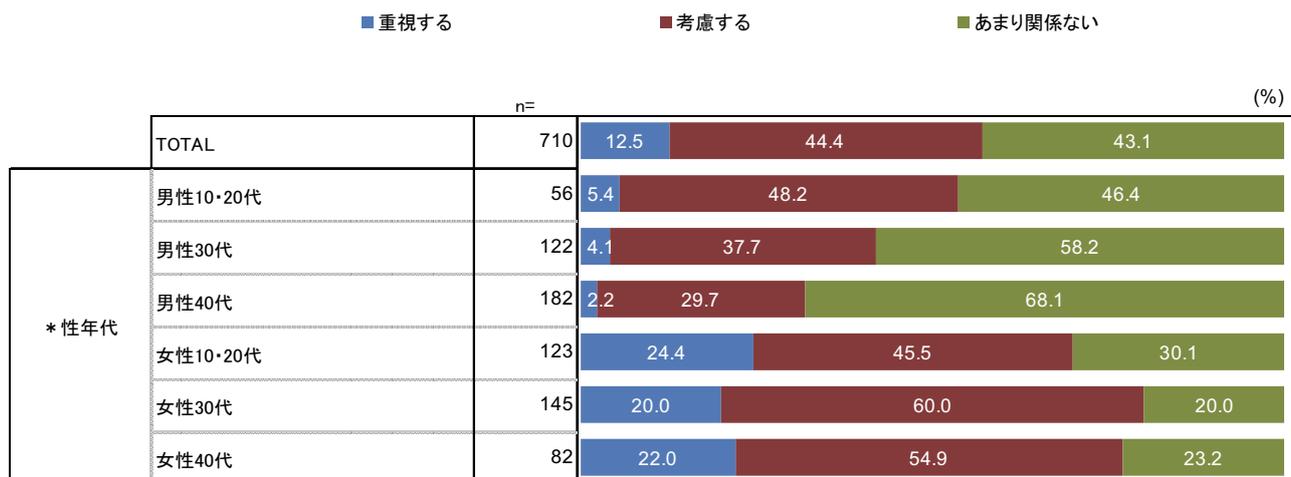


相手の学歴、職業、収入などの経済力は、いずれも女性の方が「重視する」または「考慮する」と回答する割合が高い。特に職業と経済力に対する考え方は男女差が大きく、女性では職業を重視するとの回答が2割強、経済力を重視するとの回答が3割強にのぼるのに対し、男性ではどちらも1割未満である。

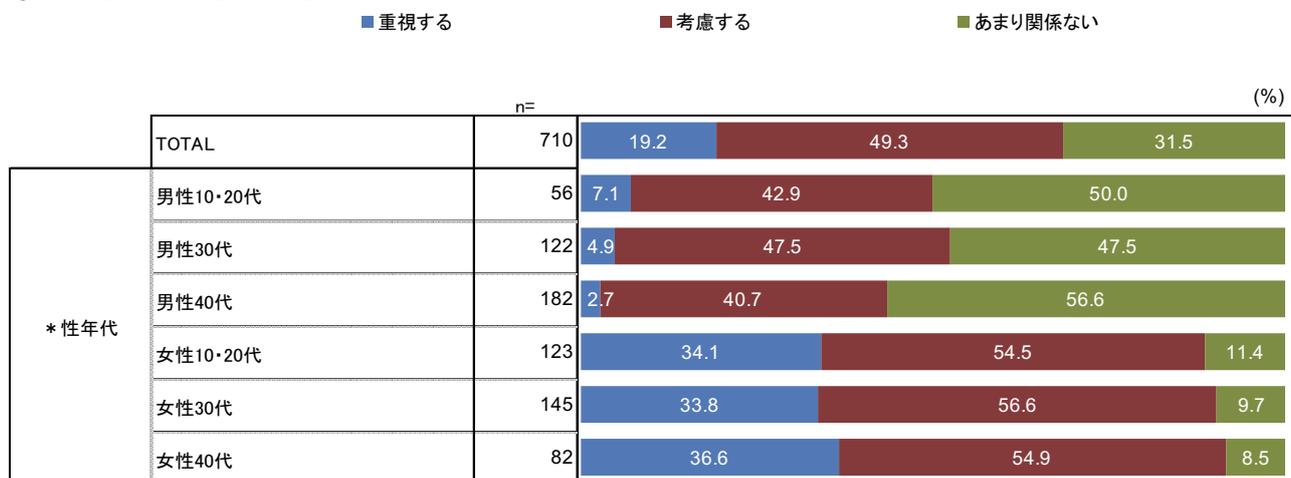
① 相手の学歴



② 相手の職業



③ 相手の収入などの経済力



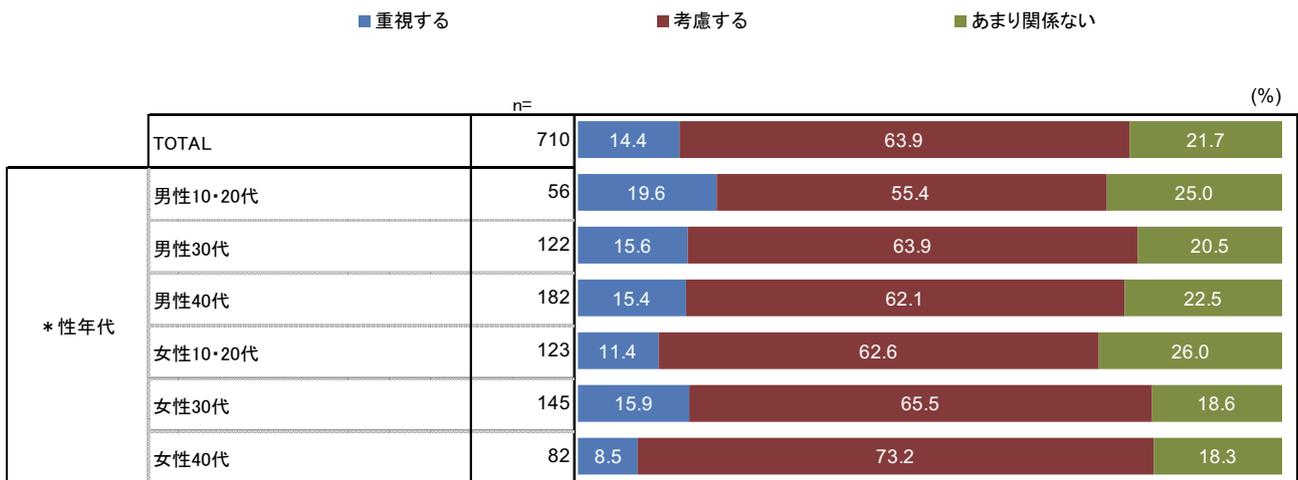
相手の人がらについては、女性の方が重視する割合が高く、いずれの年代でも8割を超える。
相手の容姿を重視するのは男女ともに1～2割である。

家族構成・状況を重視するのは男性では1割前後であるのに対し、女性では2割前後と、女性の方が重視する傾向にある。

④ 相手の人がら



⑤ 相手の容姿



⑥ 相手の家族構成・状況

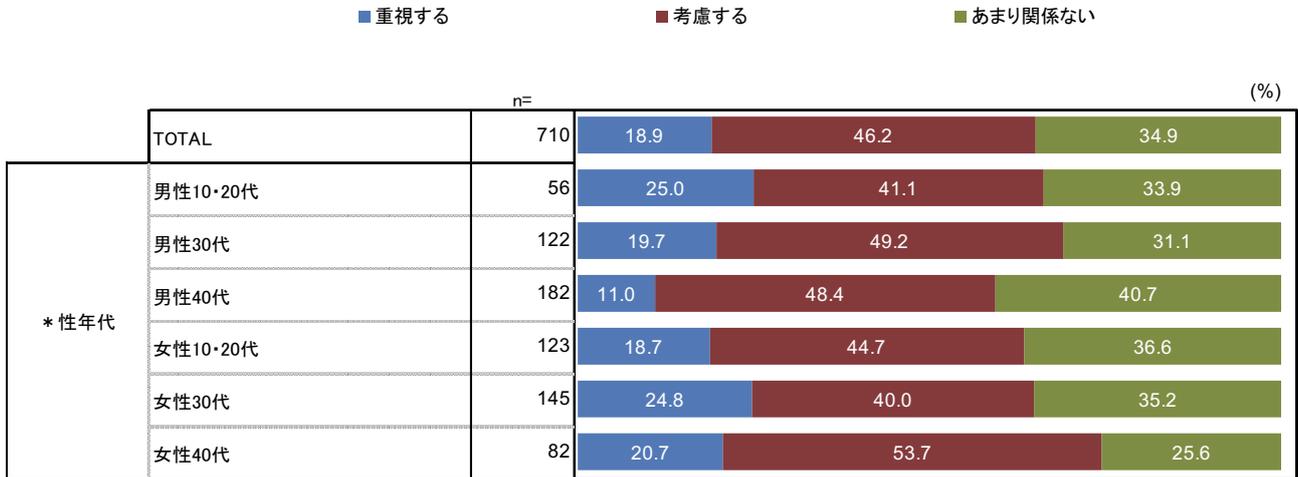


共通の趣味の有無については、男性 40 代で重視する割合が 11.0%と低い。

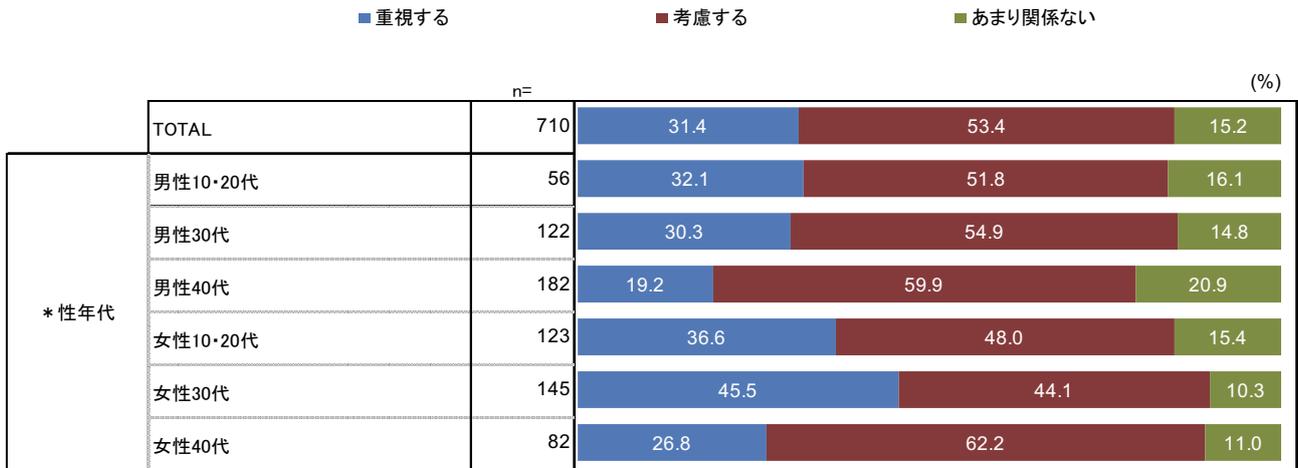
自分の仕事に対する理解と協力については、女性 10・20 代 (36.6%)、女性 30 代 (45.5%) で重視する割合が高く、男性 40 代で 19.2%と低い。

家事・育児に対する能力や姿勢については、男性 30 代、女性 10・20 代、女性 30 代の半数以上が重視すると回答している。

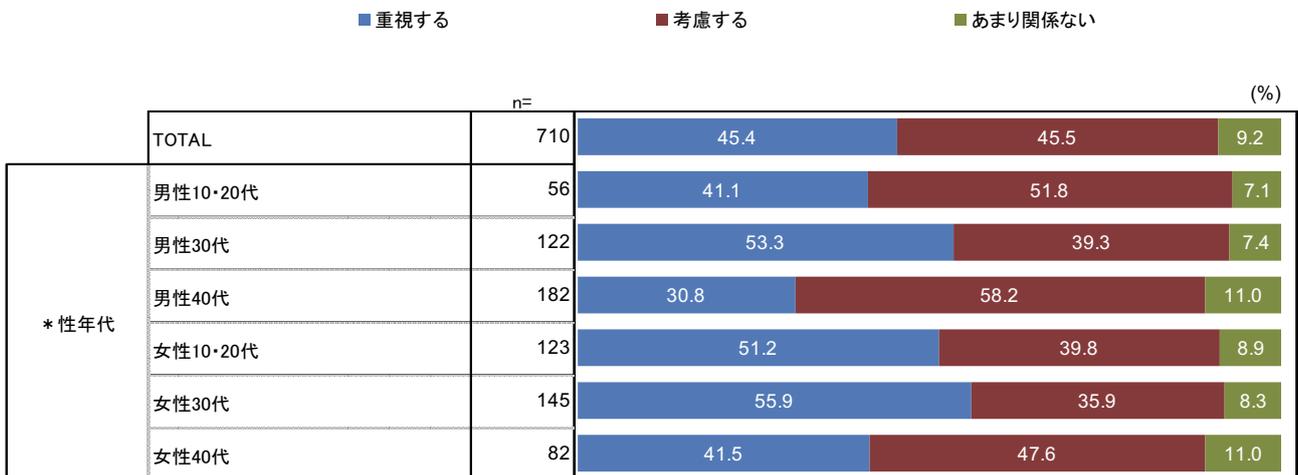
⑦ 共通の趣味の有無



⑧ 自分の仕事に対する理解と協力



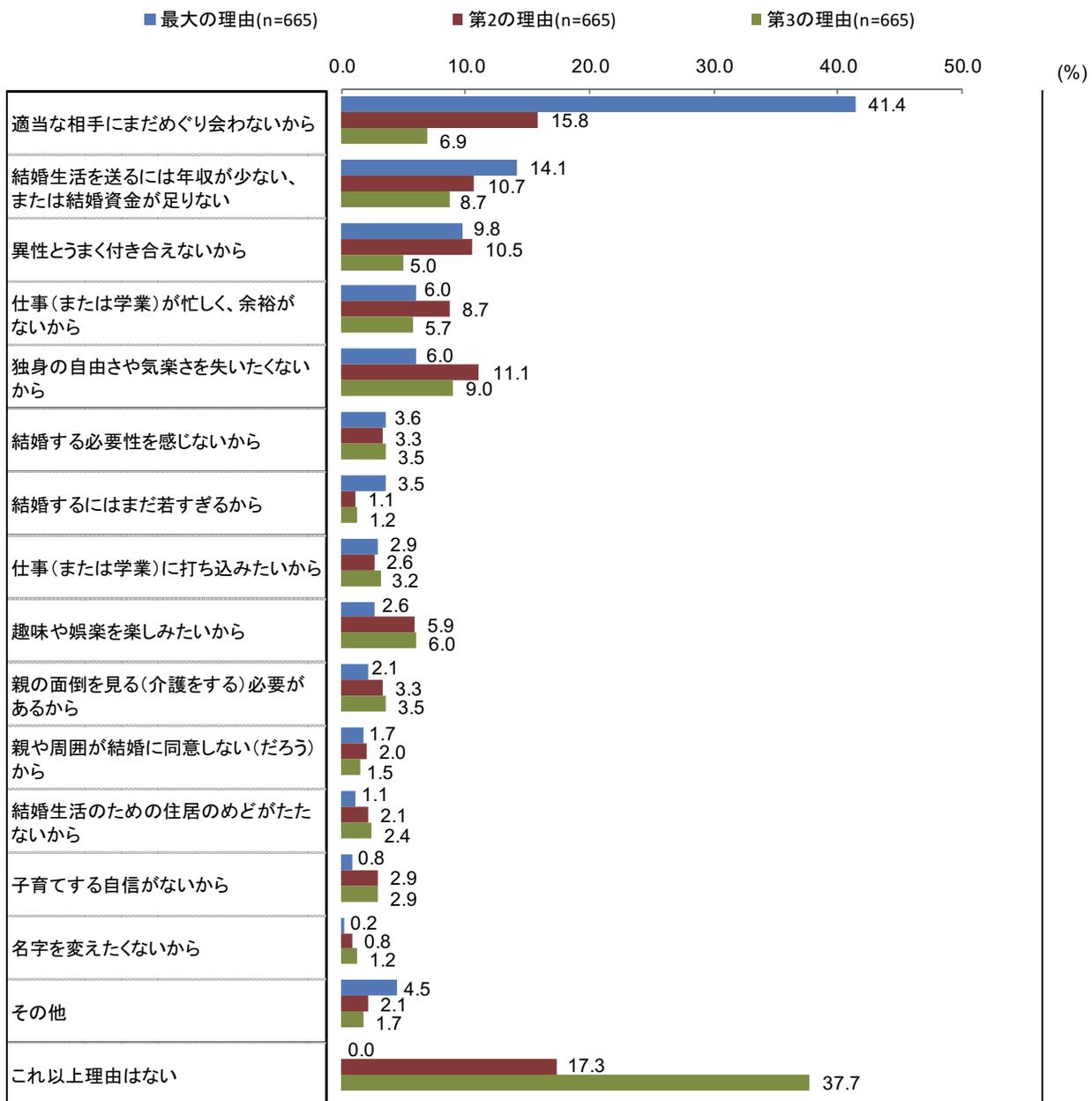
⑨ 家事・育児に対する能力や姿勢



問9 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。最大の理由、第2の理由、第3の理由をそれぞれお答えください。(回答は1つ)
 【回答者：結婚意向がある者、または結婚意向がない者】

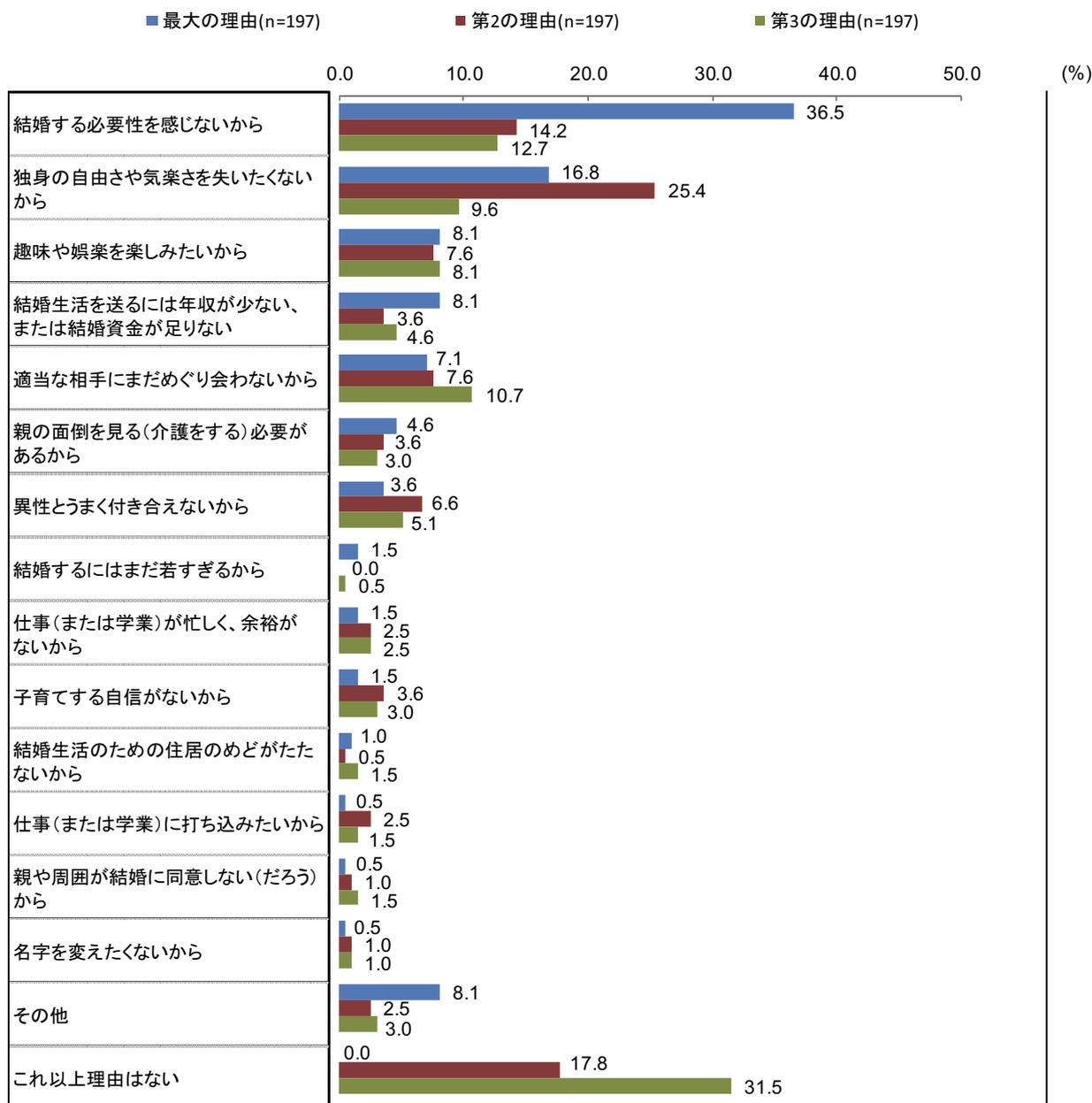
現在独身でいる最大の理由を結婚意向がある者についてみると、「適当な相手にまだめぐり会わないから」(41.4%)が最も高く、以下、「結婚生活を送るには年収が少ない、または結婚資金が足りない」(14.1%)、「異性とうまく付き合えないから」(9.8%)と続く。

<「結婚意向あり」の場合>



現在独身でいる最大の理由を結婚意向がない者についてみると、「結婚する必要性を感じないから」(36.5%)が最も高く、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(16.8%)、「趣味や娯楽を楽しみたいから」(8.1%)、「結婚生活を送るには年収が少ない、または結婚資金が足りない」(8.1%)と続いており、現在のライフスタイルを維持したい意向がうかがえる。

<「結婚意向なし」の場合>



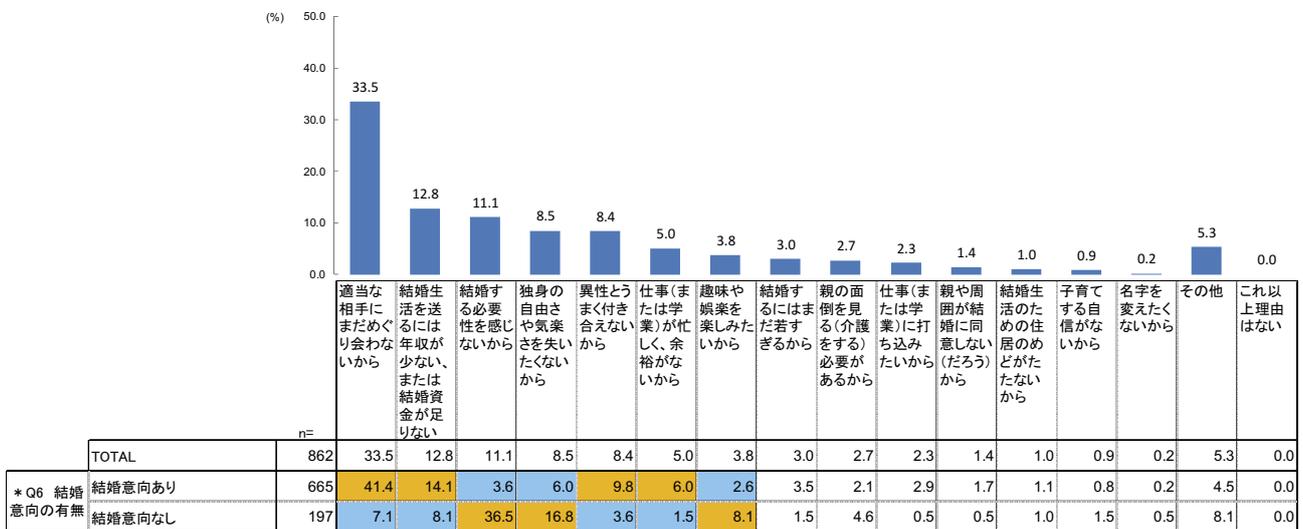
現在独身でいる最大の理由を結婚意向の有無別にみると、結婚意向がある者は「適当な相手にまだめぐり合わないから」(41.4%)、「結婚生活を送るには年収が少ない、または結婚資金が足りない」(14.1%)を理由とする割合が高い。一方、結婚意向がない者は「結婚する必要性を感じないから」(36.5%)、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(16.8%)が主な理由となっている。

性・年代別にみると、男女ともに10・20代は「結婚するにはまだ若すぎるから」(男性：15.2%、女性：12.8%)を理由とする割合が高い。また、男性10・20代は「趣味や娯楽を楽しみたいから」(10.6%)、女性10・20代は「仕事(または学業)が忙しく、余裕がないから」(10.4%)が高いのも特徴的である。

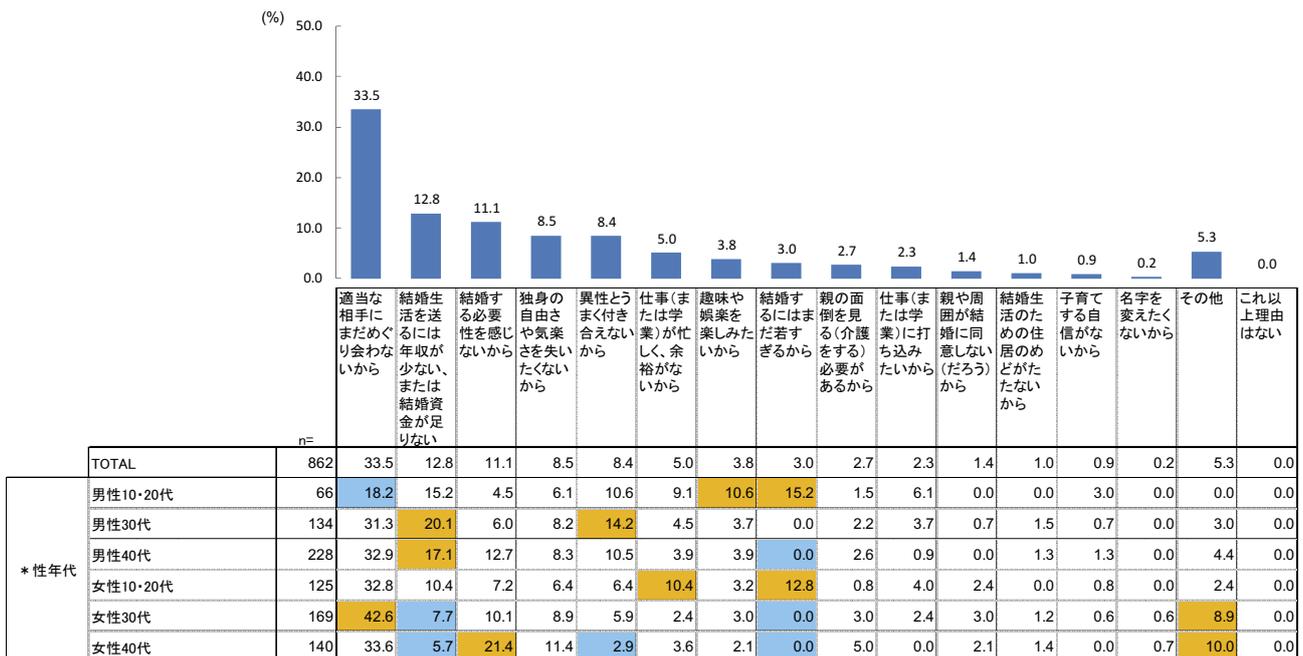
男性30代、男性40代では「結婚生活を送るには年収が少ない、または結婚資金が足りない」(30代：20.1%、40代：17.1%)、女性30代では「適当な相手にまだめぐり合わないから」(42.6%)、女性40代では「結婚する必要性を感じないから」(21.4%)を理由とする割合が高い。

① 最大の理由

<結婚意向の有無別の場合>



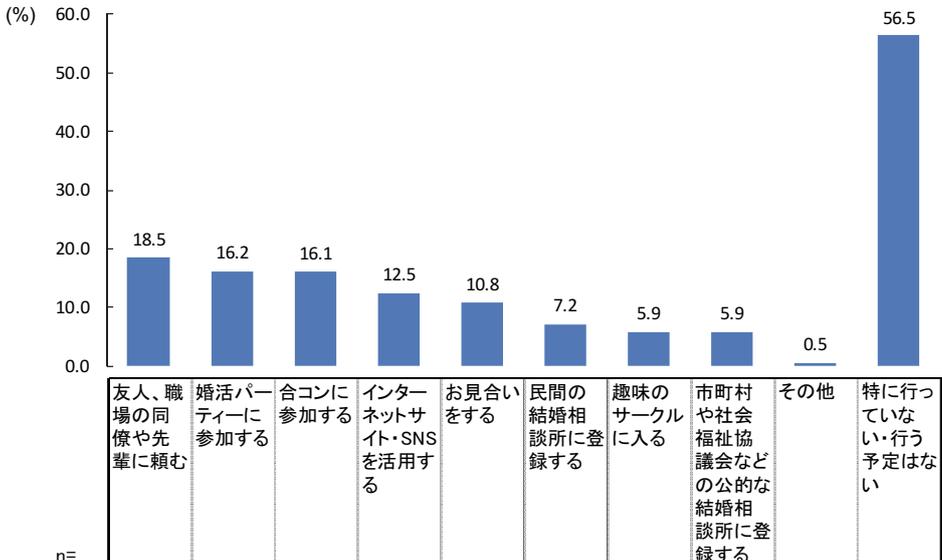
<性・年代別の場合>



問10 あなたは「婚活」としてどのようなことを行っていますか。あるいは今後行いたいですか。
 (回答はいくつでも) 【回答者：結婚意向がある者】

「婚活」として行っていること(今後行いたいこと)としては、「友人、職場の同僚や先輩に頼む」(18.5%)の割合が最も高く、次いで「婚活パーティーに参加する」(16.2%)、「合コンに参加する」(16.1%)の順になっている。一方、「婚活」は「特に行っていない・行う予定はない」は5割以上(56.5%)を占める。

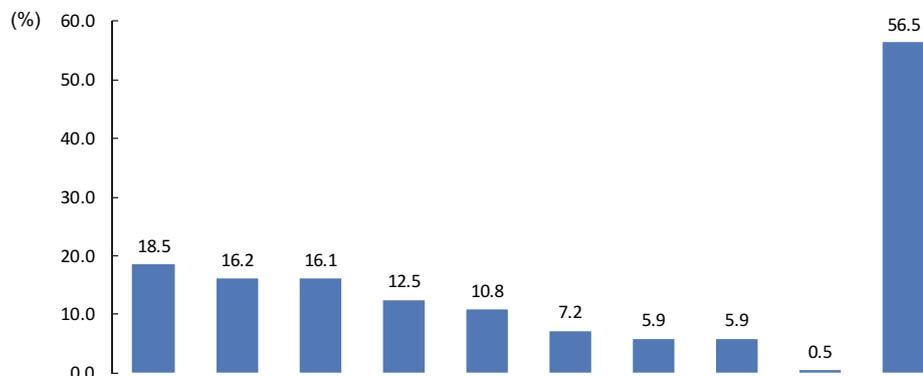
性・年代別にみると、女性30代で「友人、職場の同僚や先輩に頼む」(27.1%)、「婚活パーティーに参加する」(24.1%)の割合が高い。また、男性30代では「合コンに参加する」(23.3%)、男性40代では「お見合いをする」(15.5%)、「民間の結婚相談所に登録する」(12.1%)の割合が高い。



n=		友人、職場の同僚や先輩に頼む	婚活パーティーに参加する	合コンに参加する	インターネットサイト・SNSを活用する	お見合いをする	民間の結婚相談所に登録する	趣味のサークルに入る	市町村や社会福祉協議会などの公的な結婚相談所に登録する	その他	特に行っていない・行う予定はない	
TOTAL	665	18.5	16.2	16.1	12.5	10.8	7.2	5.9	5.9	0.5	56.5	
* 性年代	男性10・20代	55	14.5	12.7	12.7	14.5	9.1	3.6	10.9	3.6	0.0	67.3
	男性30代	116	19.0	17.2	23.3	14.7	10.3	5.2	4.3	8.6	0.0	55.2
	男性40代	174	14.4	14.4	14.9	14.9	15.5	12.1	4.6	7.5	0.6	51.7
	女性10・20代	111	13.5	10.8	14.4	10.8	4.5	2.7	4.5	2.7	0.0	70.3
	女性30代	133	27.1	24.1	17.3	12.0	11.3	8.3	6.8	3.8	1.5	50.4
	女性40代	76	22.4	15.8	10.5	5.3	10.5	6.6	7.9	7.9	0.0	52.6

「婚活」として行っていること（今後行いたいこと）を性・結婚意向別にみると、すぐにでも結婚したい男性では、「民間の結婚相談所に登録する」（19.2%）、「市町村や社会福祉協議会などの公的な結婚相談所に登録する」（15.4%）の割合が高い。

また、すぐにでも結婚したい女性では、「婚活パーティーに参加する」（36.1%）、「友人、職場の同僚や先輩に頼む」（34.4%）の割合が高い。



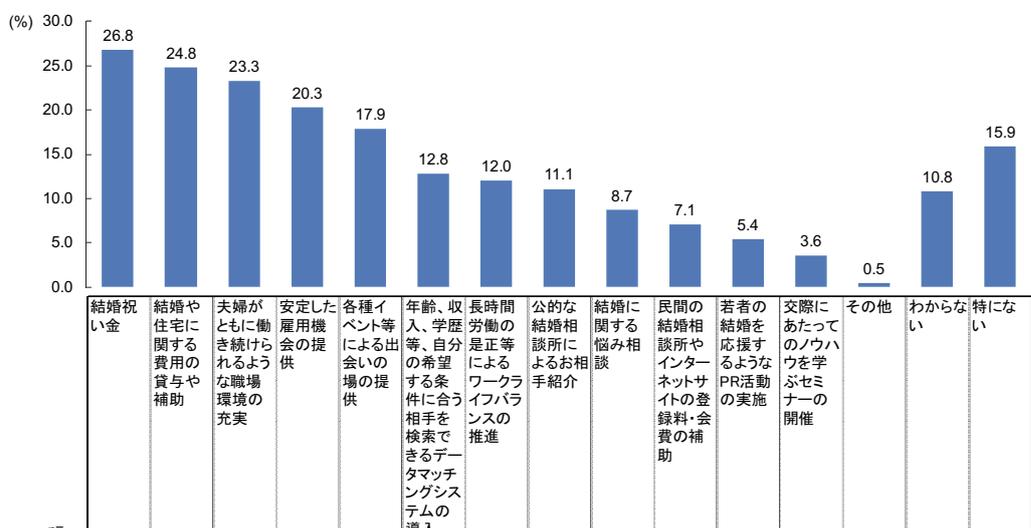
		n=	友人、職場の同僚や先輩に頼む	婚活パーティーに参加する	合コンに参加する	インターネット・SNSを活用する	お見合いをする	民間の結婚相談所に登録する	趣味のサークルに入る	市町村や社会福祉協議会などの公的な結婚相談所に登録する	その他	特に行っていない・行わない予定はない
TOTAL		665	18.5	16.2	16.1	12.5	10.8	7.2	5.9	5.9	0.5	56.5
性別×結婚意向	■男性 計	345	15.9	15.1	17.4	14.8	12.8	8.4	5.5	7.2	0.3	55.4
	すぐにでも結婚したい	78	20.5	21.8	20.5	17.9	15.4	19.2	5.1	15.4	0.0	39.7
	2・3年以内に結婚したい	53	22.6	17.0	13.2	18.9	7.5	5.7	3.8	3.8	0.0	50.9
	いずれは結婚したい	214	12.6	12.1	17.3	12.6	13.1	5.1	6.1	5.1	0.5	62.1
	■女性 計	320	21.3	17.5	14.7	10.0	8.8	5.9	6.3	4.4	0.6	57.8
	すぐにでも結婚したい	61	34.4	36.1	21.3	14.8	16.4	13.1	9.8	8.2	0.0	34.4
	2・3年以内に結婚したい	73	24.7	24.7	19.2	9.6	9.6	6.8	6.8	4.1	0.0	56.2
	いずれは結婚したい	186	15.6	8.6	10.8	8.6	5.9	3.2	4.8	3.2	1.1	66.1

問 11 行政（県や市町村）に取り組んでほしい結婚支援は何ですか。あてはまるものをお答えください。（回答は3つまで） 【回答者：結婚を支援する事業を行政に取り組んでほしいと思っている者】

行政（県や市町村）に取り組んでほしい結婚支援としては、「結婚祝い金」（26.8%）が最も高く、以下、「結婚や住宅に関する費用の貸与や補助」（24.8%）、「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」（23.3%）、「安定した雇用機会の提供」（20.3%）と続く。

性・年代別にみると、男性40代では「公的な結婚相談所によるお相手紹介」（18.4%）、「結婚に関する悩み相談」（12.6%）をあげる割合が高い。

女性10・20代では「若者の結婚を応援するようなPR活動の実施」（12.6%）、女性30代では「結婚祝い金」（35.3%）、女性40代では「年齢、収入、学歴等、自分の希望する条件に合う相手を検索できるデータマッチングシステムの導入」（22.4%）がそれぞれ高いのが特徴的である。



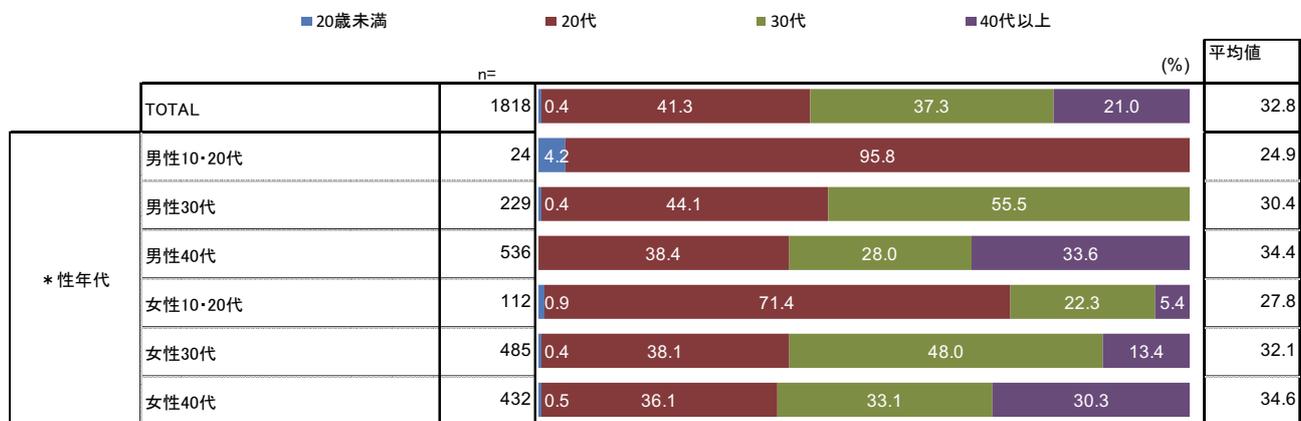
		n=	結婚祝い金	結婚や住宅に関する費用の貸与や補助	夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実	安定した雇用機会の提供	各種イベント等による出会いの場の提供	年齢、収入、学歴等、自分の希望する条件に合う相手を検索できるデータマッチングシステムの導入	長時間労働によるワークライフバランスの推進	公的な結婚相談所によるお相手紹介	結婚に関する悩み相談	民間の結婚相談所やインターネットサイトの登録料・会費の補助	若者の結婚を応援するようなPR活動の実施	交際にあたってのノウハウを学ぶセミナーの開催	その他	わからない	特になし
TOTAL		665	26.8	24.8	23.3	20.3	17.9	12.8	12.0	11.1	8.7	7.1	5.4	3.6	0.5	10.8	15.9
* 性年代	男性10・20代	55	23.6	14.5	20.0	18.2	12.7	10.9	9.1	9.1	7.3	1.8	9.1	3.6	0.0	20.0	16.4
	男性30代	116	25.9	26.7	19.0	18.1	17.2	12.9	12.9	9.5	6.9	7.8	3.4	4.3	0.9	10.3	18.1
	男性40代	174	19.5	20.1	17.8	14.4	19.0	13.2	9.2	18.4	12.6	9.8	1.7	4.0	1.1	12.6	17.8
	女性10・20代	111	34.2	31.5	28.8	22.5	14.4	8.1	15.3	6.3	3.6	1.8	12.6	1.8	0.0	11.7	15.3
	女性30代	133	35.3	27.8	30.1	26.3	18.8	11.3	16.5	6.0	10.5	9.0	6.0	4.5	0.0	6.0	12.8
	女性40代	76	21.1	25.0	25.0	25.0	23.7	22.4	6.6	14.5	7.9	7.9	2.6	2.6	0.0	7.9	14.5

(3) 既婚者の結婚生活の状況

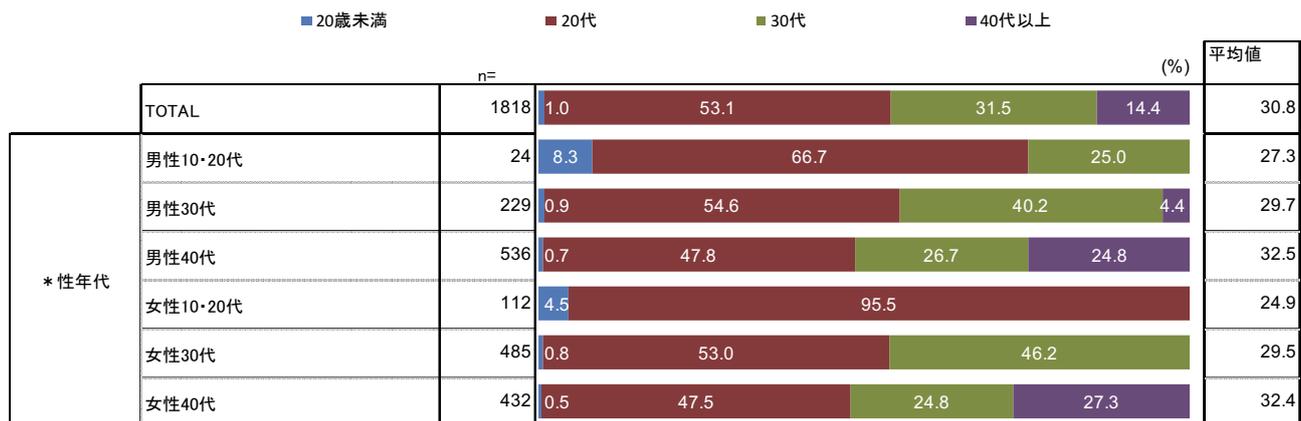
問 12 結婚したときのご夫婦の年齢をお答えください。【回答者：既婚者】

結婚したときの夫の平均年齢は 32.8 歳、妻の平均年齢は 30.8 歳である。

① 夫の年齢



② 妻の年齢

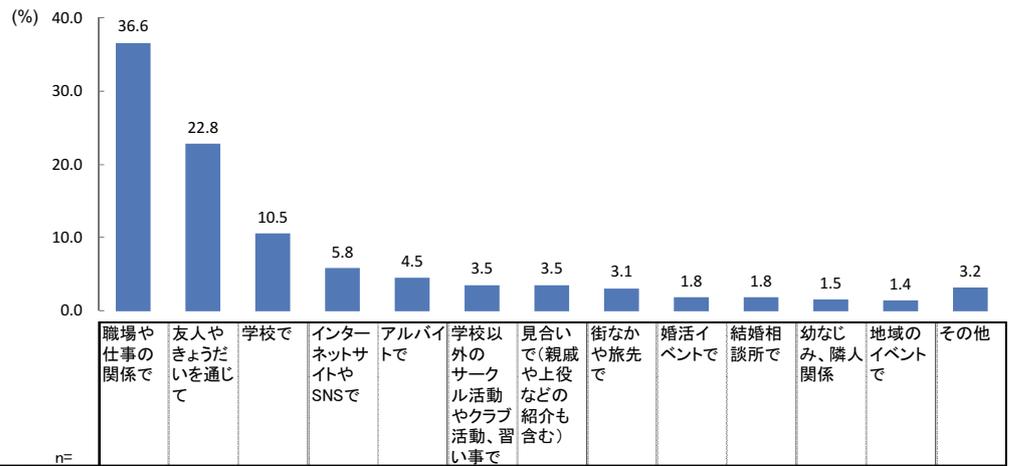


問13 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけで知り合いましたか。(回答は1つ)【回答者：既婚者】

夫婦が知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係で」(36.6%)が最も高く、以下、「友人やきょうだいを通じて」(22.8%)、「学校で」(10.5%)と続く。

性・年代別にみると、男性40代では「見合いで(親戚や上役などの紹介も含む)」(5.0%)、「街なかや旅先で」(4.9%)がきっかけである割合が高い。

一方、女性10・20代では「インターネットサイトやSNSで」(12.5%)や「アルバイトで」(10.7%)、女性40代では「見合いで(親戚や上役などの紹介も含む)」(5.6%)、「結婚相談所で」(3.7%)がきっかけである割合が高い。

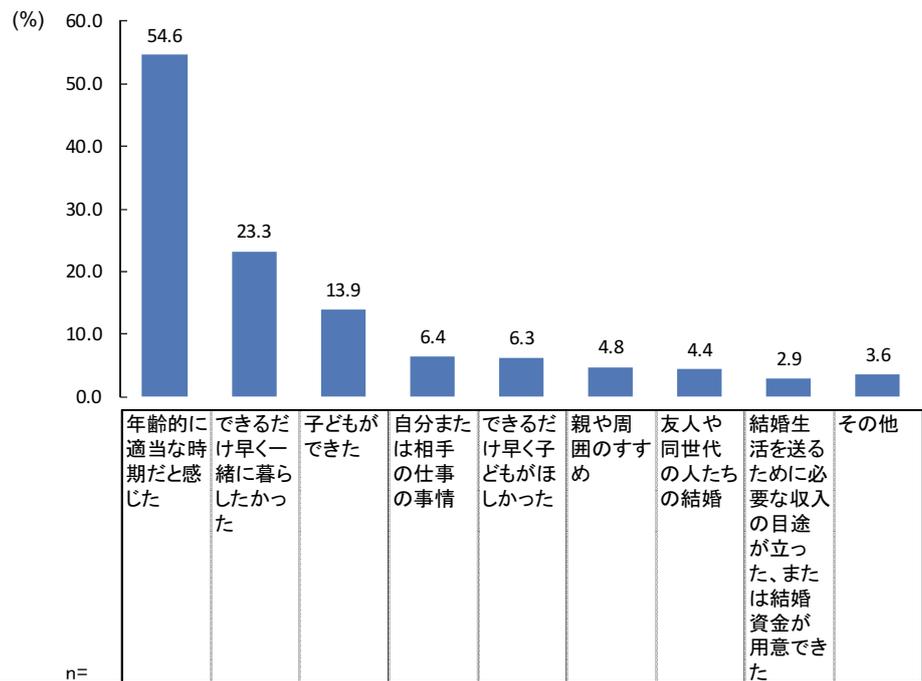


		n	職場や仕事の関係で	友人やきょうだいを通じて	学校で	インターネットサイトやSNSで	アルバイトで	学校以外のサークル活動やクラブ活動、習い事で	見合いで(親戚や上役などの紹介も含む)	街なかや旅先で	婚活イベントで	結婚相談所で	幼なじみ、隣人関係	地域のイベントで	その他
TOTAL		1818	36.6	22.8	10.5	5.8	4.5	3.5	3.5	3.1	1.8	1.8	1.5	1.4	3.2
* 性年代	男性10・20代	24	29.2	16.7	16.7	8.3	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	男性30代	229	38.9	22.3	9.6	6.1	4.8	4.8	1.3	1.7	2.2	0.9	1.3	2.2	3.9
	男性40代	536	37.5	22.0	9.3	4.3	3.2	3.4	5.0	4.9	1.7	1.1	1.9	2.6	3.2
	女性10・20代	112	25.0	24.1	15.2	12.5	10.7	3.6	0.0	2.7	1.8	0.0	3.6	0.0	0.9
	女性30代	485	35.3	26.0	11.8	7.2	3.9	2.5	2.1	2.1	2.3	1.6	0.6	0.8	3.9
	女性40代	432	39.4	20.6	9.3	3.9	4.4	4.2	5.6	3.2	1.4	3.7	0.9	0.7	2.8

問 14 あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。(回答は2つまで) 【回答者：既婚者】

最終的に結婚を決めた直接のきっかけは、「年齢的に適当な時期だと感じた」が54.6%と最も高く、以下、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(23.3%)、「子どもができた」(13.9%)と続く。

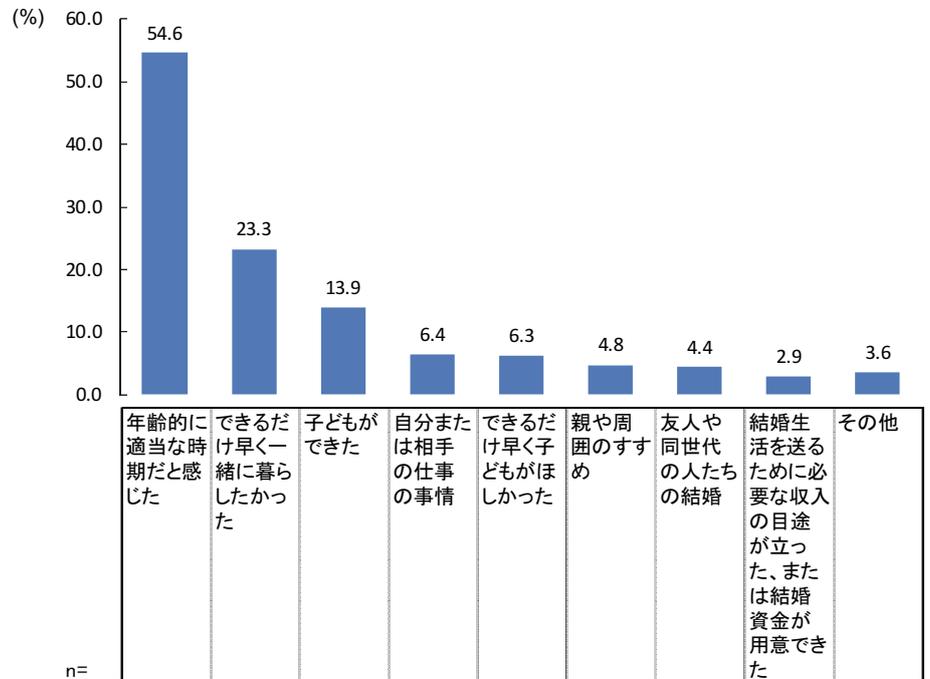
性・年代別にみると、男性40代は「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(28.4%)と回答する割合が高い。女性10・20代では年齢を理由とする割合は低い一方、「子どもができた」(36.6%)ことをきっかけとしてあげる割合が顕著に高い。また、女性30代でも「子どもができた」(16.9%)、「できるだけ早く子どもがほしかった」(10.1%)といった子どもに関する理由をあげる割合が高くなっている。



		n=	年齢的に適当な時期だと感じた	できるだけ早く一緒に暮らしたかった	子どもができた	自分または相手の仕事の事情	できるだけ早く子どもがほしかった	親や周囲のすすめ	友人や同世代の人たちの結婚	結婚生活を送るために必要な収入の目途が立った、または結婚資金が用意できた	その他
	TOTAL	1818	54.6	23.3	13.9	6.4	6.3	4.8	4.4	2.9	3.6
* 性年代	男性10・20代	24	50.0	20.8	20.8	0.0	8.3	4.2	4.2	20.8	4.2
	男性30代	229	59.4	21.4	10.9	7.0	6.1	2.6	4.4	3.1	3.5
	男性40代	536	56.3	28.4	8.8	6.7	4.3	6.2	3.9	2.4	1.7
	女性10・20代	112	38.4	22.3	36.6	8.0	4.5	3.6	3.6	2.7	5.4
	女性30代	485	54.0	20.8	16.9	6.8	10.1	4.3	4.1	3.3	3.5
	女性40代	432	55.1	21.1	12.3	5.3	5.1	5.3	5.6	2.1	5.8

結婚時の本人の年齢別にみると、いずれの年代でも「年齢的に適当な時期だと感じた」ことが直接のきっかけとなっており、特に30代（61.2%）で高い割合である。また、30代は「できるだけ早く子どもがほしかった」（8.7%）をあげる割合も他の年代より高い。

一方、10・20代では「できるだけ早く子どもがほしかった」（4.9%）の割合は低く、「子どもができた」（17.5%）の割合が高い。



		n=	年齢的に適当な時期だと感じた	できるだけ早く一緒に暮らしたかった	子どもができた	自分または相手の仕事の事情	できるだけ早く子どもがほしかった	親や周囲のすすめ	友人や同世代の人たちの結婚	結婚生活を送るために必要な収入の目途が立った、または結婚資金が用意できた	その他
TOTAL		1818	54.6	23.3	13.9	6.4	6.3	4.8	4.4	2.9	3.6
結婚時の年齢	10・20代	912	51.6	23.6	17.5	7.0	4.9	4.9	4.2	3.6	3.2
	30代	608	61.2	20.9	10.9	6.3	8.7	4.3	4.8	1.8	3.5
	40代	298	50.3	27.2	9.1	5.0	5.7	5.7	4.4	3.0	5.4

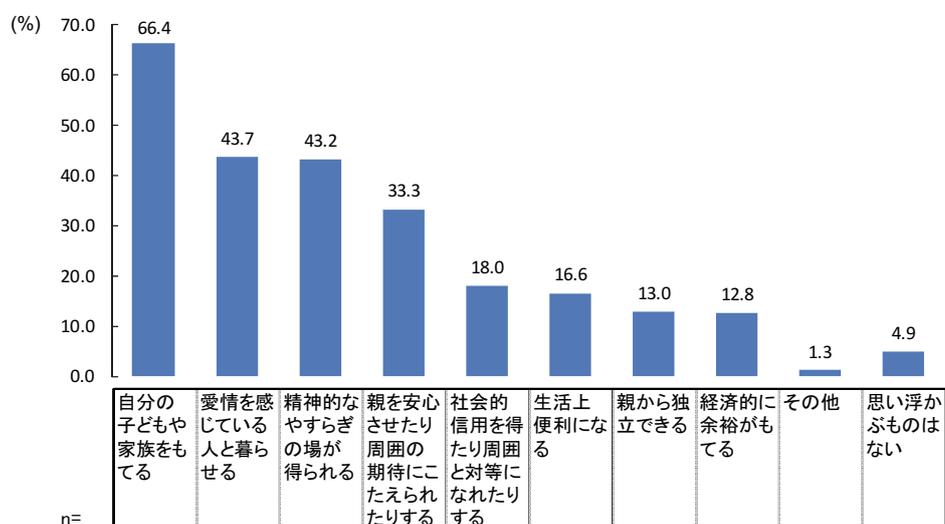
問 15 結婚してよかったことは何ですか。(回答はいくつでも) 【回答者：既婚者】

結婚してよかったことは、「自分の子どもや家族をもてる」(66.4%)が最も高く、以下、「愛情を感じている人と暮らせる」(43.7%)、「精神的なやすらぎの場が得られる」(43.2%)、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられたりする」(33.3%)と続く。

性・年代別にみると、男性40代では「社会的信用を得たり周囲と対等になれたりする」(23.7%)、「生活上便利になる」(20.3%)ことをよかったと考える割合が高い。

女性10・20代、30代では「自分の子どもや家族をもてる」(30代：74.8%)、「愛情を感じている人と暮らせる」(10・20代：58.9%)、「親から独立できる」(10・20代：21.4%、30代：16.7%)といった家族に関する項目の割合が高い。

また、「経済的に余裕がもてる」という経済面については男性よりも女性の方がよかったと考える割合が高く、いずれの年代でも2割弱である(10・20代：17.0%、30代：15.5%、40代：18.5%)。



n=		自分の子どもや家族をもてる	愛情を感じている人と暮らせる	精神的なやすらぎの場が得られる	親を安心させたり周囲の期待にこたえられたりする	社会的信用を得たり周囲と対等になれたりする	生活上便利になる	親から独立できる	経済的に余裕がもてる	その他	思い浮かぶものはない	
TOTAL	1818	66.4	43.7	43.2	33.3	18.0	16.6	13.0	12.8	1.3	4.9	
* 性年代	男性10・20代	24	54.2	75.0	50.0	29.2	12.5	29.2	8.3	4.2	0.0	4.2
	男性30代	229	67.2	41.5	45.0	31.0	18.8	14.8	5.7	6.6	1.7	8.3
	男性40代	536	64.2	42.5	46.6	31.2	23.7	20.3	10.1	7.8	0.2	3.4
	女性10・20代	112	72.3	58.9	46.4	30.4	7.1	15.2	21.4	17.0	1.8	3.6
	女性30代	485	74.8	46.0	42.3	34.2	17.1	14.8	16.7	15.5	1.9	3.1
	女性40代	432	58.3	38.2	38.0	37.3	14.8	14.6	14.4	18.5	1.6	7.4

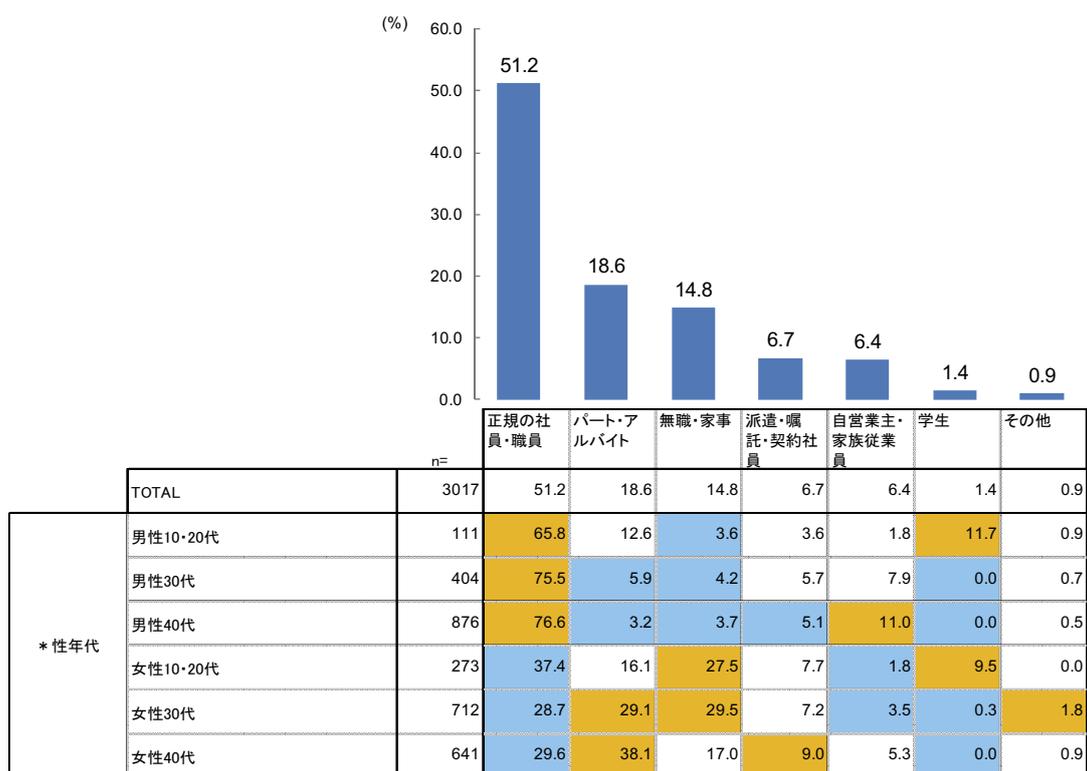
(4) 働き方に関する現状

問 16 あなたのおつとめの状況をお答えください。結婚されている方(事実婚を含む)は、配偶者(パートナー)についてもお答えください。(回答は1つ)

回答者自身の就労状況を性・年代別にみると、男性の場合、30代、40代では「正規の社員・職員」が8割弱(30代:75.5%、40代:76.6%)を占めるが、10・20代では65.8%とやや低い割合である。

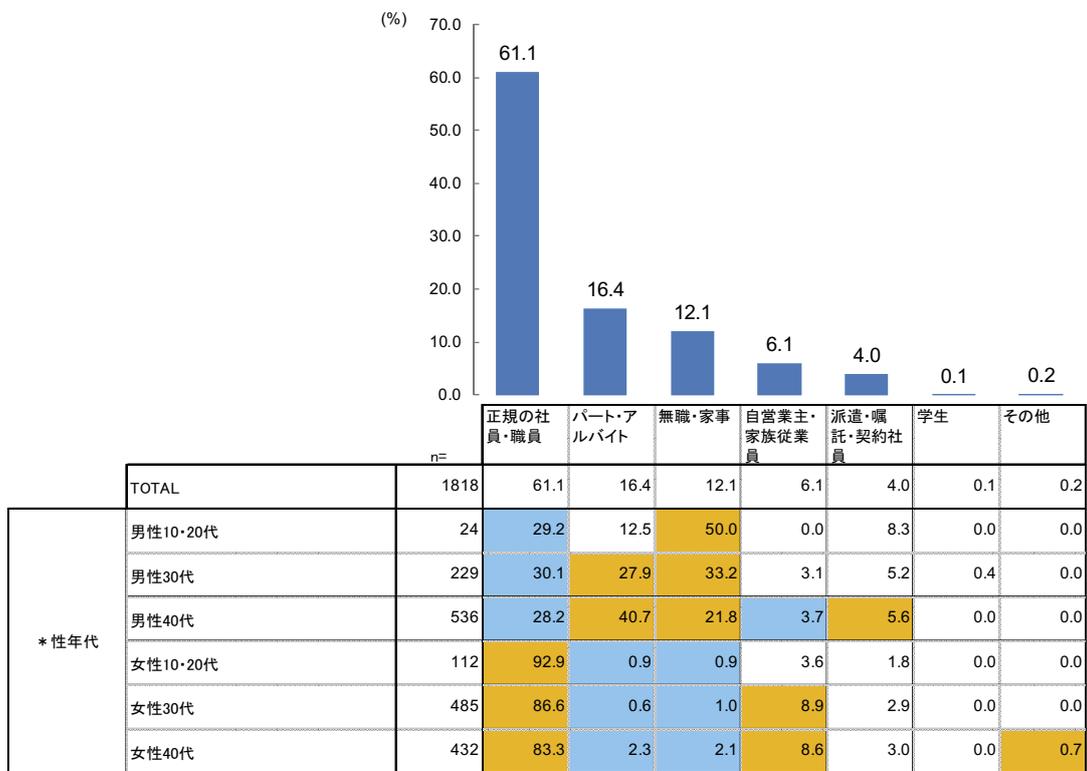
一方女性の場合、10・20代では「正規の社員・職員」が37.4%であるのに対し、30代、40代は3割弱(30代:28.7%、40代:29.6%)にとどまり、「パート・アルバイト」(30代:29.1%、40代:38.1%)の割合が高い。

① あなた自身の状況



配偶者の就労状況は、男性回答者の配偶者の場合「パート・アルバイト」または「無職・家事」の割合が高く、女性回答者の配偶者の場合、いずれの年代でも「正規の社員・職員」が8割以上（10・20代：92.9%、30代：86.6%、40代：83.3%）を占める。

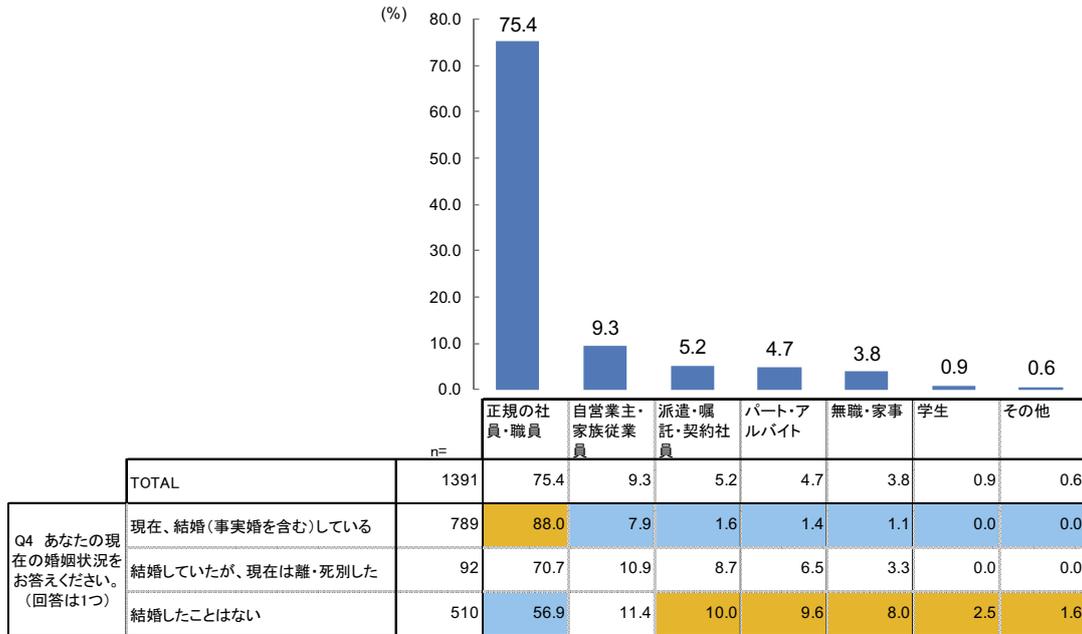
② 配偶者の状況（既婚者のみ）



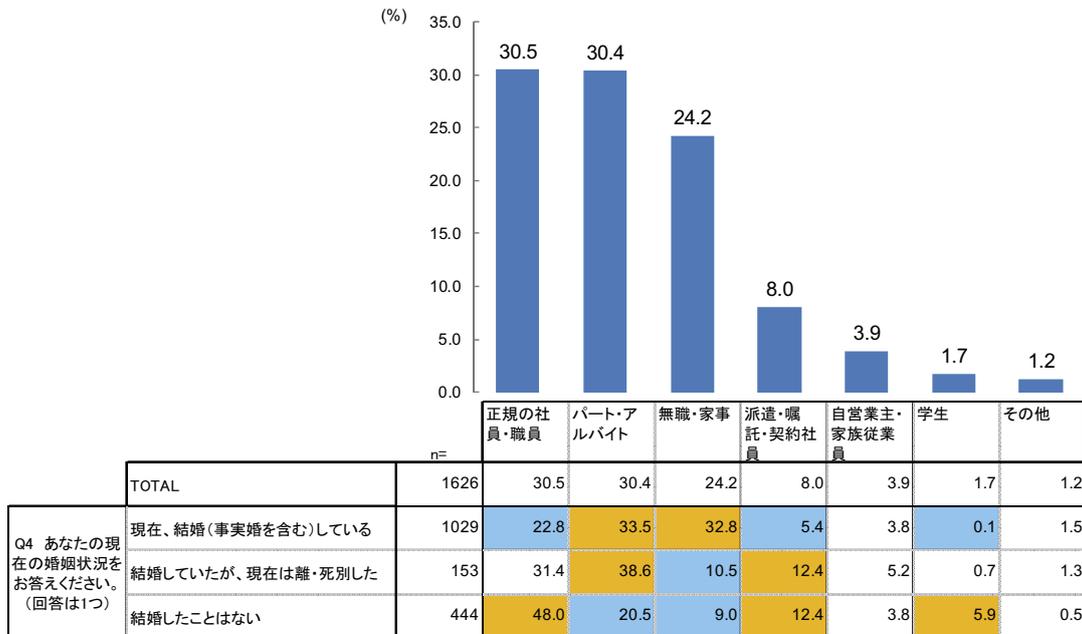
性・婚姻状況別にみると、現在結婚（事実婚を含む）している男性は「正規の社員・職員」（88.0%）の割合が高く、結婚したことはない男性は「派遣・嘱託・契約社員」（10.0%）、「パート・アルバイト」（9.6%）、「無職・家事」（8.0%）と、正規の社員・職員以外の割合が高い。

女性においては、現在結婚（事実婚を含む）している場合、「パート・アルバイト」（33.5%）や「無職・家事」（32.8%）の割合が高い。結婚したことはない女性は「正規の社員・職員」（48.0%）の割合が高く、「パート・アルバイト」（20.5%）の割合が低い。

① 男性・婚姻状況別



② 女性・婚姻状況別



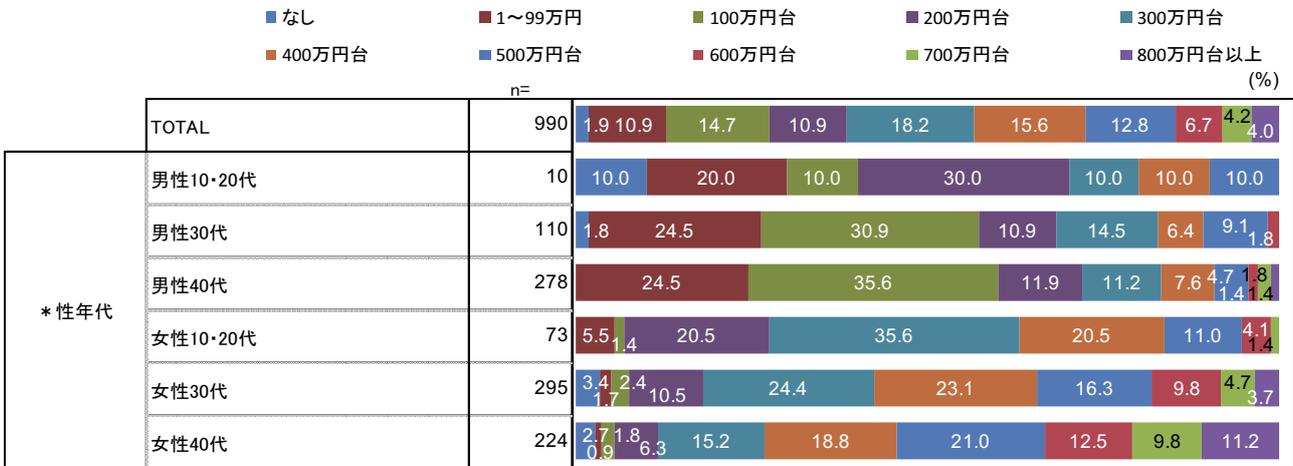
問 17 差し支えなければ、あなたの昨年の収入（年収）をお答えください。結婚されている方は、配偶者（パートナー）の収入（年収）もお答えください。（回答は1つ） 【回答者：有職者】

回答者自身の年収は、「100万円台」（13.7%）、「200万円台」（16.0%）、「300万円台」（18.1%）、「400万円台」（15.1%）、「500万円台」（11.3%）がそれぞれ1割台である。男性の方が年収が高く、女性は200万円台以下が7割程度を占めている。

① あなた自身の状況（「覚えていない・答えたくない」を除く）

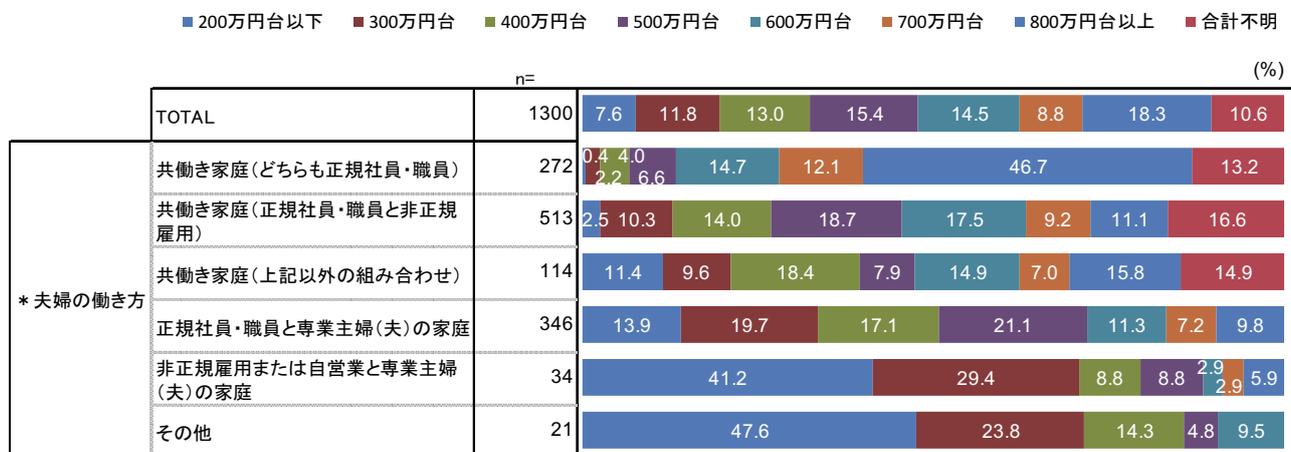


② 配偶者の状況（既婚者のみ。「覚えていない・答えたくない」を除く）



夫婦の働き方別に合計年収（概算）をみると、共働き家庭（どちらも正規社員・職員）では「800万円台以上」の世帯が46.7%を占めている。一方、非正規雇用または自営業と専業主婦（夫）の家庭では年収は低い傾向にあり、200万円台以下の世帯が41.2%となっている。

<「既婚者」の場合>



※夫婦の合計年収は問17の「あなたご自身の年収」と「あなたの配偶者の年収」を合計して、概算として算出している。本調査においては「～万円台」という選択肢で聴取しているため、実際の合計年収とは異なる。

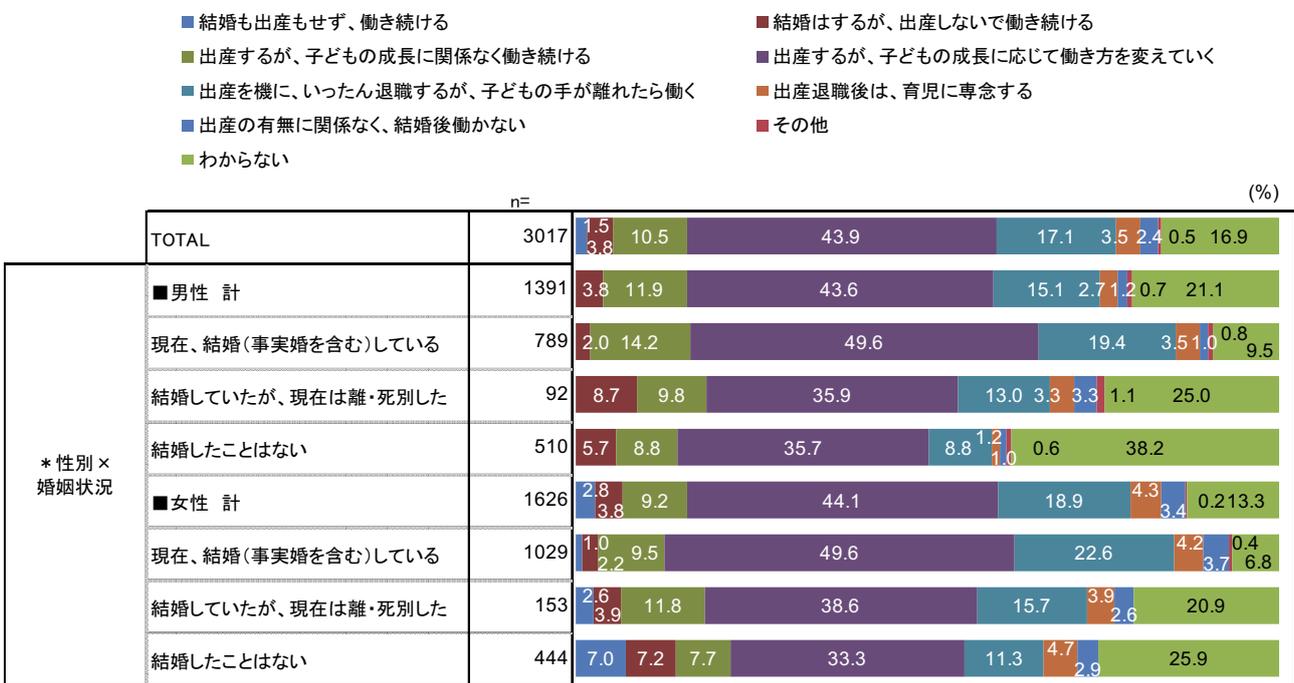
算出例) あなたご自身の年収：300万円台、あなたの配偶者の年収：200万円台 = 合計年収500万円台とする。実際には600万円台の可能性もある。

また、いずれかの年収が「覚えていない・答えたくない」と回答されていた場合は「合計不明」としている。

問 18 女性：育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方はどれですか。
 男性：育児と仕事との関係で、あなたが理想とする配偶者・パートナーの生き方は次のどれですか。（配偶者・パートナーがいない方は、いと仮定してお答えください。）（回答は1つ）

育児と仕事との関係で、女性が理想とする生き方は「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」（43.9%）が4割を占め、次いで「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」（17.1%）、「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」（10.5%）となっている。

性・婚姻状況別にみると、男女ともに現在、結婚（事実婚を含む）している人では「出産はするが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」が49.6%と半数を占める。結婚したことはない人の場合、「出産はするが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」や「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」の割合は低く、「結婚も出産もせず、働き続ける」、「結婚はするが、出産しないで働き続ける」、あるいは「わからない」という回答割合が高い傾向にある。



また、希望出生率の算出根拠となる「女性 18-34 歳」では、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」（49.4%）が半数を占め、次いで「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」（18.9%）となっている。

<女性 18-34 歳の場合>（希望出生率の算出根拠）



夫婦の働き方別にみると、「出産はするが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」の割合が49.6%と半数を占める。共働き家庭（どちらも正規社員・職員）の場合には「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」との考えが27.6%と他に比べて高い。また、正規社員・職員と専業主婦（夫）の家庭や非正規雇用または自営業と専業主婦（夫）の家庭では「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」との考えが3割（正規社員・職員と専業主婦（夫）の家庭：30.1%、非正規雇用または自営業と専業主婦（夫）の家庭：29.1%）となっている

<既婚者>の夫婦の働き方別

- 結婚も出産もせず、働き続ける
- 出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける
- 出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く
- 出産の有無に関係なく、結婚後働かない
- わからない
- 結婚はするが、出産しないで働き続ける
- 出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく
- 出産退職後は、育児に専念する
- その他

		n=	(%)							
TOTAL		1818	0.6	11.6	49.6	21.2	3.9	0.6	8.0	
* 夫婦の働き方	共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	402	0.7	27.6	48.8	10.2	1.5	7.0		
	共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	667	0.9	7.9	56.5	21.3	2.7	0.1		
	共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	169	3.6	13.6	49.1	17.2	1.8	12.4		
	正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	499	0.2	3.6	42.1	30.1	8.0	4.8	9.2	
	非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	55	1.8	5.5	47.3	29.1	1.8	1.8	12.7	
	その他	26	7.7	34.6	30.8	11.5	3.8	3.8	7.7	

(5) 出産や子育てに関する意識と現状

問19 お子さんの人数についてうかがいます。以下のそれぞれにあてはまる人数をご記入ください。

<「既婚者」の場合>

現在の子どもの数は、2人が38.0%、1人が25.3%、0人が21.1%、3人が13.8%、平均すると1.50人である。

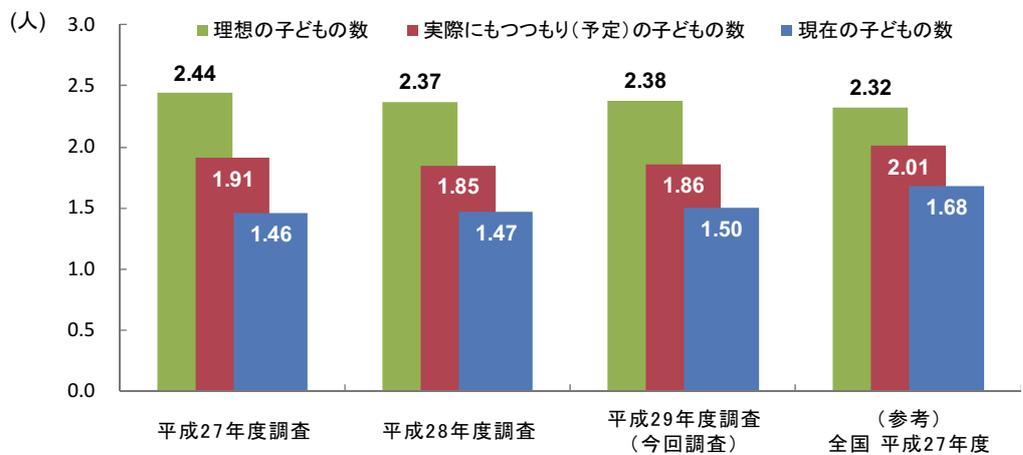
理想の子どもの数は、2人が47.3%、3人が37.2%、1人が4.1%、平均すると2.38人である。

実際にもつつもり(予定)の子どもの数は、理想の数より3人の割合が低くなる一方、1人の割合が高く、2人が49.4%、3人が19.0%、1人が17.8%、平均すると1.86人である。

① 現在の子どもの数・合計(既婚者)

		n=	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	(%)	平均値
既婚者TOTAL	現在の子どもの数	1818	21.1	25.3	38.0	13.8	1.8	0.1		1.50
	理想の子どもの数	1818	5.1	4.1	47.3	37.2	4.6	1.8		2.38
	実際にもつつもり(予定)の子どもの数	1818	10.7	17.8	49.4	19.0	2.8	0.2		1.86

なお、平成27～29年度調査(今回調査)までの経年変化は以下のとおりである。平成27年度調査から3年間概ね同程度で推移している。

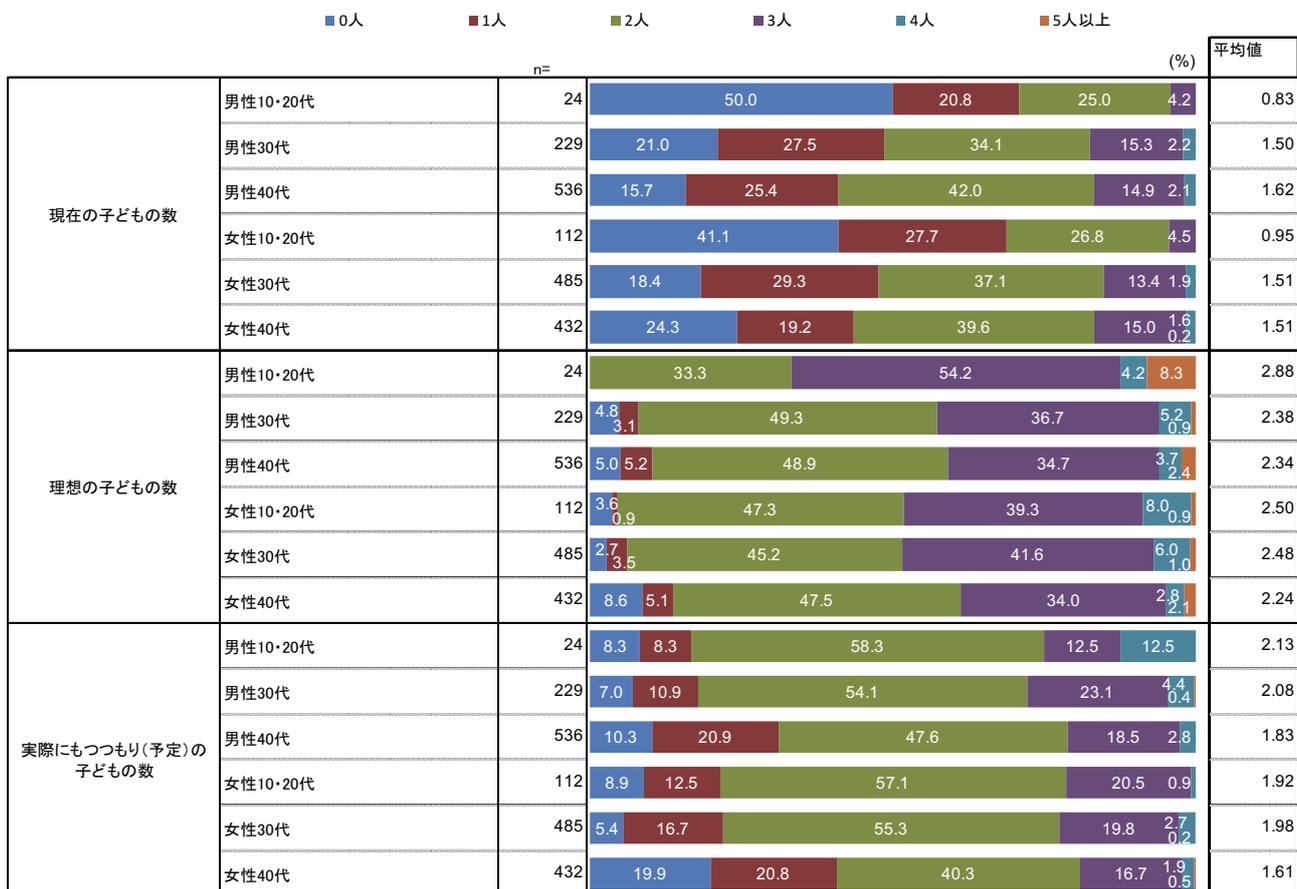


※全国のは「第15回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」(国立社会保障・人口問題研究所)より出典

既婚者の性・年代別にみた理想の子どもの数、実際にもつつもり（予定）の子どもの数は以下のとおりである。

理想の子どもの数については性・年代別に大きな差が見られない一方、実際に持つつもり（予定）の子どもの数については、女性の方が男性よりも少ない傾向がみられる。

① - 1 性・年代別



① -2 夫婦の働き方別

夫婦の働き方別にみると、現在の子どもの数は共働き家庭でやや多い。理想の子どもの数については、夫婦の働き方別による大きな差は見られない。

実際にもつつもり（予定）の子どもの数についても、夫婦の働き方別による大きな差は見られない。

		n=	%					平均値	
			0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	
現在の子どもの数	共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	402	26.9	25.9	33.3	12.4	1.2	0.2	1.36
	共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	667	17.1	21.4	44.5	15.7	1.2		1.63
	共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	169	23.1	16.6	39.6	17.2	3.6		1.62
	正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	499	21.2	31.5	33.9	11.2	2.2		1.42
	非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	55	23.6	36.4	29.1	10.9			1.27
	その他	26	15.4	30.8	26.9	19.2	7.7		1.73
	理想の子どもの数								
共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	402	6.0	5.0	46.3	37.3	4.0	1.5	2.33	
共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	667	4.5	3.6	49.6	37.0	4.0	1.2	2.36	
共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	169	5.3	3.0	43.2	40.2	5.3	3.0	2.46	
正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	499	4.8	4.2	46.7	37.3	4.6	2.4	2.40	
非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	55	5.5	5.5	50.9	29.1	9.1		2.31	
その他	26	7.7	7.7	34.6	34.6	11.5	3.8	2.46	
実際にもつつもり(予定)の子どもの数	共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	402	11.4	17.2	50.0	18.4	2.2	0.7	1.85
	共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	667	9.4	17.5	52.3	18.7	1.9		1.86
	共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	169	17.2	14.8	42.0	22.5	3.6		1.80
	正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	499	9.6	18.4	49.5	18.4	3.8	0.2	1.89
	非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	55	9.1	29.1	41.8	18.2	1.8		1.75
	その他	26	15.4	19.2	30.8	26.9	7.7		1.92

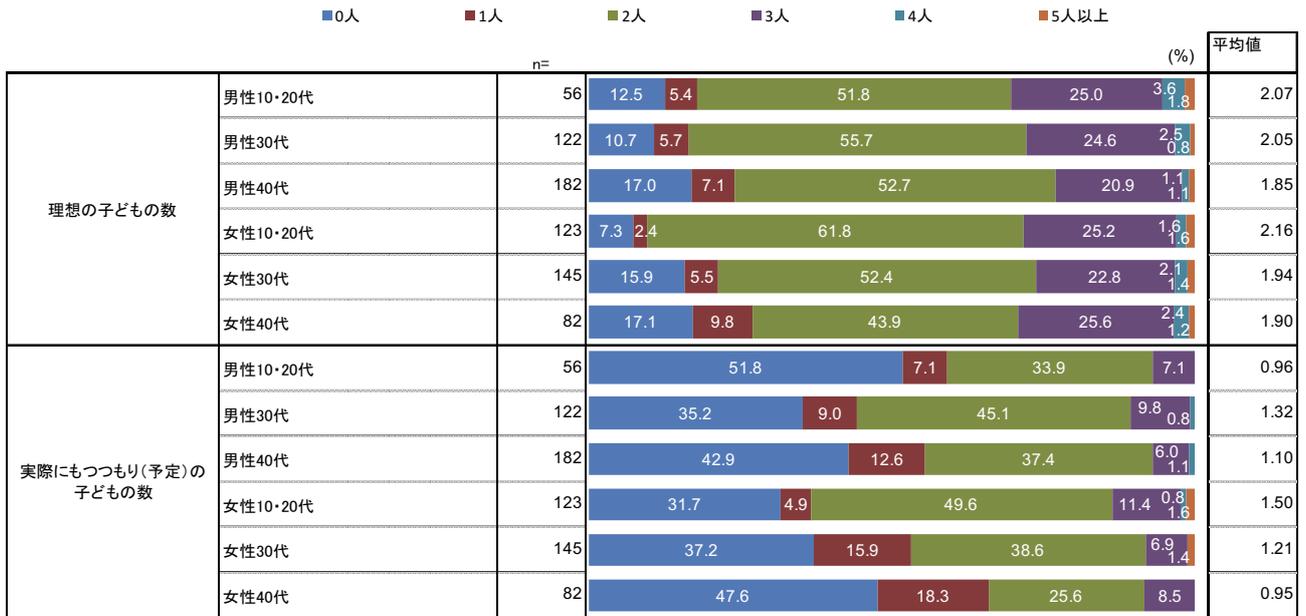
<「独身者」の場合>

独身者の性・年代別及び雇用形態別にみた理想の子どもの数、実際にもつつもり（予定）の子どもの数は以下のとおりである。

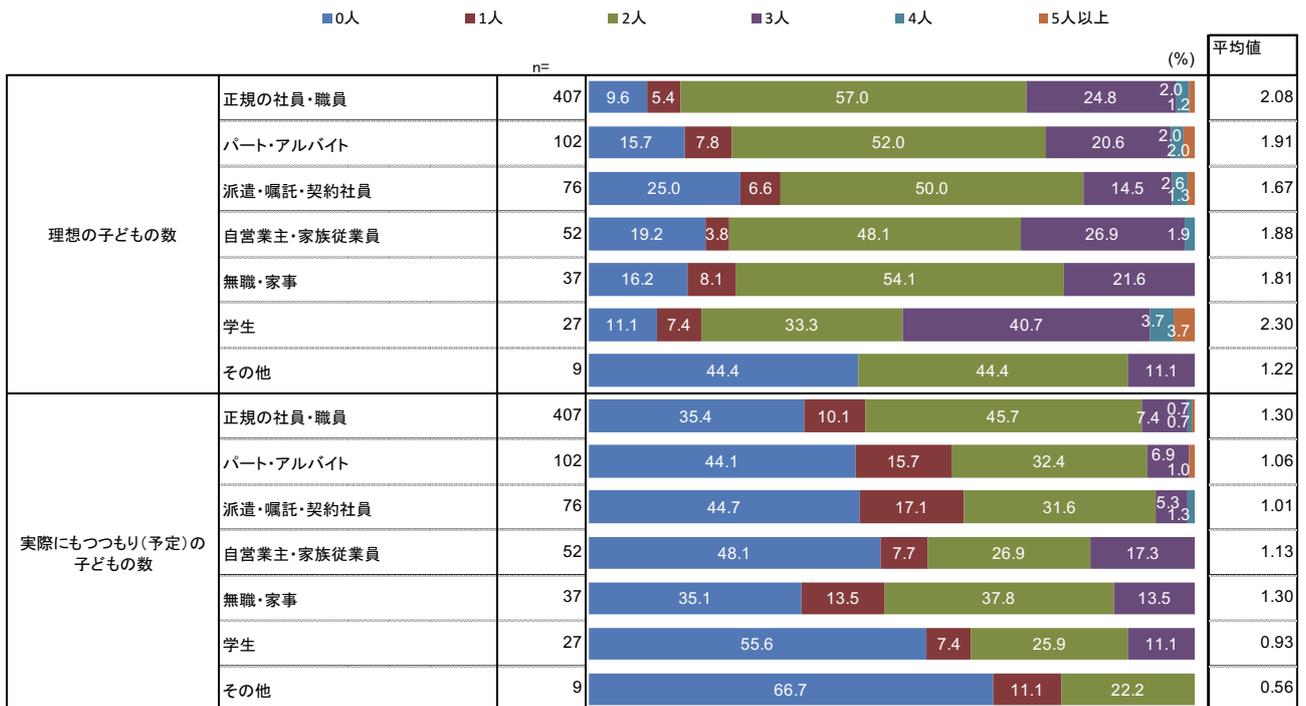
理想の子どもの数は2人と回答する割合が高い一方、実際に持つつもり（予定）の子どもの数は0人と回答する割合が、既婚者に比べ顕著に高い。

また、理想の子どもの数は、実際に持つつもり（予定）の子どもの数と比較すると、3人の割合が低く、0人または1人の割合が高くなっている。

② - 1 性・年代別



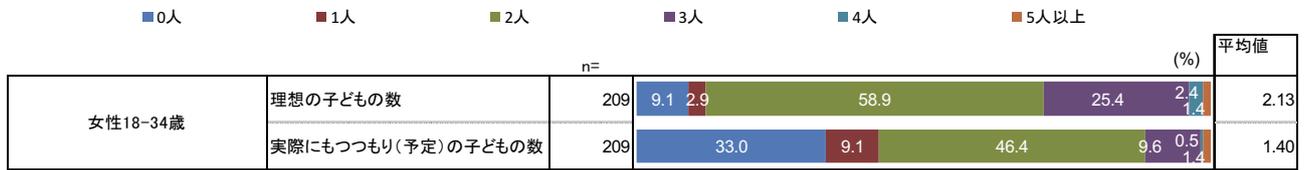
② - 2 雇用形態別



<女性 18-34 歳の場合> (希望出生率の算出根拠)

理想の子どもの数は、希望出生率の算出根拠となる「女性 18-34 歳」では、2 人が 58.9%、3 人が 25.4%、平均 2.13 人であった。

実際に持つつもり(予定)の子どもの数は、2 人が 46.4%、3 人が 9.6%、平均 1.40 人であった。



<「子どもが1人以上いる者」の場合>

親からの子育て支援の状況別にみると、いずれかの親から子育ての手助けが日常的・ひんぱんにあった人、または子育ての手助けがときどきあった人の方が、3人と回答する割合が高い。

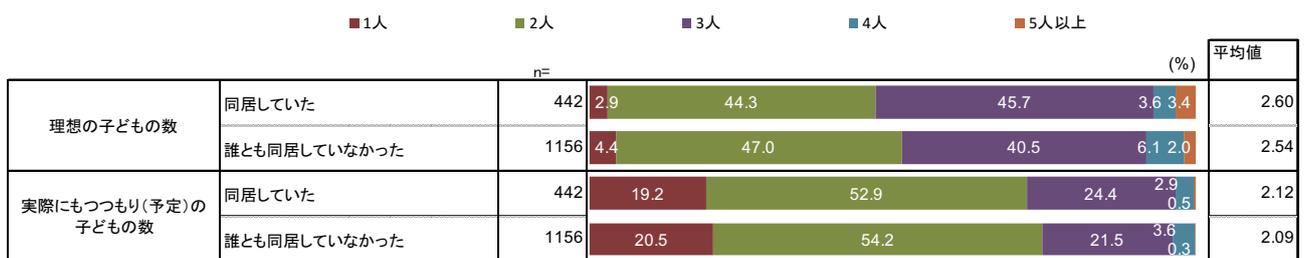
子どもが3歳になるまでの期間における親との同居有無別にみると、いずれの子どもの数も同居していた者の方がやや多いものの、大きな差はみられない。

③ - 1 親からの子育て支援別



※親からの子育て支援は、問 28 の回答をもとに分類した。いずれかの親から「日常的にあった」または「ひんぱんにあった」場合には「子育ての手助けが日常的・ひんぱんにあった」、いずれかの親から「ときどきあった」場合には「子育ての手助けがときどきあった」、いずれの親からも「ほとんどなかった」、または親がいなかった場合には「子育ての手助けがほとんどなかった」としている。

③ - 2 親との同居有無別



※親との同居の有無は、問 27 の回答をもとに分類した。いずれかの親と同居していた場合には「同居していた」、いずれの親とも同居していなかった場合には「誰とも同居していなかった」としている。

問 20 問 19 で、「実際に持つつもり（予定）の子ども数」が、「理想の子ども数」より少ない方
にうかがいます。

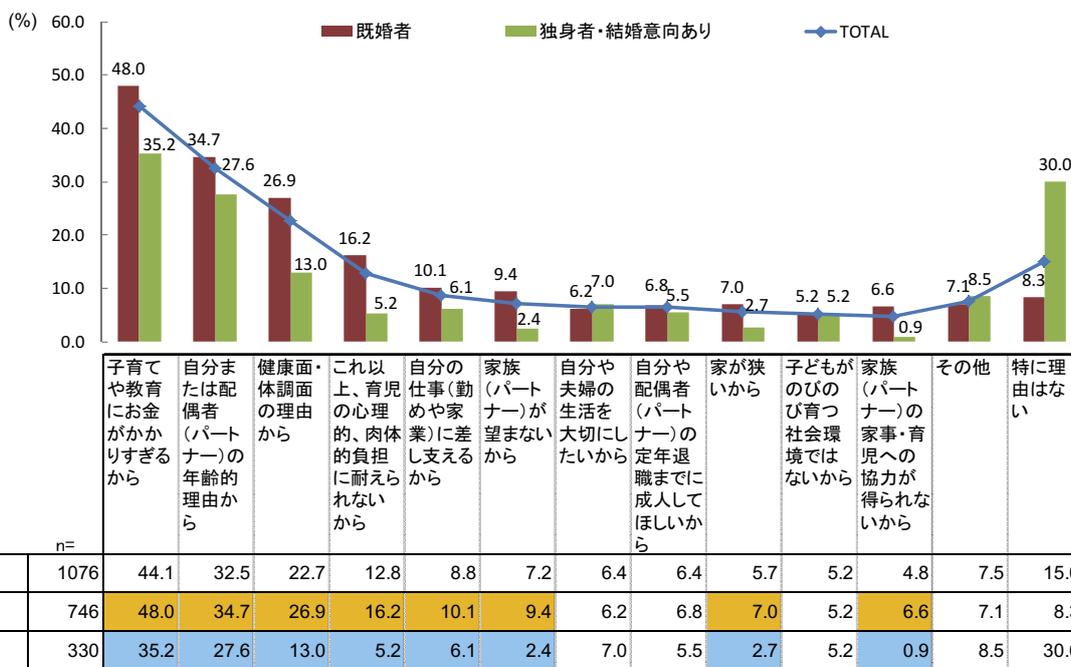
持つつもりの子どもの数が、理想の子ども数より少ないのはどうしてですか。あてはまる理
由をお答えください。（回答はいくつでも）

【回答者：「実際に持つつもり（予定）の子ども数」が、「理想の子ども数」より少ない者（結
婚意向がない者を除く）】

実際に持つつもり（予定）の子ども数が理想の子ども数よりも少ない理由としては、「子育てや
教育にお金がかかりすぎるから」（44.1%）が最も高い。以下、「自分または配偶者（パートナー）の年
齢的理由から」（32.5%）、「健康面・体調面の理由から」（22.7%）と続く。

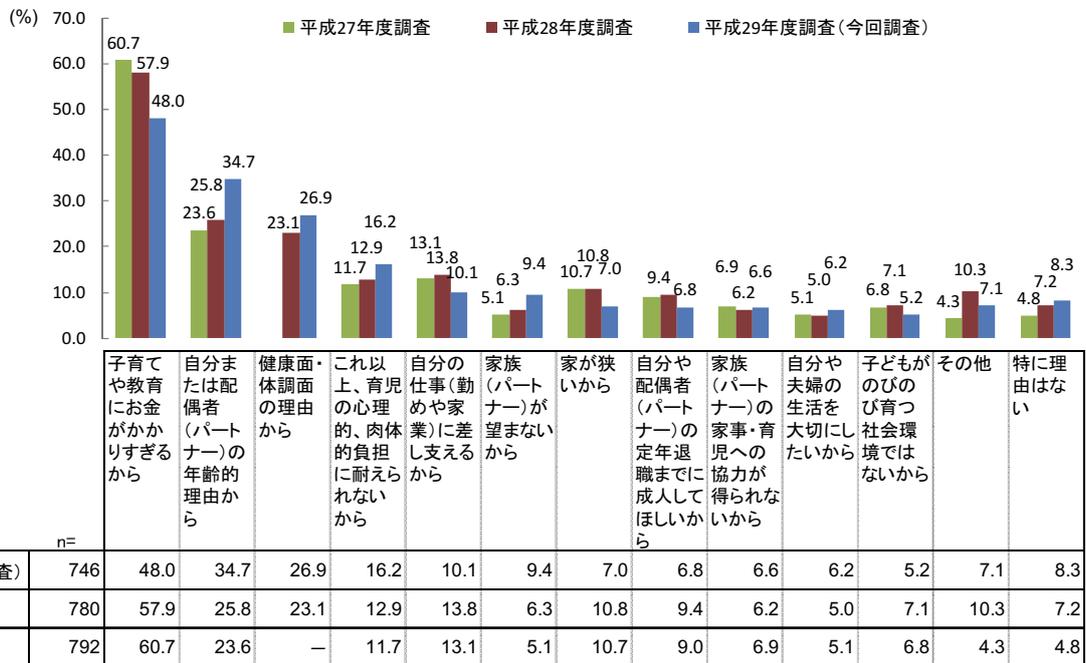
既婚者の理由をみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（48.0%）、「自分または配偶者（パ
ートナー）の年齢的理由から」（34.7%）、「健康面・体調面の理由から」（26.9%）という上位3つの理
由は、いずれも全体でみた場合よりも高い割合となっている。

独身で結婚意向がある者についてみると、既婚者に比べ経済的、年齢的な理由をあげる割合が低く、
「特に理由はない」が30.0%を占める。



※グラフはTOTALの順でソート（TOTALの順でソート）

既婚者の回答について3年間の推移を比較すると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という経済的な理由は年々低下している。一方、「自分または配偶者（パートナー）の年齢的理由から」、「健康面・体調面の理由から」、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」という理由は上昇傾向がみられる。



※グラフは今回調査の順にソート

※今回調査と前回調査の選択肢変更箇所

平成 29 年度調査（今回調査）	平成 28 年度調査	平成 27 年度調査
自分または配偶者（パートナー）の年齢的理由から	高齢で出産や子育てをするのはいやだから	高齢で出産や子育てをするのはいやだから
健康面・体調面の理由から	健康面・体調面の理由から	健康上の理由から ほしいけれどもできないから
これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	これ以上、育児の負担に耐えられないから
家族（パートナー）の家事・育児への協力が得られないから	家族の家事・育児への協力が得られないから	家族の家事・育児への協力が得られないから
家族（パートナー）が望まないから	家族が望まないから	家族が望まないから
自分や配偶者（パートナー）の定年退職までに成人してほしいから	自分や配偶者の定年退職までに成人してほしいから	自分や配偶者の定年退職までに成人してほしいから

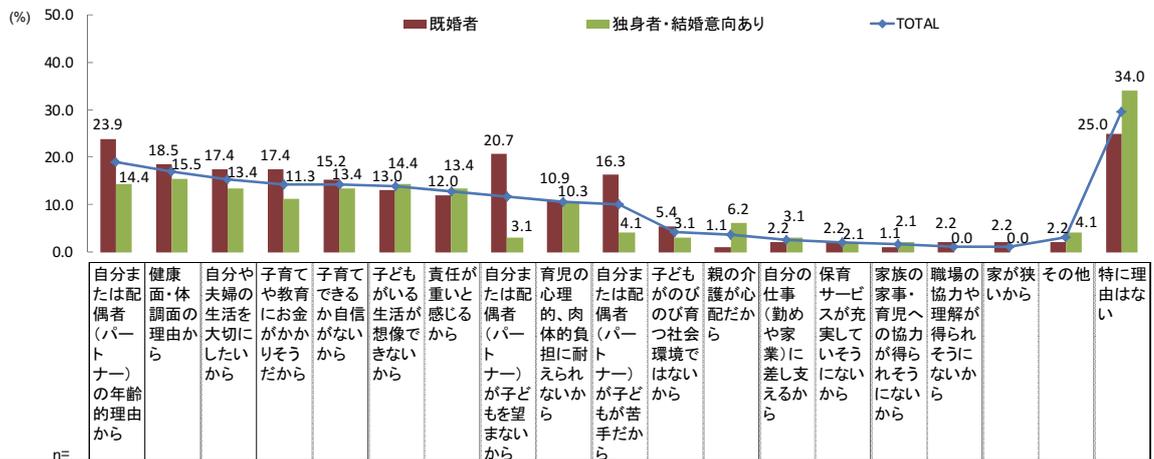
問 21 問 19 で理想の子どもの数が0と回答した人にうかがいます。

子どもを希望しない理由、子どもを持たないかもしれないと思う理由は何ですか。

(回答はいくつでも) 【回答者：「理想の子どもの数」を0人と回答した者(結婚意向がない者を除く)】

子どもを希望しない理由、子どもを持たないかもしれないと思う理由は、「自分または配偶者(パートナー)の年齢的理由から」(19.0%)、「健康面・体調面の理由から」(16.9%)、「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」(15.3%)、「子育てや教育にお金がかかりそうだから」(14.3%)等が上位にあげられている。

既婚者の場合、「自分または配偶者(パートナー)の年齢的理由から」(23.9%)、「自分または配偶者(パートナー)が子どもを望まないから」(20.7%)がそれぞれ2割を超えている。また、「自分または配偶者(パートナー)が子どもが苦手だから」(16.3%)も結婚意向のある独身者に比べ高い割合である。



	n=	自分または配偶者(パートナー)の年齢的理由から	健康面・体調面の理由から	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	子育てや教育にお金がかかりそうだから	子育てできるか自信がないから	子どもがいる生活が想像できないから	責任が重いと感じるから	自分または配偶者(パートナー)が子どもを望まないから	育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分または配偶者(パートナー)が子どもが苦手だから	子どもがのび育つ環境ではないから	親の介護が心配だから	自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	保育サービスが充実していないから	家族の協力や育児への協力が得られないから	職場の協力や理解が得られないから	家が狭いから	その他	特に理由はない
TOTAL	189	19.0	16.9	15.3	14.3	14.3	13.8	12.7	11.6	10.6	10.1	4.2	3.7	2.6	2.1	1.6	1.1	1.1	3.2	29.6
既婚者	92	23.9	18.5	17.4	17.4	15.2	13.0	12.0	20.7	10.9	16.3	5.4	1.1	2.2	2.2	1.1	2.2	2.2	2.2	25.0
独身者・結婚意向あり	97	14.4	15.5	13.4	11.3	13.4	14.4	13.4	3.1	10.3	4.1	3.1	6.2	3.1	2.1	2.1	0.0	0.0	4.1	34.0

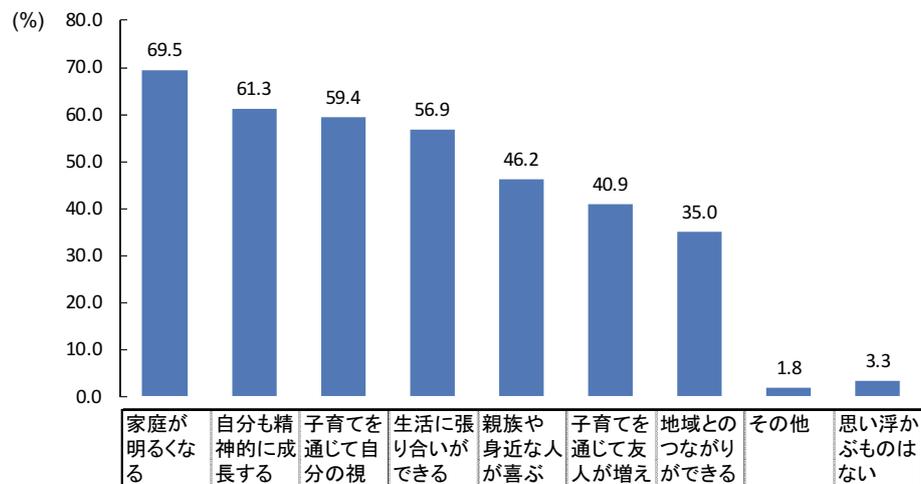
※グラフはTOTALの順でソート(TOTALの順でソート)

問 22 お子さんをお持ちのすべての方にうかがいます。

子育てしてよかったと思うことを選んでください。(回答はいくつでも) 【回答者：子どもが1人以上いる者】

子育てしてよかったと思うことは、「家庭が明るくなる」(69.5%)が最も高く、以下、「自分も精神的に成長する」(61.3%)、「子育てを通じて自分の視野が広がる」(59.4%)、「生活に張り合いができる」(56.9%)と続く。

性・年代別にみると、男性40代では「生活に張り合いができる」(62.5%)と回答する割合が高い。女性は人とのつながりができることをよかったと考える傾向がみられ、「親族や身近な人が喜ぶ」(10・20代：61.1%、30代：60.1%)、「子育てを通じて友人が増える」(30代：50.1%、40代：54.2%)、「地域とのつながりができる」(30代：39.2%)といった項目の割合が、男性よりも高い。



		n=	家庭が明るくなる	自分も精神的に成長する	子育てを通じて自分の視野が広がる	生活に張り合いができる	親族や身近な人が喜ぶ	子育てを通じて友人が増える	地域とのつながりができる	その他	思い浮かぶものはない
	TOTAL	1598	69.5	61.3	59.4	56.9	46.2	40.9	35.0	1.8	3.3
* 性年代	男性10・20代	12	66.7	33.3	41.7	25.0	25.0	33.3	25.0	0.0	8.3
	男性30代	188	72.9	57.4	56.9	53.7	47.9	25.0	27.7	2.1	4.3
	男性40代	480	68.1	62.9	55.4	62.5	39.2	26.7	32.3	1.0	3.1
	女性10・20代	72	75.0	58.3	59.7	45.8	61.1	47.2	30.6	1.4	5.6
	女性30代	431	74.9	59.4	62.4	52.4	60.1	50.1	39.2	2.1	1.9
	女性40代	415	63.1	64.3	62.7	59.3	37.3	54.2	38.1	2.4	4.1

問 23 女性：1人目のお子さんを出産したときの仕事についてお答えください。
 男性：1人目のお子さんが産まれた時の配偶者・パートナーの仕事についてお答えください。
 (回答は1つ) 【回答者：子どもが1人以上いる者】

1人目の子どもを出産したときの仕事の状況としては、「妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した」が41.7%と最も高く、「育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である)」が24.3%、「妊娠前から無職だった」が21.6%となっている。仕事を継続したのは29.0%、退職したのは43.2%である。

- 育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 育児休業を取得せず、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 妊娠前から無職だった
- 妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した
- 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した
- 子どもが3歳になって以降に退職した
- わからない・答えたくない

		n=	(%)					
	TOTAL	1598	24.3	4.7	21.6	41.7	1.4	6.3
Q1 あなたの性別をお答えください。(回答は1つ)	男性	680	27.1	4.7	24.6	34.9	1.5	7.2
	女性	918	22.2	4.7	19.4	46.7	1.4	5.6

問 24 仕事を辞めた方にうかがいます。
 1人目のお子さんの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた一番の理由は何ですか。
 (回答は1つ) 【回答者：1人目の子どもの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた者】

仕事を辞めた理由としては、「家事・育児に専念するため、自発的に辞めた」が60.0%、「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった」が17.1%である。

性別にみると、女性では男性が考えるよりも「家事・育児に専念するため、自発的に辞めた」(女性：53.2%、男性：72.2%)を理由とする割合が低く、「その他」(女性：20.1%、男性：2.8%)の理由が多い。「その他」の具体的な内容としては、体調面や社内の人間関係や制度、転居等により退職したという記述が見られた。

- 家事・育児に専念するため、自発的に辞めた
- 結婚・出産・育児を機に辞めたが、理由は結婚・出産・育児等に直接関係ない
- 仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった
- 子をもつ前と仕事内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった)
- その他
- 特にない

		n=	(%)					
	TOTAL	690	60.0	5.7	17.1	0.4	13.9	2.9
Q1 あなたの性別をお答えください。(回答は1つ)	男性	248	72.2	4.8	15.3	0.4	2.8	4.4
	女性	442	53.2	6.1	18.1	0.5	20.1	2.0

問 25 お子さんが2人以上いるすべての方のうちがいます。
 女性：2人目のお子さんを出産したときの仕事についてお答えください。
 男性：2人目のお子さんが産まれた時の配偶者・パートナーの仕事についてお答えください。
 (回答は1つ) 【回答者：子どもが2人以上いる者】

2人目出産時の仕事の状況としては、「妊娠前から無職だった（1人目出産後、離職している場合を含む）」が52.6%と最も高く、「育児休業を取得し、継続して働いた（働いている、または働く予定である）」が22.4%である。仕事を継続したのは26.7%と1人目の場合と大きな差はないが、妊娠前から無職だった割合が非常に高い。

- 育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 育児休業を取得せず、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 妊娠前から無職だった(1人目出産後、離職している場合を含む)
- 妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した
- 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した
- 子どもが3歳になって以降に退職した
- わからない・答えたくない

		n=	(%)						
Q1 あなたの性別をお答えください。(回答は1つ)	TOTAL	1048	22.4	4.3	52.6	11.7	0.9	0.4	7.7
	男性	460	24.3	4.1	47.4	12.6	1.5	0.4	9.6
	女性	588	20.9	4.4	56.6	11.1	0.3	0.3	6.3

問 26 仕事を辞めた方にうかがいます。
 2人目のお子さんの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた一番の理由は何ですか。
 (回答は1つ) 【回答者：2人目の子どもの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた者】

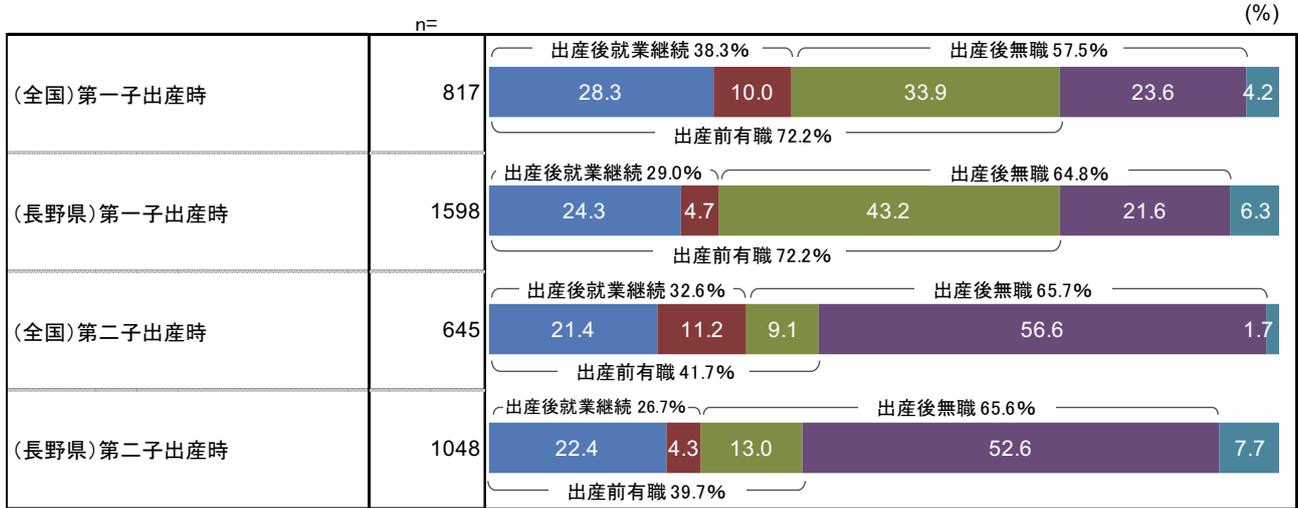
仕事を辞めた理由としては、「家事・育児に専念するため、自発的に辞めた」が46.3%、「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった」が29.4%である。

- 家事・育児に専念するため、自発的に辞めた
- 結婚・出産・育児を機に辞めたが、理由は結婚・出産・育児等に直接関係ない
- 仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった
- 子をもつ前と仕事内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった)
- その他
- 特にない

		n=	(%)					
Q1 あなたの性別をお答えください。(回答は1つ)	TOTAL	136	46.3	7.4	29.4	2.9	8.8	5.1
	男性	67	61.2	4.5	26.9	3.0	4.5	
	女性	69	31.9	10.1	31.9	2.9	17.4	5.8

全国を対象に実施した「第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（国立社会保障・人口問題研究所）と比較した結果は以下のとおりである。選択肢が異なるため、参考として掲載する。

■ 就業継続(育児休業利用) ■ 就業継続(育児休業利用なし) ■ 出産退職 ■ 妊娠前から無職 ■ 不詳



※選択肢は「第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」に合わせるため、以下のように対応させている。

第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）	平成29年度調査（今回調査）
就業継続（育児休業利用）	育児休業を取得し、継続して働いた（働いている、または働く予定である）
就業継続（育児休業利用なし）	育児休業を取得せず、継続して働いた（働いている、または働く予定である）
出産退職	妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した 子どもが3歳になって以降に退職した
妊娠前から無職	妊娠前から無職だった 妊娠前から無職だった（1人目出産後、離職している場合を含む）※第二子の場合
不詳	わからない・答えたくない

問 27 お子さんをお持ちのすべての方にうかがいます。

お子さんが3歳になるまでの間、あなたや配偶者のご両親と同居していましたか。(回答は1つ)

【回答者：子どもが1人以上いる者】

回答者本人の親と同居していたのは2割弱(父親：16.0%、母親：16.9%)、徒歩で30分程度の別居(近居)は3割強(父親：33.5%、母親：34.9%)である。

配偶者の親と同居していたのは約1割(父親：10.3%、母親：10.9%)、徒歩で30分程度の別居(近居)は父親が約3割(31.7%)、母親が4割弱(36.0%)である。

■同居 ■別居(近居) ■別居(近居以外) ■いなかった ■わからない



問 28 お子さんが3歳になるまでの間、あなたや配偶者のご両親からの子育ての手助けはありましたか。もっともあてはまる状況についてお答えください。(回答は1つ)

【回答者：親が健在であった者】

女親の母親からは、手助けが「ほとんどなかった」は13.0%で、9割弱は手助けがあったと回答している。男親の母親からは、手助けが「ほとんどなかった」が29.9%であり、女親の父親と似た傾向を示している。一方、男親の父親からは、手助けは「ほとんどなかった」が4割弱(41.7%)となっている。

■ほとんどなかった ■ときどきあった ■ひんぱんにあった ■日常的にあった



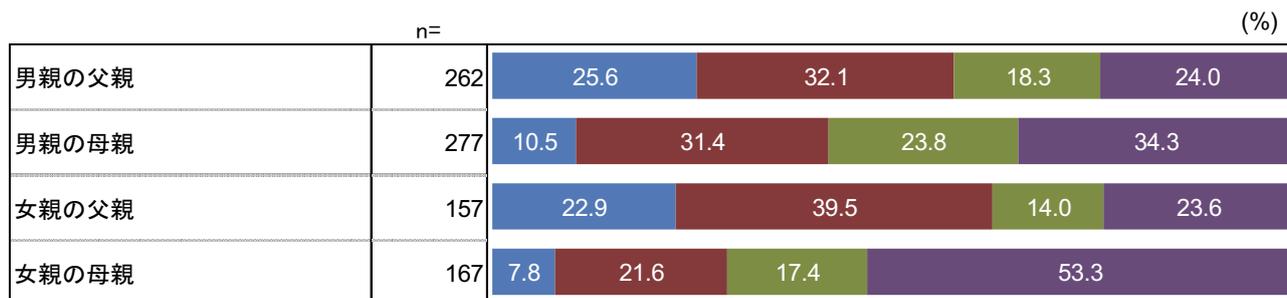
※回答者あるいは回答者の配偶者が男性の場合は「男親」とし、回答者あるいは回答者の配偶者が女性の場合は「女親」として、それぞれの父親、母親について集計を行った。

同居状況別にみると、同居の場合の方が日常的な手助けが多く、別居（近居以外）の場合には手助けがほとんどない割合が高い。

同居の場合、女親の母親からは53.3%が、男親の母親からは34.3%が、手助けが「日常的にあった」としている。

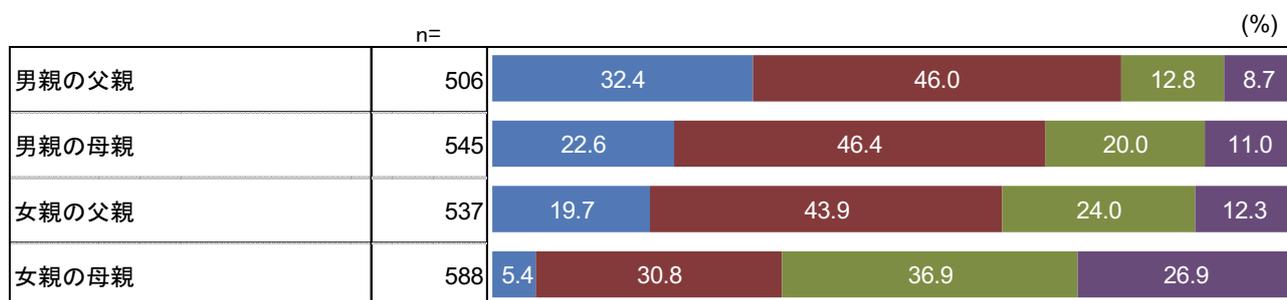
① 同居

■ ほとんどなかった ■ ときどきあった ■ ひんぱんにあった ■ 日常的にあった



② 別居（近居）

■ ほとんどなかった ■ ときどきあった ■ ひんぱんにあった ■ 日常的にあった



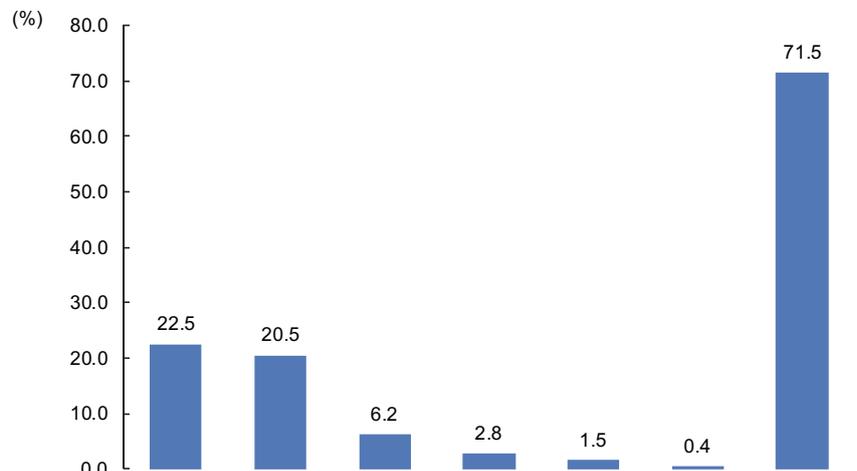
③ 別居（近居以外）

■ ほとんどなかった ■ ときどきあった ■ ひんぱんにあった ■ 日常的にあった



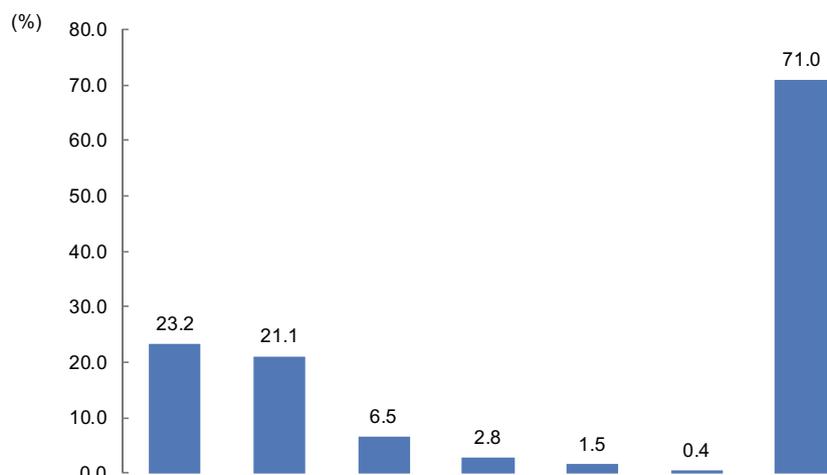
問 29 お子さんが3歳になるまでの間、以下の制度や施設を利用しましたか。あてはまる状況についてお答えください。(回答はいくつでも) 【回答者：子どもが1人以上いる者】

利用した制度・施設は「産前・産後休業制度」が22.5%、「育児休業制度（女親）」が20.5%となっている。「どれも利用しなかった」は71.5%である。



		n=	産前・産後 休業制度	育児休業 制度(女 親)	短時間勤 務制度(女 親)	企業内保 育所	育児休業 制度(男 親)	短時間勤 務制度(男 親)	どれも利用 しなかった
TOTAL		1598	22.5	20.5	6.2	2.8	1.5	0.4	71.5
* 性年代	男性10・20代	12	41.7	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	50.0
	男性30代	188	25.5	25.5	8.0	1.6	4.3	0.5	64.9
	男性40代	480	16.9	17.1	5.4	2.1	1.9	1.0	74.2
	女性10・20代	72	27.8	23.6	9.7	2.8	0.0	0.0	70.8
	女性30代	431	29.0	25.1	8.6	3.7	0.9	0.0	67.3
	女性40代	415	19.3	16.9	3.4	3.1	0.5	0.2	76.4

夫婦の働き方別にみると、共働き家庭（どちらも正規社員・職員）では、「育児休業制度（女親）」（61.9%）のほか、「産前・産後休業制度」（60.2%）、「短時間勤務制度（女親）」（23.8%）を利用している割合が高い。



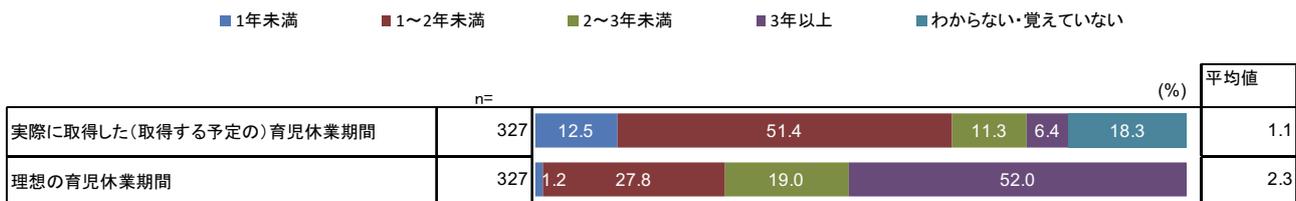
		n=	産前・産後 休業制度	育児休業 制度(女 親)	短時間勤 務制度(女 親)	企業内保 育所	育児休業 制度(男 親)	短時間勤 務制度(男 親)	どれも利用 しなかった
TOTAL		1434	23.2	21.1	6.5	2.8	1.5	0.4	71.0
* 夫婦の働き方	共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	294	60.2	61.9	23.8	8.2	1.7	0.3	28.6
	共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	553	14.3	11.6	2.5	1.8	0.7	0.4	80.8
	共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	130	19.2	16.2	2.3	1.5	0.0	0.8	75.4
	正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	393	10.7	7.1	1.0	1.0	2.3	0.5	85.8
	非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	42	11.9	7.1	4.8	0.0	4.8	0.0	83.3
	その他	22	22.7	22.7	0.0	0.0	4.5	0.0	77.3

問 30 実際を取得した育児休業の期間と、理想の育児休業の期間をそれぞれお答えください。
【回答者：育児休業取得者】

女親が実際を取得した（取得する予定の）育児休業期間は、「1～2年未満」が51.4%を占め、「1年未満」も12.5%である。

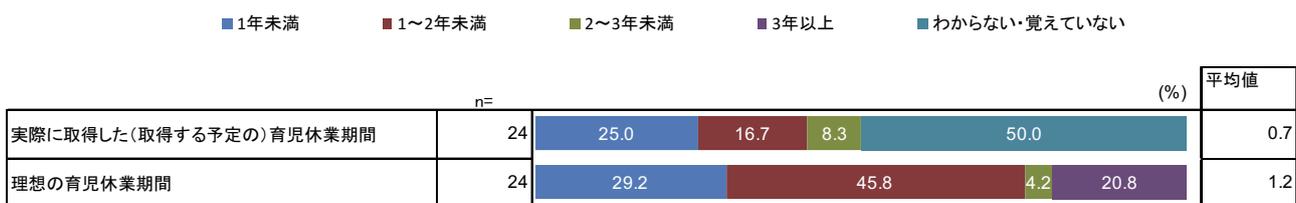
一方、理想の育児休業期間は、約5割（52.0%）が「3年以上」と回答しており、平均では2.3年となっている。

① 女親の育児休業期間



② 男親の育児休業期間

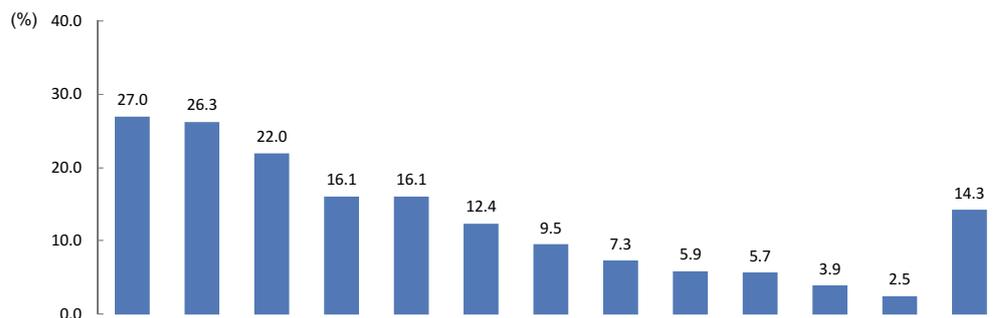
男性自身及び女性にとっての配偶者が対象であるが、取得者が少ないため参考値として掲載する。



問 31 男親が育児休業を取得しなかった、または理想の育児休業期間より実際に取得した期間が短い理由をお答えください。(回答はいくつでも)
 【回答者：男親が育児休業を取得しなかった者、または理想より実際の取得が短かった者】

男親が育児休業を取得しなかった理由は、「会社で育児休業制度が整備されていなかったから」(27.0%)の割合が最も高く、次いで「そもそも取得をする必要性を感じていなかったから」(26.3%)、「配偶者(パートナー)や家族が家事・育児を担ってくれていたから」(22.0%)と続く。

性・年代別にみると、男性40代では、「配偶者(パートナー)や家族が家事・育児を担ってくれていたから」(32.2%)、「残業の多い職場だったから」(15.2%)を理由とする割合が高い。また、女性40代では、「そもそも取得をする必要性を感じていなかったから」(32.6%)、「育児休業は男性ではなく、女性が取得すべきものだと思っていたから」(13.0%)の割合が高い。



		n=	会社で育児休業制度が整備されていなかったから	そもそも取得をする必要性を感じていなかったから	配偶者(パートナー)や家族が家事・育児を担ってくれていたから	休業取得による、所得減等の心配があったから	職場が育児休業取得しづらい雰囲気だった(会社や職場の理解がなかった)から	残業の多い職場だったから	育児休業は男性ではなく、女性が取得すべきものだと思っていたから	昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響が大きいと思ったから	休業前と同じ仕事や職場に復職できない(変化に対応できない)と思ったから	会社での手続き等が煩雑でわかりづらかった、または制度について十分わかっていなかったから	配偶者(パートナー)や家族からの後押しがなかったから	その他	わからない・覚えていない
	TOTAL	1499	27.0	26.3	22.0	16.1	16.1	12.4	9.5	7.3	5.9	5.7	3.9	2.5	14.3
* 性年代	男性10・20代	12	33.3	8.3	25.0	16.7	8.3	25.0	16.7	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3
	男性30代	180	23.3	18.9	33.3	23.3	17.2	13.9	7.2	9.4	5.6	7.2	2.8	2.8	11.7
	男性40代	453	24.7	21.4	32.2	16.1	14.1	15.2	6.0	7.7	5.3	6.8	2.6	2.0	15.9
	女性10・20代	68	33.8	26.5	8.8	23.5	29.4	13.2	16.2	17.6	7.4	4.4	5.9	1.5	14.7
	女性30代	400	29.0	29.5	16.0	18.5	22.0	12.5	10.0	7.3	7.8	4.8	4.3	2.3	12.5
	女性40代	386	27.7	32.6	13.2	9.1	9.6	7.8	13.0	4.1	4.7	4.7	5.2	3.4	15.0

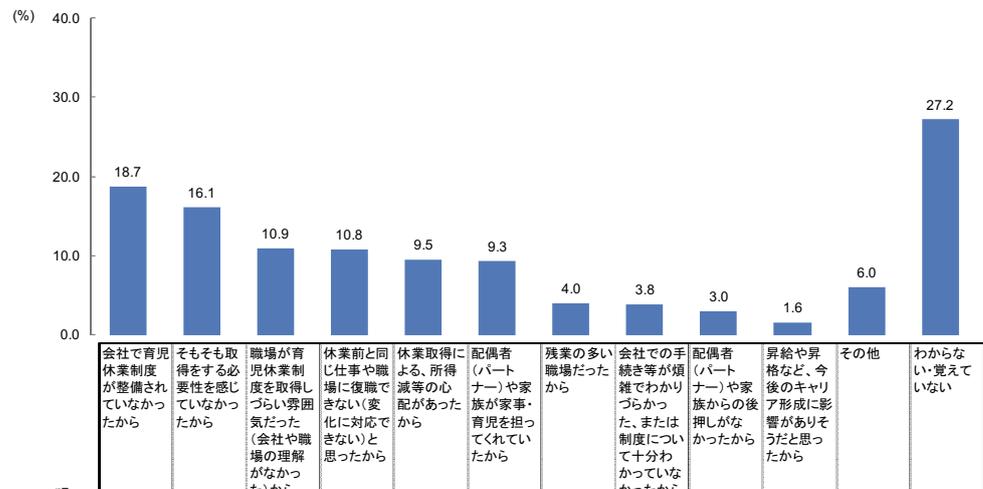
※「子どもが3歳になるまでの間は働いていなかった」の回答は除いている。

問 32 女親が育児休業を取得しなかった、または理想の育児休業期間より実際に取得した期間が短い理由をお答えください。

【回答者：女親が育児休業を取得しなかった者、または理想より実際の取得が短かった者】

女親が育児休業を取得しなかった理由は、「会社で育児休業制度が整備されていなかったから」(18.7%)、「そもそも取得をする必要性を感じていなかったから」(16.1%)が主な理由である。

性・年代別にみると、女性30代では、「会社で育児休業制度が整備されていなかったから」(26.0%)、「職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だった(会社や職場の理解がなかった)から」(18.3%)といった会社の制度や勤務先の理解を理由にあげる割合が高い一方で、「休業前と同じ仕事や職場に復職できない(変化に対応できない)と思ったから」、「休業取得による、所得減等の心配があったから」(ともに14.2%)といった復職に対する不安や所得を理由にあげる割合も高い。



		n=	会社で育児休業制度が整備されていなかったから	そもそも取得をする必要性を感じていなかったから	職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だった(会社や職場の理解がなかった)から	休業前と同じ仕事や職場に復職できない(変化に対応できない)と思ったから	休業取得による、所得減等の心配があったから	配偶者(パートナー)や家族が家事・育児を担ってくれていなかったから	残業の多い職場だったから	会社での手続き等が煩雑でわかりづらかった、または制度について十分わかっていなかったから	配偶者(パートナー)や家族からの後押しがなかったから	昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がありそうだったから	その他	わからない・覚えていない
TOTAL		1051	18.7	16.1	10.9	10.8	9.5	9.3	4.0	3.8	3.0	1.6	6.0	27.2
* 性年代	男性18-29歳	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	55.6
	男性30-39歳	126	15.9	10.3	8.7	9.5	8.7	12.7	4.8	4.0	1.6	0.8	4.0	33.3
	男性40-49歳	312	13.1	17.0	7.4	7.1	7.1	14.7	2.9	2.6	2.2	1.0	2.2	36.2
	女性18-29歳	36	19.4	5.6	8.3	13.9	19.4	2.8	0.0	8.3	2.8	2.8	5.6	33.3
	女性30-39歳	289	26.0	12.8	18.3	14.2	14.2	6.2	5.2	6.2	2.1	2.4	9.0	18.7
	女性40-49歳	279	19.0	22.9	8.6	12.2	6.8	5.7	3.9	1.8	5.7	1.8	7.9	21.5

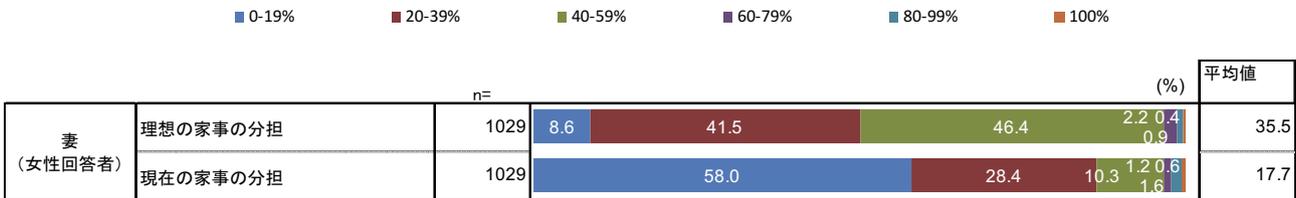
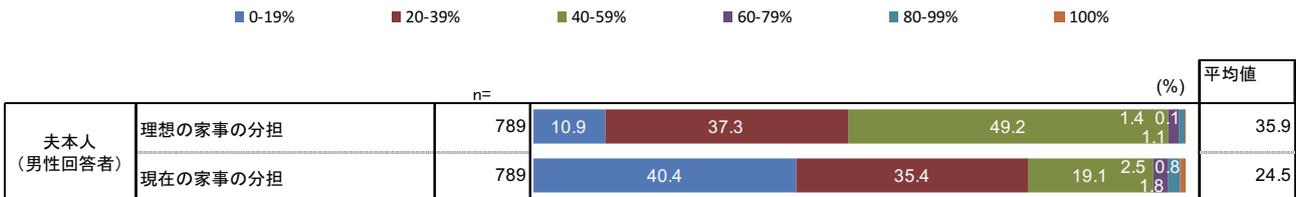
※「子どもが3歳になるまでの間は働いていなかった」の回答は除いている。

問 33 現在結婚（事実婚を含む）されている方にかがいます。
 あなた方ご夫婦の現実の分担と、理想の分担をそれぞれお答えください。【回答者：既婚者】

夫の家事の分担状況を性別にみると、理想の家事の分担の平均は、男性が 35.9%、女性が 35.5%で、現実の家事の分担の平均は、男性が 24.5%、女性が 17.7%である。

妻の家事の分担状況を性別にみると、理想の家事の分担の平均は、男性が 64.1%、女性が 64.5%で、現実の家事の分担の平均は、男性が 75.5%、女性が 82.3%である。

① - 1 家事の分担：夫



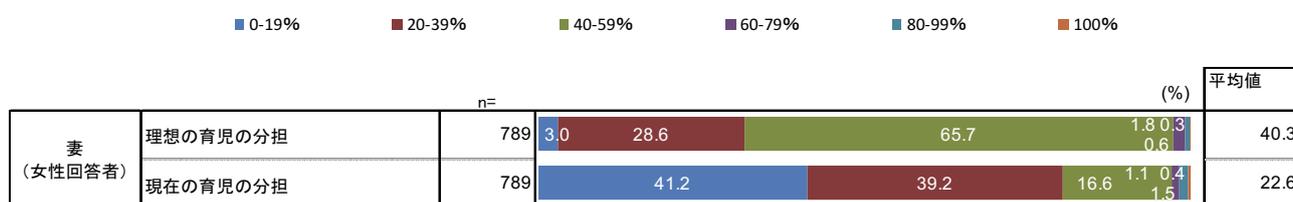
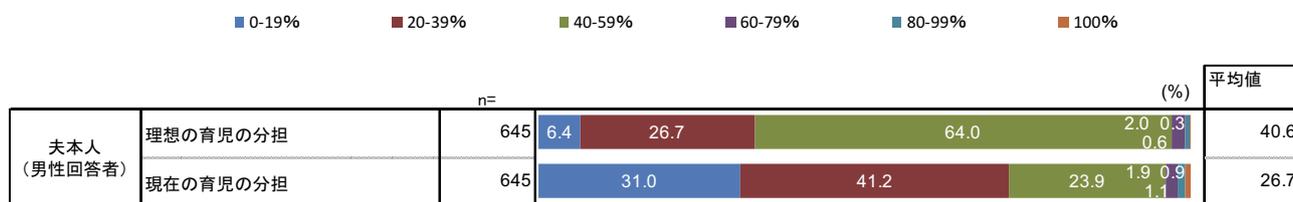
① - 2 家事の分担：妻



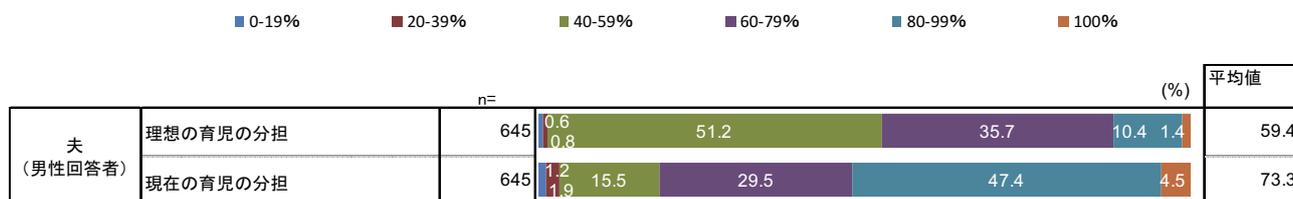
夫の育児の分担状況を性別にみると、理想の育児の分担の平均は、男性が40.6%、女性が40.3%で、現実の育児の分担の平均は、男性が26.7%、女性が22.6%である。

妻の育児の分担状況を性別にみると、理想の育児の分担の平均は、男性が59.4%、女性が59.7%で、現実の育児の分担の平均は、男性が73.3%、女性が77.4%である。

② - 1 育児の分担：夫（子どもがいる者のみ）



② - 2 育児の分担：妻（子どもがいる者のみ）



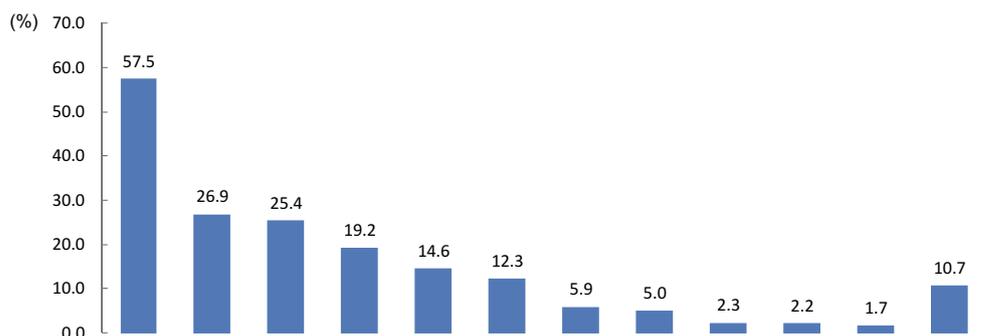
問 34 あなたは、過去5年以内（現在利用も含む）に以下の子育てサービスを利用しましたか。
 （回答はいくつでも） 【回答者：子どもが1人以上いる者】

過去5年間に利用した子育てサービスは、「保育園」が41.4%と最も高い。

「いずれのサービスも対象年齢の子どもがいなかった」の回答を除いた場合、「保育園」が57.5%と最も高く、次いで「児童館」(26.9%)、「延長保育」(25.4%)と続く。

また、子どもの年齢別にみると、「児童館」を利用した割合が、小学生(34.2%)、中学生(37.5%)で高い。

＜「いずれのサービスも対象年齢の子どもがいなかった」の回答を除いた場合＞

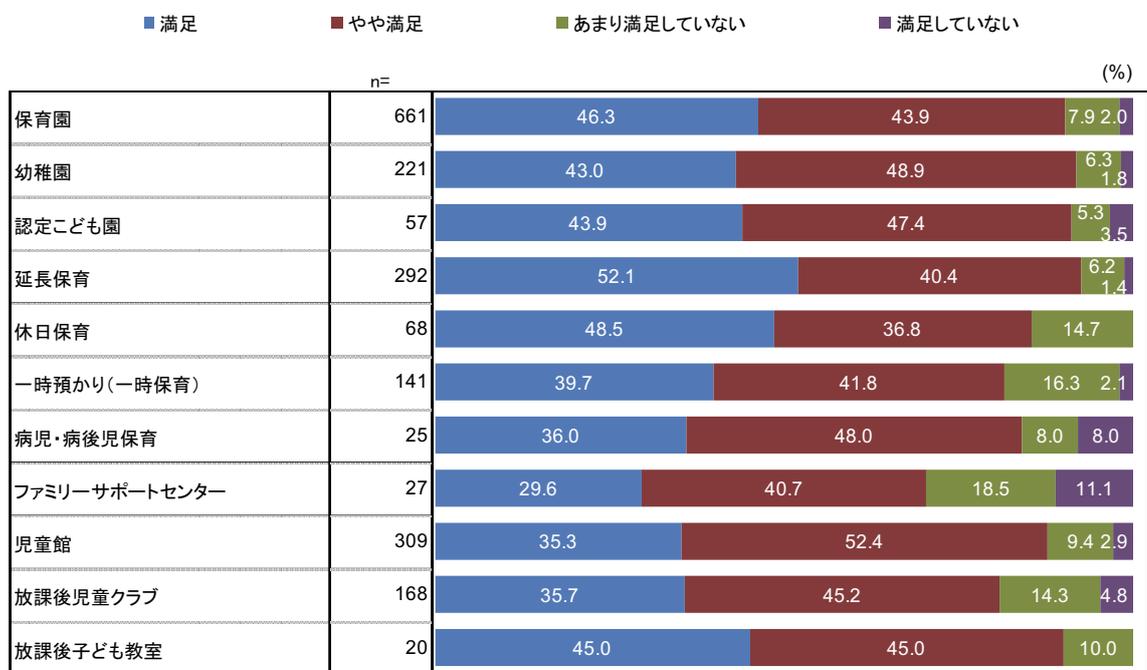


		n=	保育園	児童館	延長保育	幼稚園	放課後児童クラブ	一時預かり(一時保育)	休日保育	認定こども園	ファミリーサポートセンター	病児・病後児保育	放課後子ども教室	利用した子育て支援サービスはこの中ではない
TOTAL		1150	57.5	26.9	25.4	19.2	14.6	12.3	5.9	5.0	2.3	2.2	1.7	10.7
* 子どもの年齢	未就学児(0~6歳)	668	58.5	22.9	24.7	16.9	6.1	15.6	6.0	7.3	2.7	2.2	0.9	12.4
	小学生(6~12歳)	348	64.4	34.2	30.7	25.9	29.6	8.6	7.2	2.0	2.3	2.6	3.2	3.4
	中学生(12~15歳)	80	26.3	37.5	12.5	11.3	21.3	5.0	2.5	1.3	1.3	1.3	2.5	20.0
	その他(15歳以上)	54	46.3	13.0	18.5	16.7	13.0	5.6	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	22.2

※子どもの年齢は、問19で回答した末子年齢をもとに作成している。

問 35 あなたは、現在利用している、または過去5年間に利用した子育て支援サービスに対して総合的に満足していますか。(利用時間、サービス内容、スタッフ、料金等) (回答は1つ)
【子育て支援サービスを利用している者】

いずれのサービスも満足度は高く、「満足」、「やや満足」を合計した満足計は、「延長保育」が92.5%と最も高く、満足計が最も低い「放課後児童クラブ」でも、約8割(80.9%)が満足と回答している。



問 36 問 35 で選択しなかった（利用していない）子育て支援サービスについて、利用したことがない理由をお答えください。（回答はいくつでも）
【回答者：子育て支援サービスを利用していない者】

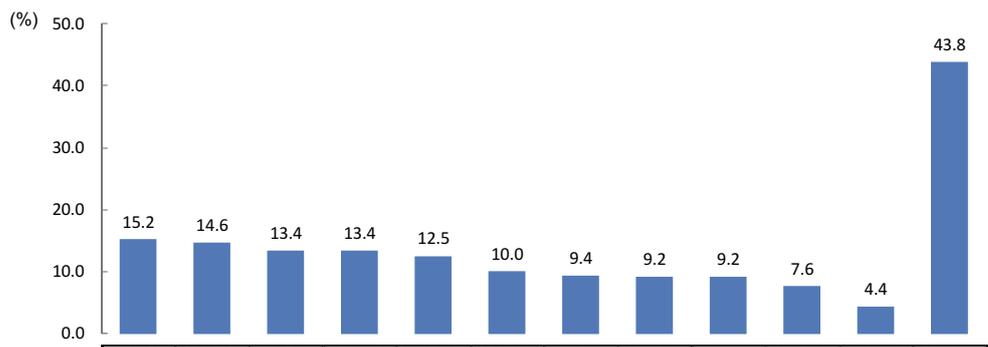
子育て支援サービスを利用しなかった理由としては、いずれのサービスでも「必要がなかったから」が最も高い。また、幼稚園、認定子ども園では「身近でサービスの提供がなかったから」が、他のサービスに比べ回答割合が高い（幼稚園：11.4%、認定こども園：16.5%）。

	n=	必要がなかったから	身近でサービスの提供がなかったから	費用が高かったから	利用の仕方がわからなかったから	そうしたサービスがあることを知らなかったから	その他	対象年齢の子どもがいないから
保育園	510	54.9	5.5	8.8	3.7	1.8	6.3	25.3
幼稚園	950	52.1	11.4	15.1	2.4	1.9	4.6	18.8
認定こども園	1114	55.9	16.5	4.0	4.6	5.9	1.4	16.3
延長保育	879	65.5	4.7	8.5	1.6	1.8	0.8	19.2
休日保育	1103	70.8	6.0	6.0	1.7	1.5	1.0	15.0
一時預かり(一時保育)	1030	70.6	4.3	7.2	3.9	1.9	0.9	14.1
病児・病後児保育	1146	69.1	6.9	3.1	5.5	3.4	1.4	13.0
ファミリーサポートセンター	1144	66.4	8.6	3.1	6.4	8.1	1.2	10.2
児童館	862	69.6	8.1	2.0	5.0	2.9	0.7	13.6
放課後児童クラブ	1003	68.1	4.7	2.2	3.2	3.8	0.5	19.1
放課後子ども教室	1151	64.1	8.4	1.3	3.4	5.4	0.1	19.0

問 37 今後利用したい子育て支援サービスをお答えください。
 【回答者：現在サービスを利用していない者】

今後利用したい子育てサービスについては、「児童館」が15.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ」(14.6%)、「延長保育」、「病児・病後児保育」(ともに13.4%)と続く。一方、「特にない」は43.8%である。

子どもの年齢別にみると、すべてのサービスにおいて未就学児の回答割合が高く、小学生が対象の「放課後児童クラブ」、「放課後子ども教室」も小学生より未就学児の割合が高い。



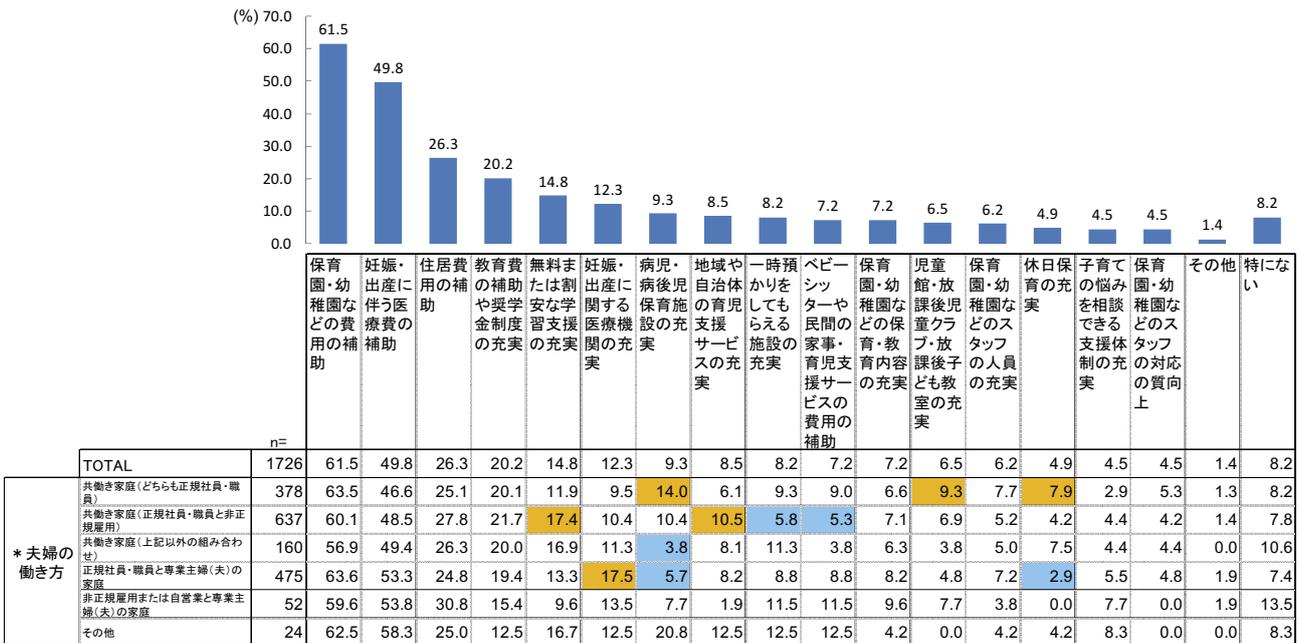
		n=	児童館	放課後児童クラブ	延長保育	病児・病後児保育	保育園	放課後子ども教室	一時預かり(一時保育)	休日保育	ファミリーサポートセンター	幼稚園	認定こども園	特にない
TOTAL		937	15.2	14.6	13.4	13.4	12.5	10.0	9.4	9.2	9.2	7.6	4.4	43.8
*子どもの年齢	未就学児(0~6歳)	636	16.8	15.6	18.2	16.5	17.0	9.7	12.6	12.1	11.0	10.2	6.1	34.4
	小学生(6~12歳)	255	11.8	14.9	3.1	6.3	2.4	11.8	2.4	2.7	4.7	2.0	0.8	63.5
	中学生(12~15歳)	26	7.7	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	76.9
	その他(15歳以上)	20	15.0	0.0	10.0	20.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0	5.0	0.0	45.0

※「対象年齢の子どもがいない」の回答は除いている。

問 38 子どもを産み、育てる上で、過去の経験や将来の希望も含めて、行政（県や市町村）に充実を希望する出産・子育て支援は何ですか。
 優先順位が高いもの3つまでお答えください。（回答は3つまで）
 【回答者：子どもが1人以上いる者、または理想の子どもの人数が1人以上の者】

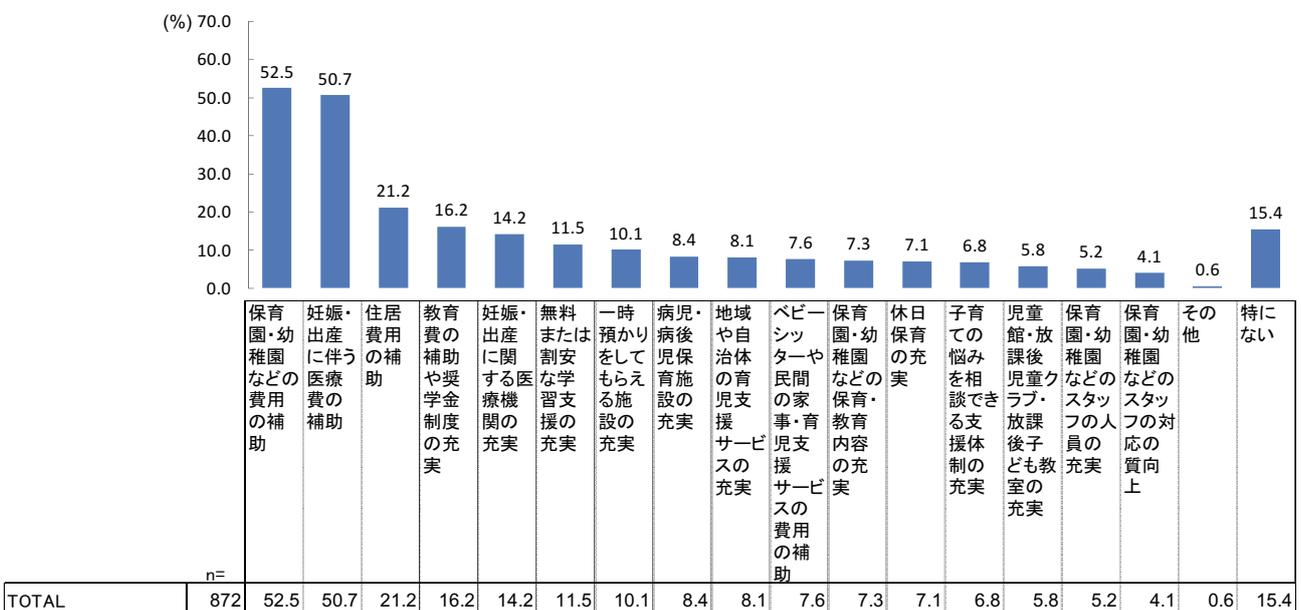
＜「既婚者」の場合＞

夫婦の働き方別にみると、共働き家庭（どちらも正規社員・職員）では、「病児・病後児保育施設の充実」（14.0%）、「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」（9.3%）、「休日保育の充実」（7.9%）の割合が高い。また、共働き家庭（正規社員・職員と非正規雇用）では、「無料または割安な学習支援の充実」（17.4%）、「地域や自治体の育児支援サービスの充実」（10.5%）の割合が高い。



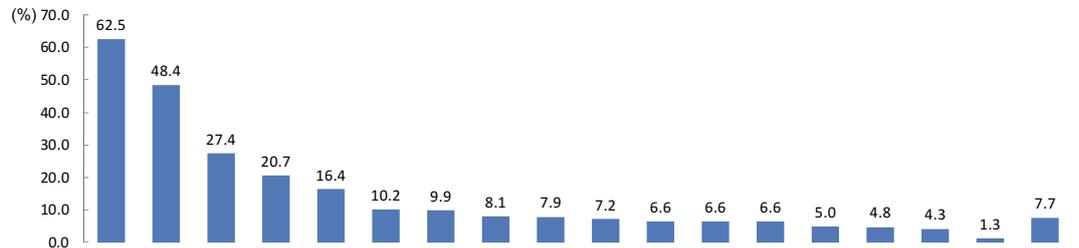
＜「独身者」の場合＞

独身者をみると、「保育園・幼稚園などの費用の補助」及び「妊娠・出産に伴う医療費の補助」が5割を超えている。



<「子どもが1人以上いる者」の場合>

子どもの年齢別にみると、未就学児では「保育園・幼稚園などの費用の補助」が7割（71.4%）にのぼり、充実を希望する割合が高い。



		n=																		
		保育園・幼稚園などの費用の補助	妊娠・出産に伴う医療費の補助	住居費の補助	教育費の補助や奨学金制度の充実	無料または割安な学習支援の充実	病児・病後児保育施設の充実	妊娠・出産に関する医療機関の充実	地域や自治体の育児支援サービスの充実	一時預かりをしてもらえる施設の充実	ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの補助	保育園・幼稚園などの保育・教育内容の充実	保育園・幼稚園などのスタッフの充実	児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実	休日の保育の充実	保育園・幼稚園などのスタッフの対応の質向上	子育ての悩みを相談できる支援体制の充実	その他	特になし	
TOTAL		1598	62.5	48.4	27.4	20.7	16.4	10.2	9.9	8.1	7.9	7.2	6.6	6.6	6.6	5.0	4.8	4.3	1.3	7.7
* 子どもの年齢	未就学児(0～6歳)	763	71.4	49.9	30.0	16.9	15.5	10.6	12.2	8.8	9.0	8.3	8.5	7.6	5.5	3.9	5.4	3.9	1.6	3.5
	小学生(6～12歳)	386	54.1	45.9	28.8	23.6	19.4	11.1	7.0	8.3	4.9	7.8	4.9	7.8	9.8	3.1	4.4	4.7	1.8	8.8
	中学生(12～15歳)	170	53.5	46.5	23.5	25.9	20.0	9.4	7.6	7.6	7.6	5.9	5.3	3.5	5.9	8.8	5.3	4.1	0.0	8.8
	その他(15歳以上)	279	54.8	49.1	20.8	23.7	12.5	8.2	9.3	6.1	9.0	4.3	4.3	3.9	5.4	8.2	3.6	4.7	0.7	16.8

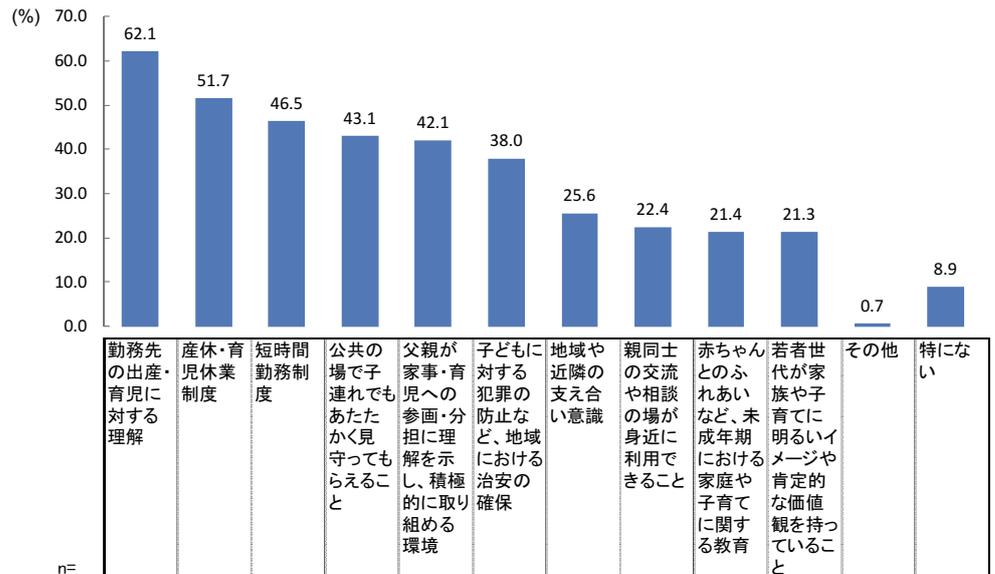
問 39 子どもを産み、育てる上で勤務先や社会環境に充実を求めるものは何ですか。

(回答はいくつでも)

【回答者：子どもが1人以上いる者、または理想の子どもの人数が1人以上の者】

勤務先や社会環境に充実を求めるものについては、「勤務先の出産・育児に対する理解」が62.1%と最も高く、次いで「産休・育児休業制度」(51.7%)、「短時間勤務制度」(46.5%)と続く。

性・雇用形態別にみると、女性の方が各項目の充実を求める割合が高く、正規の社員・職員では「勤務先の出産・育児に対する理解」(70.9%)、派遣・嘱託・契約社員では「産休・育児休業制度」(68.5%)の割合が最も高い。

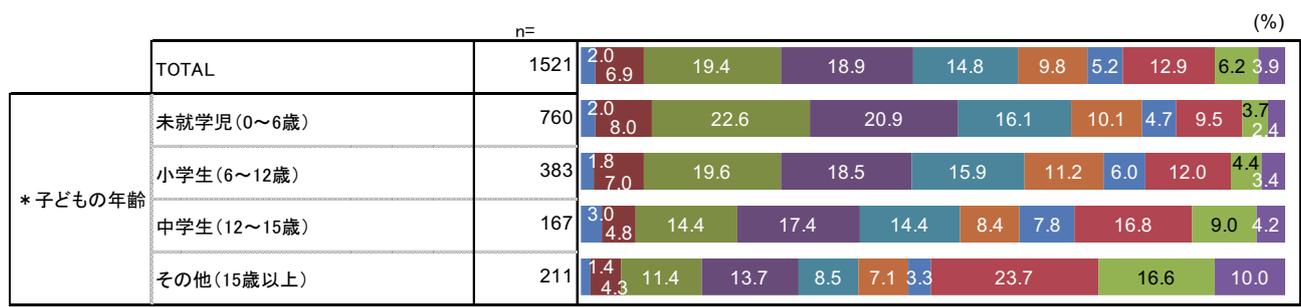


		n=	勤務先の出産・育児に対する理解	産休・育児休業制度	短時間勤務制度	公共の場で子ども連れでもあたたかく見守ってもらえること	父親が家事・育児への参画・分担に理解を示し、積極的に取り組める環境	子どもに対する犯罪の防止など、地域における治安の確保	地域や近隣の支え合い意識	親同士の交流や相談の場が身近に利用できること	赤ちゃんとのふれあいなど、未成年期における家庭や子育てに関する教育	若者世代が家族や子育てに明るいイメージや肯定的な価値観を持っていること	その他	特になし
TOTAL		2598	62.1	51.7	46.5	43.1	42.1	38.0	25.6	22.4	21.4	21.3	0.7	8.9
性別×雇用形態	■男性 計	1170	58.7	47.6	33.2	35.4	35.0	33.4	25.7	18.1	18.3	21.0	0.8	11.8
	正規の社員・職員	938	59.9	48.1	35.2	35.4	36.5	33.5	25.8	18.9	19.6	22.0	1.0	10.6
	パート・アルバイト	36	58.3	50.0	25.0	30.6	19.4	30.6	33.3	19.4	2.8	16.7	0.0	13.9
	派遣・嘱託・契約社員	48	54.2	56.3	20.8	37.5	29.2	33.3	25.0	20.8	16.7	14.6	0.0	8.3
	自営業主・家族従業員	104	49.0	32.7	21.2	33.7	28.8	33.7	22.1	9.6	11.5	20.2	0.0	23.1
	無職・家事	30	60.0	53.3	43.3	36.7	30.0	30.0	20.0	10.0	6.7	10.0	0.0	16.7
	■女性 計	1428	64.9	55.0	57.4	49.4	48.0	41.7	25.6	25.8	24.0	21.6	0.7	6.6
	正規の社員・職員	423	70.9	62.4	62.9	49.2	50.1	40.0	26.2	27.9	24.3	21.0	0.5	5.0
	パート・アルバイト	444	61.3	49.1	54.5	45.9	47.1	43.2	24.3	24.1	22.7	23.4	0.9	6.8
	派遣・嘱託・契約社員	108	63.9	68.5	57.4	46.3	47.2	31.5	22.2	21.3	25.9	19.4	0.9	6.5
自営業主・家族従業員	51	62.7	47.1	43.1	51.0	51.0	45.1	31.4	33.3	31.4	25.5	0.0	7.8	
無職・家事	361	63.4	51.2	57.9	55.4	47.1	44.6	26.3	24.9	23.5	20.8	0.8	7.5	

問 40 ながの子育て家庭優待パスポート事業をどれくらいの頻度で活用していますか。(回答は1つ)
 【回答者：子どもが1人以上いる者（事業の対象でない者を除く）】

ながの子育て家庭優待パスポート事業の利用頻度は、「週に1～2回使う」が19.4%で、「ほぼ毎日使う」、「週に3～4回使う」と合わせると、3割弱（28.3%）は週1回以上利用と回答している。
 子どもの年齢別にみると、年齢が低いほど利用している割合が高い。

- ほぼ毎日使う
- 週に3～4回使う
- 週に1～2回使う
- 月に2～3回使う
- 月に1回程度使う
- 2・3ヶ月に1回程度使う
- 半年に1回程度使う
- ほとんど使わない
- 全く使ったことがない
- 事業について知らない

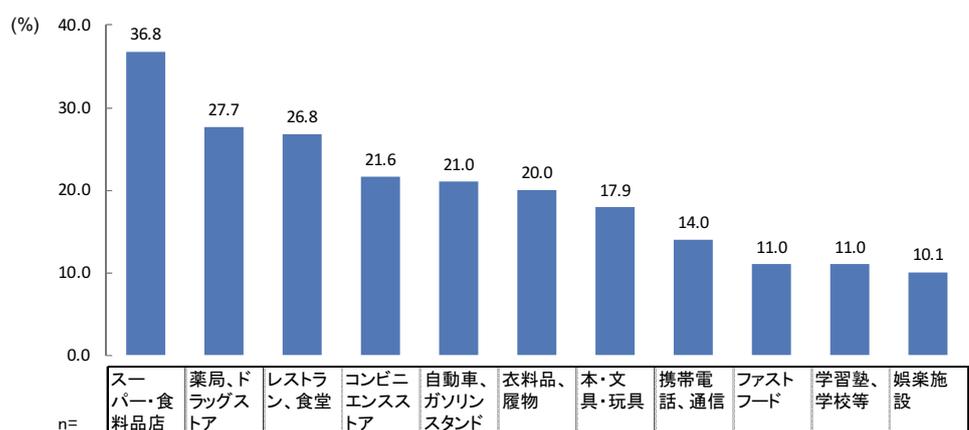


※年度末年齢 18 歳以下のお子さんがある場合

問 41 ながの子育て家庭優待パスポート事業で、協賛店舗が増えてほしい業種は何ですか。
 (回答は3つまで) 【回答者：妊娠中、または年度末年齢18歳以下の子どもがいる者】

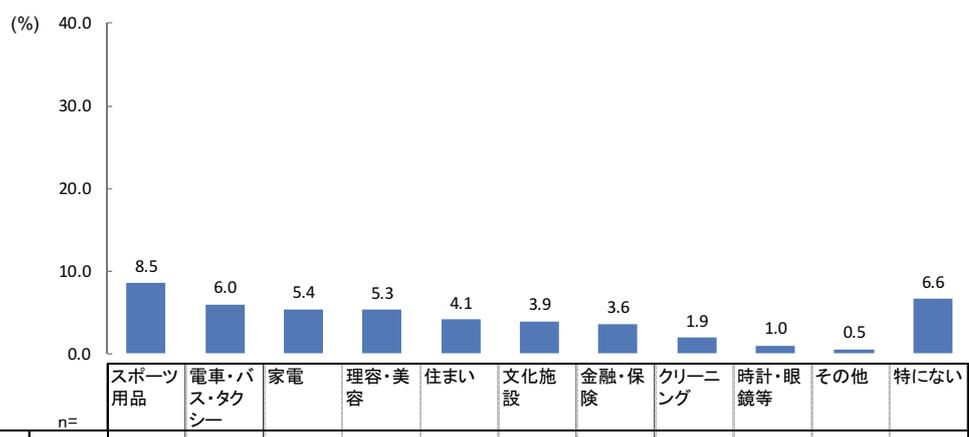
協賛店が増えてほしい業種としては、「スーパー・食料品店」が36.8%と最も高く、次いで「薬局、ドラッグストア」(27.7%)、「レストラン、食堂」(26.8%)と続く。

子どもの年齢別にみると、小学生では、「本・文具・玩具」(23.2%)、中学生では、「スポーツ用品」(18.6%)の回答割合が高い。



		n=	スーパー・食料品店	薬局、ドラッグストア	レストラン、食堂	コンビニエンスストア	自動車、ガソリンスタンド	衣料品、履物	本・文具・玩具	携帯電話、通信	ファストフード	学習塾、学校等	娯楽施設
TOTAL		1521	36.8	27.7	26.8	21.6	21.0	20.0	17.9	14.0	11.0	11.0	10.1
*子どもの年齢	未就学児(0~6歳)	760	42.2	31.2	29.9	21.3	23.0	21.8	17.0	13.0	13.3	6.3	11.8
	小学生(6~12歳)	383	29.0	23.2	23.8	23.2	20.9	20.6	23.2	13.8	9.7	14.9	10.7
	中学生(12~15歳)	167	32.3	24.0	28.7	22.8	13.2	15.0	16.2	16.2	7.8	19.8	5.4
	その他(15歳以上)	211	34.6	26.1	19.4	18.5	20.4	16.1	12.8	16.1	7.6	13.7	6.2

(上表のつづき)

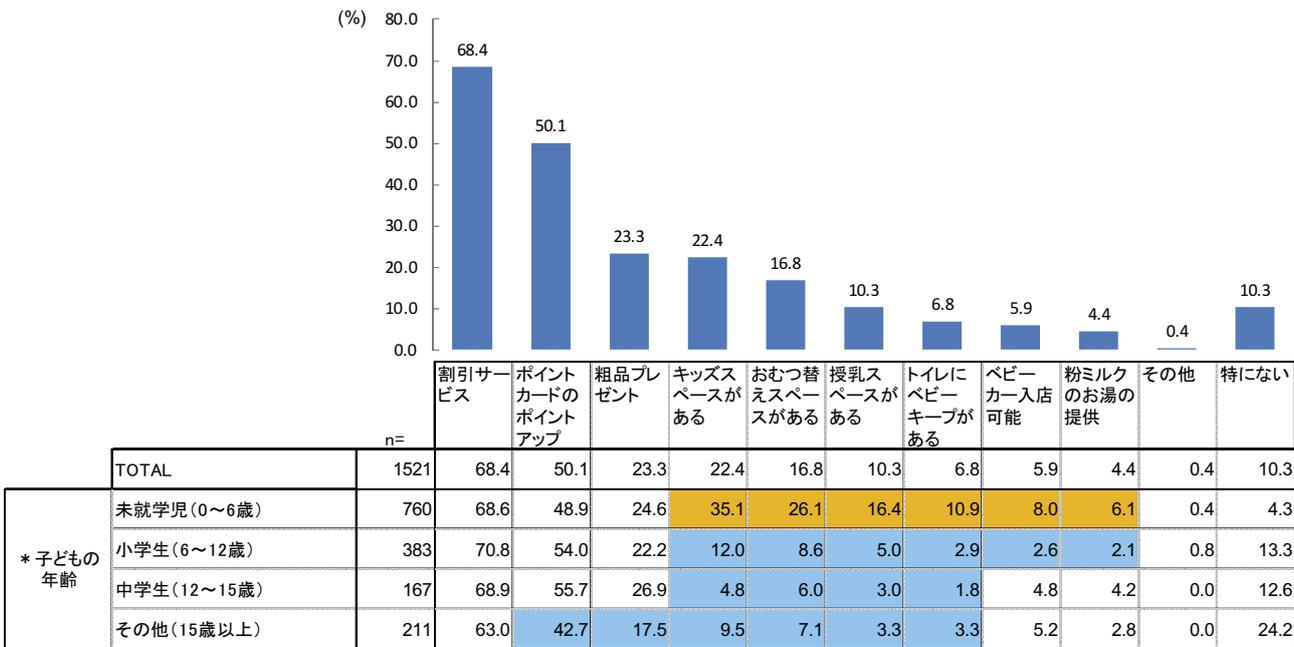


		n=	スポーツ用品	電車・バス・タクシー	家電	理容・美容	住まい	文化施設	金融・保険	クリーニング	時計・眼鏡等	その他	特にない
TOTAL		1521	8.5	6.0	5.4	5.3	4.1	3.9	3.6	1.9	1.0	0.5	6.6
*子どもの年齢	未就学児(0~6歳)	760	5.0	4.9	5.7	5.4	5.9	3.8	4.5	2.0	0.7	0.4	3.2
	小学生(6~12歳)	383	11.0	4.7	5.5	5.0	2.3	5.5	0.8	1.0	1.3	0.8	8.9
	中学生(12~15歳)	167	18.6	6.6	7.8	6.0	3.0	2.4	2.4	4.2	2.4	0.0	6.6
	その他(15歳以上)	211	9.0	12.3	2.4	5.2	1.9	2.4	6.2	1.4	0.5	0.5	15.2

問 42 ながの子育て家庭優待パスポート事業で、あったらよいと思う特典、サービス内容は何ですか。
 (回答は3つまで) 【回答者：妊娠中、または年度末年齢18歳以下の子どもがいる者】

希望する特典、サービス内容としては、「割引サービス」が68.4%と最も高く、次いで「ポイントカードのポイントアップ」(50.1%)と続く。

子どもの年齢別にみると、未就学児では「キッズスペースがある」(35.1%)や「おむつ替えスペースがある」(26.1%)等、子どものためのスペースや設備を希望する割合が高い。



問 43 子育てをしていて、困った経験、悩んでいること、不安なことはありますか。

どんなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。(自由記述)

【回答者：子どもが1人以上いる者】

子育てで困った経験、悩みや不安なことを自由回答で聞いたところ、数多くの回答が寄せられた。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、代表的・具体的な内容等を、できる限り原文に近い表記で掲載している。

【相談に関すること】

- ・ 妊娠、出産、育児についての相談窓口の情報入手がもっと簡単にできるといいと思う。苦勞して探して相談しても、みんな大変なのだから頑張らましようって感じの対応では意味がないように思ってしまうので、改善してほしい。(男性 40 代)
- ・ 相談できるほど仲の良い人がいない。地元でないと入りにくい雰囲気がある。(女性 30 代)
- ・ 子供の発達に関する相談についての窓口の充実を望む。(男性 40 代)

【子育て情報に関すること】

- ・ 保健所などで開催されている会の情報がネットになく、クチコミでしか知ることができず不便。(女性 30 代)
- ・ 地元住民とのかかわりがあまりなく、夫婦ともに移住組なので、地域の情報があまりはいつてこない。(女性 30 代)
- ・ どんな子育て支援サービスがあるのか、転入者に対する情報提供が出来ていないため、どこに行っているか分からず、引きこもり状態であった。(女性 40 代)
- ・ 上の学校の情報が入らない。荒れているとか。人に聞いても本当かは分からないし、そもそも聞きにくい。(女性 40 代)

【施設や設備に関すること】

- ・ 父親がおむつ替えをしようとしてもなかなか環境が整っていない。(男性 30 代)
- ・ 外出先のトイレでは小さい子供の補助便座や、ズボンや靴などを脱がせる場所がなく非常に不便です。(女性 40 代)
- ・ トイレの個室にベビーキープがあったとしても手洗い場にはまず付いてないので手が洗えない。(女性 30 代)
- ・ 暑い時期、子供が車で寝てしまった時、車の中に置かなくても済むように、スーパーなどで買い物の間寝させて置いてくれるスペースがあったらいいかも。(女性 40 代)
- ・ お店の造り(店内が狭かったり、階段しかなかったり)がベビーカーで入店しにくく、抱っこひもでないと買い物出来ず苦勞することが多い。(女性 30 代)
- ・ 公共交通機関の減少の影響で自家用車を持たないと生活が成り立たないこと。徒歩で済む事もありますが、炎天下の中乳児を連れ出すのも躊躇いますし、うっかりオムツを切らしてしまったなどの状況になれば子連れで徒歩の買い物は厳しいものがあります。(女性 30 代)
- ・ 室内で遊ぶ場所がない。雨の日、猛暑日、真冬。支援センターはグループが出来ていて、若ママは入りづらい。(女性 10・20 代)
- ・ 子供が遊ぶ場所が少ない。(男性 10・20 代)

【サービスに関すること】

- ・ 親族が近くにおらず気軽に預かってくれる人がいないのに、一時預かり等が不便。利用したくてもなかなか空きがない。(女性 30 代)
- ・ 近くに親族が住んでいないので、緊急時に子どもについて頼れるところが無い。ファミサポは事前登録、予約制で使いにくい。登録場所が遠くにあるので、使いにくい。(女性 30 代)
- ・ 夫婦共にサービス業で不定休、互いの両親も住まいが離れているので、盆や正月での子どもの世話と仕事のやりくりが難しい。(男性 30 代)
- ・ 買い物やちょっとした用足の時に子どもを気楽に預けられる場所があったらもっと利用したと思います。(女性 40 代)
- ・ 下の子が具合悪い日、上の子の幼稚園の送迎をしなければならない時に、短時間だけでも気軽に預かってくれる所があればすごくありがたい。(女性 30 代)
- ・ ひとり親だったので、親が病気になったときいつでも預かってくれるところがほしかった。(女性 40 代)
- ・ 仕事で子供を預けたいけれど、預けられる時間に制限があること。24 時間預けられる施設が増えてほしい。(女性 40 代)
- ・ 保育園は住んでいる市町村に預けることが前提となっており、転勤等で住居地とは離れた勤務地となった場合、勤務地の近くの保育園に預けることができず、保育園からの急な迎えの呼び出しに対して敏速に対応できない。(男性 30 代)

【医療に関すること】

- ・ 急に子供が具合悪くなったときに、病院へ行く基準をアドバイスしてもらいたい。特に夜中、#8000 がつながらない。(女性 30 代)
- ・ 夜間に発熱したときに 当番医に行っても小児科は担当ではないから明日来て と言われることが多い。(女性 30 代)
- ・ 日曜日にやっている病院、小児科が限られているので、不便です。(男性 30 代)

【経済的支援・金銭面に関すること】

- ・ 保健師などは一時保育など積極的に活用してなどというが、値段が高くて、お金のある人しか使えないのが現実。(女性 30 代)
- ・ 夫婦共に実家が遠く、近くに頼れる人がいないので、子どもが病気になったときファミリーサポートなどを利用したが、時間や日数が長かったのでかなり料金が高かった。(女性 30 代)
- ・ 収入が低いため、今後の教育と自分達の老後のバランスに悩んでいる。(男性 40 代)
- ・ 離婚して 1 歳の娘がいます。保育園にいれて昼間働いて、夜、休日は内職しても収入が 10 万ぐらい。子供と遊ぶ時間もない。実家暮らしで母子手当で貰えなくて金銭的に厳しい。(女性 30 代)
- ・ 父子世帯に対する補助や支援が母子世帯より少ない事。(男性 40 代)
- ・ 日本の将来が不安で子供を産み育てづらい世の中だと思う。うちもあともう一人ほしいが金銭的やいろいろな面で自信がなくなかなか踏み切れない。(女性 30 代)

【勤務先に関すること】

- ・ 保育園で次々と病気にかかり月に 4 日しか通園できないことがあり、会社もそんなに休めず、休むと嫌みを言われた。(女性 40 代)
- ・ 子どもがいると自由がきかない。買い物も出来ない事がよくある。会社で独身者は子育てに理解がない人が多い。休みの取得が母親ばかりに偏っている。父親も参観日や送り迎え等に参加すべきと思います。子育てに参加できる環境が圧倒的に足りていません。(女性 30 代)

- ・ 職場はサービス業だったので、急病で休むと嫌な顔をされたりもしました。夫婦で共働きの場合リスクを背負うのは必ず母親です。もう少し旦那さんの会社も育休が取りやすくなると、いいと思います。（女性 40 代）
- ・ 子育て、家事、仕事の両立が難しい。毎日時間に追われ 精神的に余裕がなくなる。でも全てをやらなければ 生活が成り立たない。（女性 40 代）

【家庭での育児負担に関すること】

- ・ 夫が家庭を省みず困っている。ママ友や子育て支援センターなど愚痴るところはあるが根本的な解決につながらず、私一人家事と育児に追われ、職場復帰を控え困っている。もっと夫に家事や育児に関わってもらいたいが、残業が多い職場や家事や育児は女性の役割など、環境面や夫の考え方が変わらないと厳しい。（女性 30 代）
- ・ 単身赴任で、子育てができる環境にない。仕事が多忙で、金もかかるので自宅にも帰れない。（男性 40 代）
- ・ パパの育児参加や協力が出来る環境が欲しい。支援センターに相談に行かれないママのために月一回保健師が自宅に訪問に来てくれる、その時ママ以外の家族にどれだけ協力出来ているのか聞き取りしてくれるサービスがあると嬉しい。（女性 30 代）
- ・ お金がなく時間労働すると子育てに協力する時間が減ってしまったこと。（男性 40 代）

【県や自治体等からの支援に関すること】

- ・ 自治体で申請や申込みなどが面倒、分かりにくい。（男性 40 代）
- ・ パスポートの利用に対して制限、ハードルのある店舗（店のポイントカードがないとダメ…設定料金以上でないとダメ等）があったり、加盟店であることを教えてくれなかったりで使えません。（女性 40 代）
- ・ 保育料は市で割引してくれるが、小学校中学校になるとないので、給食費とか割引してほしい。（女性 30 代）
- ・ 子供手当の支給が市町村であります、高校年代まであってほしいと思います。（男性 40 代）
- ・ 運転免許がないため、連れて行ける病院に限られること。タクシーを利用していたが、距離がある場所や、近場でも頻繁に行くようになってかなり費用がかかる。他県には子育てタクシーなるサービスがあるので、そういったサービスが県内でも利用できるようなればいいと思う。（女性 30 代）
- ・ 子どもがいきなり熱を出した時に手持ちのお金がない時に後日支払えるようになると助かる。（女性 10・20 代）

【その他】

- ・ こどもが自閉スペクトラム障害で、感情を爆発させてしまうことが多く、親子共に疲労しています。発達障害のこどもが通える放課後スクールのような施設があると有難いです。（女性 40 代）
- ・ 育児、家事、仕事に追われたまには 1 人の平日休みがほしいと思う。（女性 10・20 代）
- ・ 近所に小さい子供がいる家族が住んでいない。子供が日常的に交流できる機会がない。（男性 30 代）
- ・ 村内の子供の人数が少ない。一クラス 10 人前後なので中学、高校で人数が増えたときうまくやっていけるか心配。（女性 40 代）
- ・ 年寄りと子供の接点が無さすぎ。もっと保健センターとかで集いがあればと思う。（女性 30 代）

附属資料(調査票)

本調査

長野県民の結婚・出産・子育てに関するアンケート

このアンケートは、以前のアンケートで長野県にお住まいとご回答された方を対象にお送りしています。

このアンケートには、結婚・出産・子育ての状況やお考えをうかがう内容が含まれています。長野県にお住まいの皆様のご意見をおうかがいし、今後の事業に役立てることを目的として行うものです。アンケートの回答はすべて個人が特定できないように処理をしたうえで使用させていただきます。

趣旨をご理解のうえ、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アンケートであなたご自身やあなたのご家族についておうかがいする場合があります。

このアンケートには年収についてうかがう内容が含まれています。

6月1日現在の状況でお答えください。

共通パート

(調査内容)

Q1 あなたの性別をお答えください。(回答は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

Q2 あなたの年齢をお答えください。

	歳
--	---

Q3 あなたがお住まいの市町村をお答えください。(回答は1つ)

<佐久地域>	<諏訪地域>	<飯伊地域>	<木曾地域>	<大北地域>	<北信地域>
1 小諸市	16 岡谷市	30 飯田市	44 上松町	58 大町市	72 中野市
2 佐久市	17 諏訪市	31 松川町	45 南木曾町	59 池田町	73 飯山市
3 小海町	18 茅野市	32 高森町	46 木曾町	60 松川村	74 山ノ内町
4 佐久穂町	19 下諏訪町	33 阿南町	47 木祖村	61 白馬村	75 木島平村
5 川上村	20 富士見町	34 阿智村	48 王滝村	62 小谷村	76 野沢温泉村
6 南牧村	21 原村	35 平谷村	49 大桑村	<長野地域>	77 栄村
7 南相木村	<上伊那地域>	36 根羽村	<松本地域>	63 長野市	78 この中にはない
8 北相木村	22 伊那市	37 下條村	50 松本市	64 須坂市	
9 軽井沢町	23 駒ヶ根市	38 売木村	51 塩尻市	65 千曲市	
10 御代田町	24 辰野町	39 天龍村	52 安曇野市	66 坂城町	
11 立科町	25 箕輪町	40 泰阜村	53 麻績村	67 小布施町	
<上小地域>	26 飯島町	41 喬木村	54 生坂村	68 高山村	
12 上田市	27 南箕輪村	42 豊丘村	55 山形村	69 信濃町	
13 東御市	28 中川村	43 大鹿村	56 朝日村	70 飯綱町	
14 長和町	29 宮田村		57 筑北村	71 小川村	
15 青木村					

Q4 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。(回答は1つ)

1 現在、結婚(事実婚を含む)している	3 結婚したことはない
2 結婚していたが、現在は離・死別した	

独身者パート < Q 4 で 2、3 と回答した人に >

【ここからは「独身の方」に、結婚や現在の生活などについてうかがいます。】

Q 5 あなたの両親と現在のあなたとの同居／別居についてうかがいます。(回答はそれぞれ1つ)

	同居	別居 (近居)	別居 (近居以外)	いない
あなたの父親	1	2	3	4
あなたの母親	1	2	3	4

※「近居」は徒歩で30分程度の距離とお考えください。

Q 6 結婚について、あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください。(回答は1つ)

1	すでに結婚する予定がある	4	いずれは結婚したい
2	すぐにでも結婚したい	5	結婚するつもりはない
3	2・3年以内に結婚したい	6	わからない

Q 7 (Q 6 で 1～4 と回答した人に)

あなたが結婚を考えたとき、次の中ではどのようなことが気になりますか。(回答はいくつでも)

1	お金を自由に使えるか	7	ファッションや食べ物の好みは制約されないか
2	職業を自由に選べるか	8	相手の両親とうまく付き合えるか
3	仕事(または学業)の時間を自由に取れるか	9	自由な人生設計ができるか
4	余暇や遊びの時間を自由に取れるか	10	自分に子育てができるか
5	住む場所が制約されないか	11	その他 具体的に:()
6	自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	12	特に気になることはない

Q 8 (Q 6 で 1～4 と回答した人に)

あなたは結婚相手を決めるとき、次の項目についてどの程度重視しますか。(回答はそれぞれ1つ)

	重視する	考慮する	あまり関係ない
相手の学歴	1	2	3
相手の職業	1	2	3
相手の収入などの経済力	1	2	3
相手の人から	1	2	3
相手の容姿	1	2	3
相手の家族構成・状況	1	2	3
共通の趣味の有無	1	2	3
自分の仕事に対する理解と協力	1	2	3
家事・育児に対する能力や姿勢	1	2	3

Q9 (Q6で2～5と回答した人に)

あなたが現在独身である理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。最大の理由、第2の理由、第3の理由をそれぞれお答えください。(回答はそれぞれ1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 結婚するにはまだ若すぎるから | 9 結婚生活を送るには年収が少ない、または結婚資金が足りない |
| 2 結婚する必要性をまだ感じないから | 10 結婚生活のための住居のめどがたたないから |
| 3 仕事(または学業)に打ち込みたいから | 11 子育てする自信がないから |
| 4 仕事(または学業)が忙しく、余裕がないから | 12 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から |
| 5 趣味や娯楽を楽しみたいから | 13 親の面倒を見る(介護をする)必要があるから |
| 6 独身の自由さや気楽さを失いたくないから | 14 名字を変えたくないから |
| 7 適当な相手にまだめぐり合わないから | 15 その他 具体的に:() |
| 8 異性とうまく付き合えないから | 16 これ以上理由はない |

Q10 (Q6で2～4と回答した人に)

あなたは「婚活」としてどのようなことを行っていますか。あるいは今後行いたいですか。

(回答はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1 友人、職場の同僚や先輩に頼む |
| 2 合コンに参加する |
| 3 インターネットサイト・SNSを活用する |
| 4 婚活パーティーに参加する |
| 5 趣味のサークルに入る |
| 6 お見合いをする |
| 7 民間の結婚相談所に登録する |
| 8 市町村や社会福祉協議会などの公的な結婚相談所に登録する |
| 9 その他 具体的に:() |
| 10 特に行っていない・行う予定はない |

Q11 行政(県や市町村)に取り組んでほしい結婚支援は何ですか。あてはまるものをお答えください。

(回答は3つまで)

- | |
|---|
| 1 各種イベント等による出会いの場の提供 |
| 2 交際にあたってのノウハウを学ぶセミナーの開催 |
| 3 結婚に関する悩み相談 |
| 4 公的な結婚相談所によるお相手紹介 |
| 5 年齢、年収、学歴等、自分の希望する条件に合う相手を検索できるデータマッチングシステムの導入 |
| 6 民間の結婚相談所やインターネットサイトの登録料・会費の補助 |
| 7 結婚や住宅に関する費用の貸与や補助 |
| 8 結婚祝い金 |
| 9 若者の結婚を応援するようなPR活動の実施 |
| 10 安定した雇用機会の提供 |
| 11 長時間労働の是正等によるワークライフバランスの推進 |
| 12 夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実 |
| 13 その他 具体的に:() |
| 14 わからない |
| 15 特になし |

既婚者パート <Q4で1と回答した人に>

【ここからは「結婚されている方（事実婚を含む）」にうかがいます。】

Q12 結婚したときのご夫婦の年齢をお答えください。

夫		歳
妻		歳

【あなた方ご夫婦の結婚までの経過についてうかがいます。】

Q13 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけで知り合いましたか。(回答は1つ)

1 学校で	7 見合いで（親戚や上役などの紹介も含む）
2 職場や仕事の関係で	8 結婚相談所で
3 アルバイトで	9 インターネットサイトやSNSで
4 幼なじみ、隣人関係	10 婚活イベントで
5 学校以外のサークル活動やクラブ活動、習い事で	11 地域のイベントで
6 友人やきょうだいを通じて	12 街なかや旅先で
	13 その他 具体的に：()

Q14 あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。(回答は2つまで)

1 年齢的に適当な時期だと感じた	6 結婚生活を送る年収の目途が立った、または結婚資金が用意できた
2 できるだけ早く一緒に暮らしたかった	7 友人や同世代の人たちの結婚
3 できるだけ早く子どもがほしかった	8 親や周囲のすすめ
4 子どもができた	9 その他 具体的に：()
5 自分または相手の仕事の事情	

Q15 結婚してよかったことは何ですか。(回答はいくつでも)

思い浮かぶことがあれば、どんなことでも「その他」にご記入ください。

1 経済的に余裕がもてる	6 生活上便利になる
2 社会的信用を得たり周囲と対等になれたりする	7 親から独立できる
3 精神的なやすらぎの場が得られる	8 親を安心させたり周囲の期待にこたえられたりする
4 愛情を感じている人と暮らせる	9 その他 具体的に：()
5 自分の子どもや家族をもてる	10 思い浮かぶものはない

共通パート

【すべての方にかがいます。】

Q16 あなたのおつとめの状況をお答えください。結婚されている方（事実婚を含む）は、配偶者（パートナー）についてもお答えください。（回答はそれぞれ1つ）

- (1) あなたご自身
- (2) あなたの配偶者（パートナー）

1 正規の社員・職員	4 自営業主・家族従業員
2 パート・アルバイト	5 無職・家事
3 派遣・嘱託・契約社員	6 学生
	7 その他 具体的に：()

【現在、お仕事をお持ちの方にかがいます。】

Q17（Q16で1～4と回答した人に）

差し支えなければ、あなたの昨年の収入（年収）をお答えください。結婚されている方は、配偶者（パートナー）の収入（年収）もお答えください。（回答はそれぞれ1つ）

- (1) あなたご自身
- (2) あなたの配偶者（パートナー）

1 なし	8 600万円台
2 1～99万円	9 700万円台
3 100万円台	10 800万円台
4 200万円台	11 900万円台
5 300万円台	12 1,000万円以上
6 400万円台	13 覚えていない・答えたくない
7 500万円台	

Q18 育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方はどれですか。（回答は1つ）

1 結婚も出産もせず、働き続ける	5 出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く
2 結婚はするが、出産しないで働き続ける	6 出産退職後は、育児に専念する
3 出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける	7 出産の有無に関係なく、結婚後働かない
4 出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく	8 その他 具体的に：()
	9 わからない

【お子さんをお持ちのすべての方にかがいます。】

Q22 子育てしてよかったことと思うことを選んでください。(回答はいくつでも)
思い浮かぶことがあれば、どんなことでも「その他」にご記入ください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 家庭が明るくなる | 6 親族や身近な人が喜ぶ |
| 2 生活に張り合いができる | 7 地域とのつながりができる |
| 3 自分も精神的に成長する | 8 その他 具体的に：() |
| 4 子育てを通じて友人が増える | 9 思い浮かぶものはない |
| 5 子育てを通じて自分の視野が広がる | |

Q23 1人目のお子さんを出産したときの仕事についてお答えください。(回答は1つ)

- | |
|---------------------------------------|
| (継続) |
| 1 育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である) |
| 2 育児休業を取得せず、継続して働いた(働いている、または働く予定である) |
| (無職・退職) |
| 3 妊娠前から無職だった |
| 4 妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した |
| 5 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した |
| 6 子どもが3歳になって以降に退職した |
| 7 わからない・答えたくない |

【仕事を辞めた方にかがいます。】(Q23で4～6と回答した人に)

Q24 1人目のお子さんの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた一番の理由は何ですか。(回答は1つ)

- | |
|--|
| 1 家事・育児に専念するため、自発的に辞めた |
| 2 結婚・出産・育児を機に辞めたが、理由は結婚・出産・育児等に直接関係ない |
| 3 仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった |
| 4 子をもつ前と仕事内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった) |
| 5 その他 具体的に：() |
| 6 特にない |

【お子さんが2人以上いるすべての方にかがいます。】

Q25 2人目のお子さんを出産したときの仕事についてお答えください。(回答は1つ)

- | |
|---------------------------------------|
| (継続) |
| 1 育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である) |
| 2 育児休業を取得せず、継続して働いた(働いている、または働く予定である) |
| (無職・退職) |
| 3 妊娠前から無職だった(1人目出産後、離職している場合を含む) |
| 4 妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した |
| 5 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した |
| 6 子どもが3歳になって以降に退職した |
| 7 わからない・答えたくない |

【仕事を辞めた方にかがいます。】(Q25で4～6と回答した人に)

Q26 2人目のお子さんの妊娠・出産・育児の時期に仕事を辞めた一番の理由は何ですか。(回答は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 家事・育児に専念するため、自発的に辞めた |
| 2 | 結婚・出産・育児を機に辞めたが、理由は結婚・出産・育児等に直接関係ない |
| 3 | 仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった |
| 4 | 子をもつ前と仕事内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった) |
| 5 | その他 具体的に:() |
| 6 | 特にない |

【お子さんをお持ちのすべての方にかがいます。】

Q27 お子さんが3歳になるまでの間、あなたや配偶者(パートナー)のご両親と同居していましたか。(回答はそれぞれ1つ)

※3歳になるまでの間で、もっともあてはまる状況についてお答えください。

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。また、お子さんが3歳未満の場合には、現在の状況についてお答えください。

	同居	別居(近居)	別居(近居以外)	いなかった	わからない
あなたの父親	1	2	3	4	5
あなたの母親	1	2	3	4	5
配偶者(パートナー)の父親	1	2	3	4	5
配偶者(パートナー)の母親	1	2	3	4	5

※「近居」は徒歩で30分程度の距離とお考えください。

Q28 お子さんが3歳になるまでの間、あなたや配偶者(パートナー)のご両親からの子育ての手助けはありましたか。もっともあてはまる状況についてお答えください。(回答はそれぞれ1つ)

※3歳になるまでの間で、もっともあてはまる状況についてお答えください。

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。また、お子さんが3歳未満の場合には、現在の状況についてお答えください。

	ほとんど なかった	ときどき あった	ひんぱんに あった	日常的に あった
あなたの父親	1	2	3	4
あなたの母親	1	2	3	4
配偶者(パートナー)の父親	1	2	3	4
配偶者(パートナー)の母親	1	2	3	4

Q29 お子さんが3歳になるまでの間、以下の制度や施設を利用しましたか。あてはまる状況についてお答えください。(回答はいくつでも)

※3歳になるまでの間で、もっともあてはまる状況についてお答えください。

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。また、お子さんが3歳未満の場合には、現在までの状況についてお答えください。

1 産前・産後休業制度	5 短時間勤務制度 (女親)
2 育児休業制度 (男親)	6 企業内保育所
3 育児休業制度 (女親)	7 どれも利用しなかった
4 短時間勤務制度 (男親)	

Q30 (Q29で2、3と回答した人に)

実際に取得した育児休業の期間と、理想の育児休業の期間をそれぞれお答えください。

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。

<男親の育児休業> (Q29で2と回答した人に)

(1) 実際に取得した (取得する予定) の育児休業期間 年 ヶ月
 (2) 理想の育児休業期間 年 ヶ月

実際に取得した (取得する予定) の育児休業期間は、わからない・覚えていない

<女親の育児休業> (Q29で3と回答した人に)

(3) 実際に取得した (取得する予定) の育児休業期間 年 ヶ月
 (4) 理想の育児休業期間 年 ヶ月

実際に取得した (取得する予定) の育児休業期間は、わからない・覚えていない

Q31 (Q29で2と回答しなかった人、Q30で実際に取得した育休期間が理想より短かった人に)

男親が育児休業を取得しなかった、または理想の育児休業期間より実際に取得した期間が短い理由をお答えください。(回答はいくつでも)

1 会社で育児休業制度が整備されていなかったから
2 職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だった (会社や職場の理解がなかった) から
3 休業取得による、所得減等の心配があったから
4 残業の多い職場だったから
5 休業前と同じ仕事や職場に復職できない (変化に対応できない) と思ったから
6 昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がありそうだったから
7 配偶者 (パートナー) や家族からの後押しがなかったから
8 会社での手続き等が煩雑でわかりづらかった、または制度について十分わかっていなかったから
9 配偶者 (パートナー) や家族が家事・育児を担ってくれていたから
10 そもそも取得をする必要性を感じていなかったから
11 育児休業は男性ではなく、女性が取得するべきものだと思っていたから
12 その他 具体的に： ()
13 わからない・覚えていない
14 子どもが3歳になるまでの間は働いていなかった

Q32 (Q29で3と回答しなかった人、Q30で実際に取得した育休期間が理想より短かった人に)
 女親が育児休業を取得しなかった、または理想の育児休業期間より実際に取得した期間が短い理由をお
 答えください。(回答はいくつでも)

- | | |
|----|---|
| 1 | 会社で育児休業制度が整備されていなかったから |
| 2 | 職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だった(会社や職場の理解がなかった)から |
| 3 | 休業取得による、所得減等の心配があったから |
| 4 | 残業の多い職場だったから |
| 5 | 休業前と同じ仕事や職場に復職できない(変化に対応できない)と思ったから |
| 6 | 昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がありそうだったから |
| 7 | 配偶者(パートナー)や家族からの後押しがなかったから |
| 8 | 会社での手続き等が煩雑でわかりづらかった、または制度について十分わかっていなかったから |
| 9 | 配偶者(パートナー)や家族が家事・育児を担ってくれていたから |
| 10 | そもそも取得をする必要性を感じていなかったから |
| 11 | その他 具体的に：() |
| 12 | わからない・覚えていない |
| 13 | 子どもが3歳になるまでの間は働いていなかった |

【現在結婚(事実婚を含む)されている方にうかがいます。】

Q33 あなた方ご夫婦の現実の分担と、理想の分担をそれぞれお答えください。

(1) 現在の家事の分担	夫：	<input type="text"/> %	妻：	<input type="text"/> %
(2) 理想の家事の分担	夫：	<input type="text"/> %	妻：	<input type="text"/> %
(3) 現在の育児の分担	夫：	<input type="text"/> %	妻：	<input type="text"/> %
(4) 理想の育児の分担	夫：	<input type="text"/> %	妻：	<input type="text"/> %

※(3)(4)は子どもがいる人のみを対象。

【お子さんをお持ちのすべての方にうかがいます。】

Q34 あなたは、過去5年以内(現在利用も含む)に以下の子育てサービスを利用しましたか。(回答はいくつでも)

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 1 保育園 | 8 ファミリーサポートセンター |
| 2 幼稚園 | 9 児童館 |
| 3 認定こども園 | 10 放課後児童クラブ |
| 4 延長保育 | 11 放課後子ども教室 |
| 5 休日保育 | 12 利用した子育て支援サービスはこの中にはない |
| 6 一時預かり(一時保育) | 13 いずれのサービスも対象年齢の子どもがいなかった |
| 7 病児・病後児保育 | |

※児童館：すべての子どもを対象

※放課後児童クラブ：保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生を対象

※放課後子ども教室：すべての小学生を対象

Q35 あなたは、現在利用している、または過去5年間に利用した子育て支援サービスに対して総合的に満足していますか（利用時間、サービス内容、スタッフ、料金等）。（回答は1つ）

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。

	満足	やや満足	あまり満足していない	満足していない
保育園	1	2	3	4
幼稚園	1	2	3	4
認定こども園	1	2	3	4
延長保育	1	2	3	4
休日保育	1	2	3	4
一時預かり（一時保育）	1	2	3	4
病児・病後児保育	1	2	3	4
ファミリーサポートセンター	1	2	3	4
児童館	1	2	3	4
放課後児童クラブ	1	2	3	4
放課後子ども教室	1	2	3	4

Q36 Q34 で選択しなかった（利用していない）子育て支援サービスについて、利用したことがない理由をお答えください。（回答はいくつでも）

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。

	必要がなかったから	身近でサービスの提供がなかったから	費用が高かったから	利用の仕方がわからなかったから	そうしたサービスがあることを知らなかったから	その他 具体的に： ()	対象年齢の子どもがないから
保育園	1	2	3	4	5	6	7
幼稚園	1	2	3	4	5	6	7
認定こども園	1	2	3	4	5	6	7
延長保育	1	2	3	4	5	6	7
休日保育	1	2	3	4	5	6	7
一時預かり（一時保育）	1	2	3	4	5	6	7
病児・病後児保育	1	2	3	4	5	6	7
ファミリーサポートセンター	1	2	3	4	5	6	7
児童館	1	2	3	4	5	6	7
放課後児童クラブ	1	2	3	4	5	6	7
放課後子ども教室	1	2	3	4	5	6	7

Q37 (現在サービスを未利用の人に)

今後利用したい子育て支援サービスをお答えください。(回答はいくつでも)

※お子さんが複数いる方は、一番下のお子さんの時のことをお答えください。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 保育園 | 8 ファミリーサポートセンター |
| 2 幼稚園 | 9 児童館 |
| 3 認定こども園 | 10 放課後児童クラブ |
| 4 延長保育 | 11 放課後子ども教室 |
| 5 休日保育 | 12 特にない |
| 6 一時預かり(一時保育) | 13 対象年齢の子どもがいない |
| 7 病児・病後児保育 | |

【お子さんをお持ちの方、お子さんを希望している方にかがいます。】

Q38 (Q19 (1) で1人以上、または、Q19 (2) で1人以上と回答した人に)

子どもを産み、育てる上で、過去の経験や用来の希望も含めて、行政(県や市町村)に充実を希望する出産・子育て支援は何ですか。優先順位が高いものを3つまでお答えください。(回答は3つまで)

【経済的支援】

- 1 妊娠・出産に伴う医療費の補助
- 2 保育園・幼稚園などの費用の補助
- 3 ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの費用の補助
- 4 住居費用の補助

【サービスの充実】

- 5 妊娠・出産に関する医療機関の充実
- 6 保育園・幼稚園などの保育・教育内容の充実
- 7 保育園・幼稚園などのスタッフの人員の充実
- 8 保育園・幼稚園などのスタッフの対応の質向上
- 9 教育費の補助や奨学金制度の充実
- 10 病児・病後児保育施設の充実
- 11 一時預かりをしてもらえる施設の充実
- 12 休日保育の充実
- 13 地域や自治体の育児支援サービスの充実
- 14 子育ての悩みを相談できる支援体制の充実
- 15 児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実
- 16 無料または割安な学習支援の充実
- 17 その他 具体的に：()
- 18 特にない

Q39 子どもを産み、育てる上で勤務先や社会環境に充実を求めるものは何ですか。(回答はいくつでも)

【勤務先の制度の充実】

- 1 産休・育児休業制度
- 2 短時間勤務制度
- 3 勤務先の出産・育児に対する理解

【社会環境】

- 4 父親が家事・育児への参画・分担に理解を示し、積極的に取り組める環境
- 5 若者世代が家族や子育てに明るいイメージや肯定的な価値観を持っていること
- 6 赤ちゃんとのふれあいなど、未成年期における家庭や子育てに関する教育
- 7 地域や近隣の支え合い意識
- 8 子どもに対する犯罪の防止など、地域における治安の確保
- 9 親同士の交流や相談の場が身近に利用できること
- 10 公共の場で子連れでもあたたかく見守ってもらえること
- 11 その他 具体的に：()
- 12 特にない

【妊娠中の方、年度末年齢18歳以下のお子さんがある方にうかがいます。】

Q40 ながの子育て家庭優待パスポート事業をどれくらいの頻度で活用していますか。

※ながの子育て家庭優待パスポート事業：妊婦さんのいる世帯、年度末年齢18歳以下のお子さんがある世帯が買い物などの際に、パスポートカードを提示すれば、割引などの各種サービスを受けることができる事業

- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 1 ほぼ毎日使う | 7 半年に1回程度使う |
| 2 週に3～4回使う | 8 ほとんど使わない |
| 3 週に1～2回使う | 9 全く使ったことがない |
| 4 月に2～3回使う | 10 事業について知らない |
| 5 月に1回程度使う | 11 事業の対象ではない(妊婦や年度末年齢18歳以下のお子さんはいない) |
| 6 2・3ヶ月に1回程度使う | |

※ながの子育て家庭優待パスポート事業についてはこちらから

<http://nagano-kosodate.net/work/kosodate/>

Q41 (Q40で1～5と回答した人に)

ながの子育て家庭優待パスポート事業で、協賛店舗が増えてほしい業種は何ですか。(回答は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 スーパー・食料品店 | 12 ファストフード |
| 2 コンビニエンスストア | 13 理容・美容 |
| 3 衣料品、履物 | 14 クリーニング |
| 4 薬局、ドラッグストア | 15 住まい |
| 5 スポーツ用品 | 16 自動車、ガソリンスタンド |
| 6 本・文具・玩具 | 17 金融・保険 |
| 7 時計・眼鏡等 | 18 学習塾、学校等 |
| 8 家電 | 19 文化施設 |
| 9 携帯電話、通信 | 20 娯楽施設 |
| 10 電車・バス・タクシー | 21 その他 具体的に：() |
| 11 レストラン、食堂 | 22 特にない |

※協賛店舗検索はこちらから <http://pass.nagano-kosodate.net/ksearch/>

Q42 ながの子育て家庭優待パスポート事業で、あったらよいと思う特典、サービス内容は何ですか。
(回答は3つまで)

1 割引サービス	6 トイレにベビーキープがある
2 粗品プレゼント	7 授乳スペースがある
3 ポイントカードのポイントアップ	8 キッズスペースがある
4 粉ミルクのお湯の提供	9 ベビーカー入店可能
5 おむつ替えスペースがある	10 その他 具体的に：()
	11 特にない

【お子さんをお持ちのすべての方にかがいます。】

Q43 子育てをされていて、困った経験、悩んでいること、不安なことはありますか。どんなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。

(例：近くに相談できる人がいない、公共機関を子連れで利用しにくい など)

自由記述

長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査報告書

平成29年8月

調査機関：株式会社インテージリサーチ

発行：長野県将来世代応援県民会議

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7207 (直通) fax 026-235-7087

ホームページアドレス <http://nagano-kosodate.net/>

メールアドレス shoushika@pref.nagano.lg.jp

